

第2次総合計画検証結果及び第3次総合計画策定に関する市民アンケート

報告書（案）

目次

1. 南アルプス市の現状	1
1.1. 問 1：南アルプス市の魅力	1
1.2. 問 3～5：地域における幸福度・満足度	4
1.3. 問 7～11：地域活動・住民参加	9
2. 各施策の現状と課題	25
2.1. 概要	25
2.2. 安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成	28
2.3. とともに生き支えあうまちの形成	42
2.4. うるおいと活力のある快適なまちの形成	62
2.5. 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成	78
2.6. 未来をひらく経営型行政運営の形成	88
3. これからの南アルプス市	94
3.1. 問 16：南アルプス市の将来像	94
3.2. 問 6：10年後の幸福度	98
3.3. 問 12～14：土地利用	100
3.4. 子育て	110

1. 南アルプス市の現状

令和5年度に、南アルプス市民を対象に実施した「第3次南アルプス市総合計画の策定に関する市民アンケート（以下、「市民アンケート」という。）の結果から本市の現状についてまとめる。

1.1. 問1：南アルプス市の魅力

(1) 全体

南アルプス市が誇れる魅力は何かを聞いたところ、「南アルプス連峰など豊かな自然に恵まれている」が49.8%と最も高く、次いで「果樹などの農産物が豊富である」が47.8%となっており、この2項目が5割弱と特に高い割合となっている。

それ以降は、「日常の買い物に便利」が25.5%、「果樹園など良好な景観が形成されている」が20.4%と続いている。

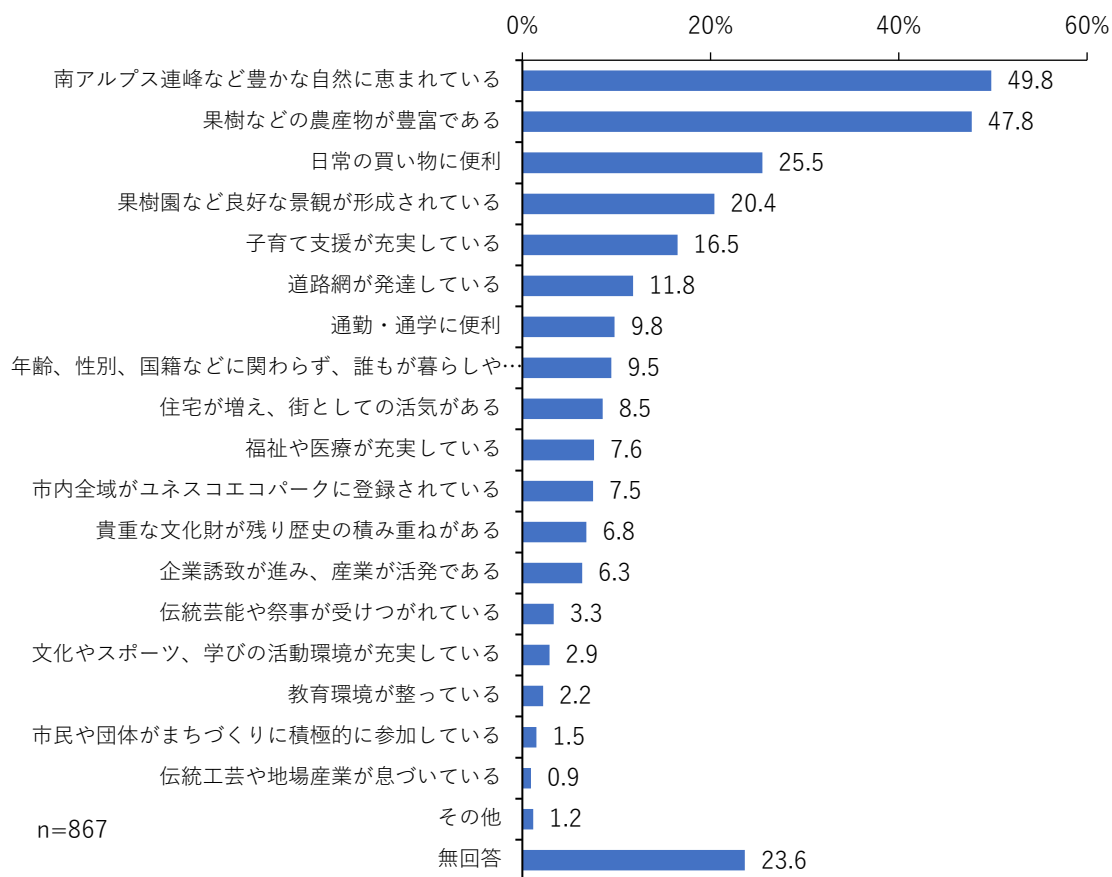


図1 南アルプス市が誇れる魅力 (MA)

(2) 性別

性別でみると、男性では、「住宅が増え、街としての活気がある」、「果樹園など良好な景観が形成されている」、「道路網が発達している」、「企業誘致が進み、産業が活発である」など、地域の発展と同時に地域の景観に関する項目の割合が比較的高い。また、女性では、「南アルプス連峰など豊かな自然に恵まれている」、「果樹などの農産物が豊富である」、「子育て支援が充実している」、「年齢、性別、国籍などに関わらず、誰もが暮らしやすい地域である」など、自然や農産物、暮らしに関する項目の割合が高くなっている。

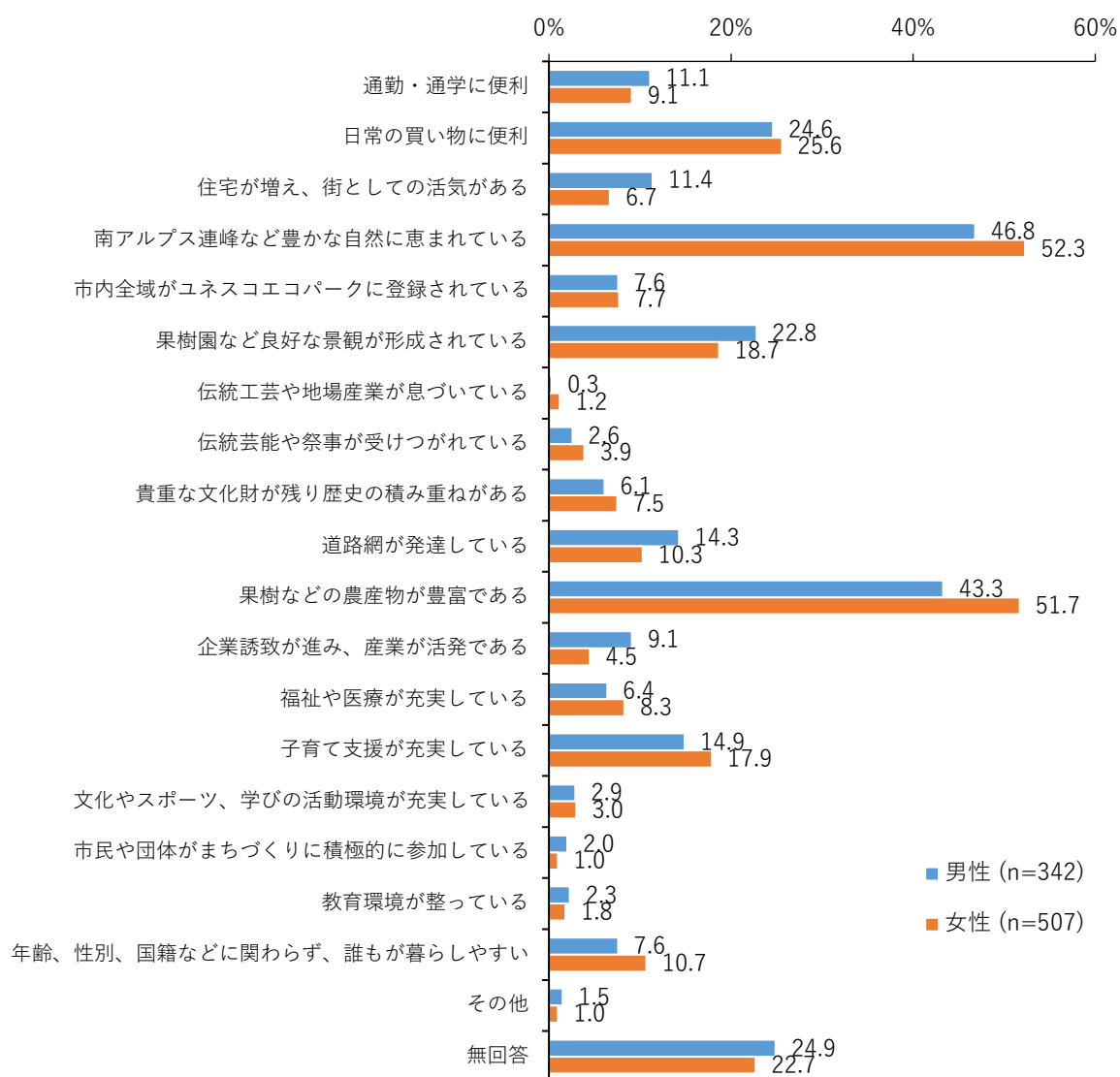


図 2 性別×南アルプス市が誇れる魅力 (MA)

(3) 年齢

年齢で見ると、20～30歳代の子育て世代を中心に「子育て支援が充実している」の割合が高くなっていることから、子育て世代が支援内容に魅力を感じていると考えられる。

また、70歳以上では、「福祉や医療が充実している」は割合が高くなっており、実際に利用しているサービス等に魅力を感じていると考えられる。

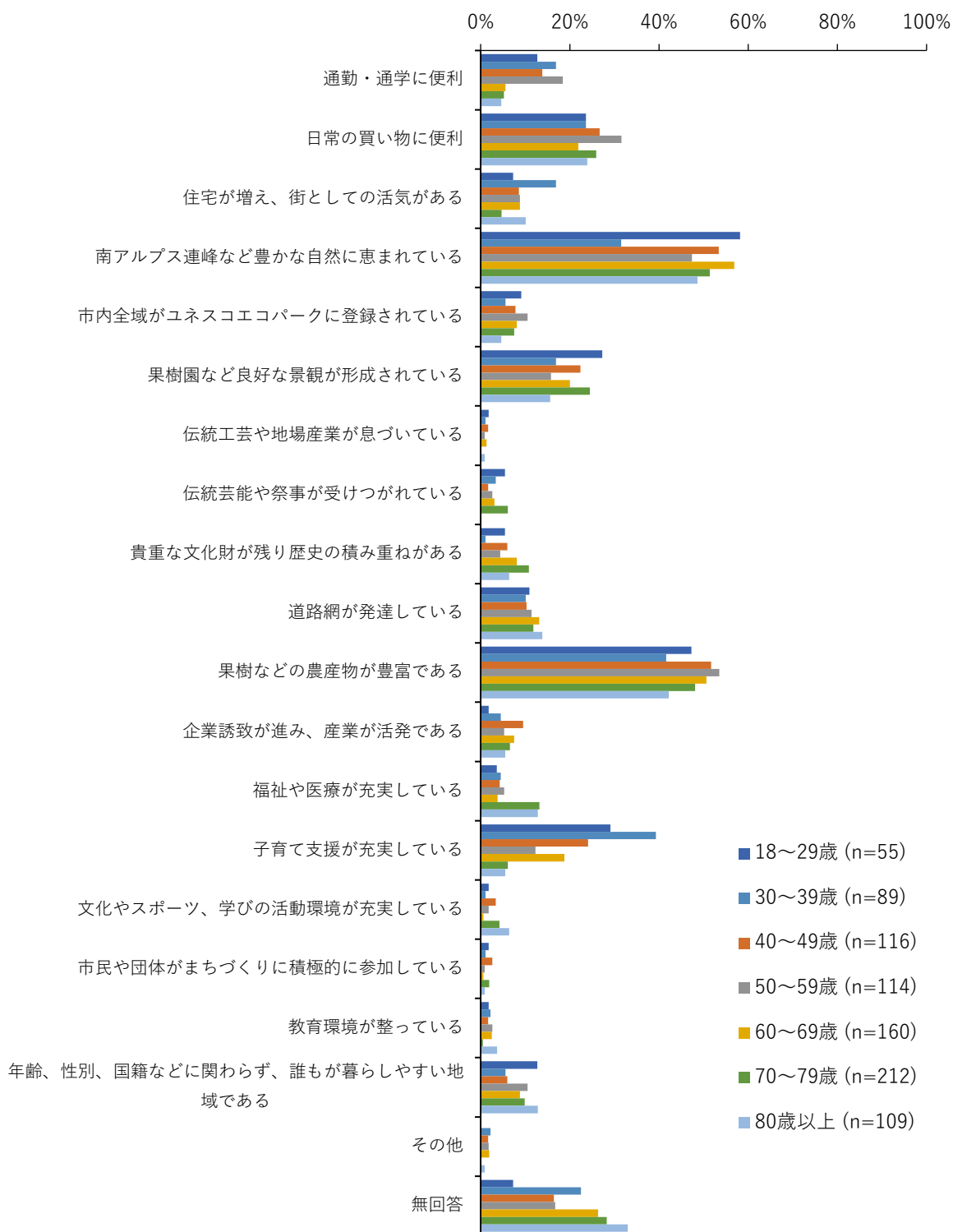


図 3 年齢×南アルプス市が誇れる魅力 (MA)

1.2. 問3～5：地域における幸福度・満足度

1.2.1. 市民の幸福度

(1) 全体

「あなたは、現在、どの程度幸せですか」という質問に対し、「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として答えてもらったところ、「8点」が21.7%と最も高く、次いで「5点」が18.5%、「7点」が18.1%となっている。また、全体の平均は6.8点となっている。

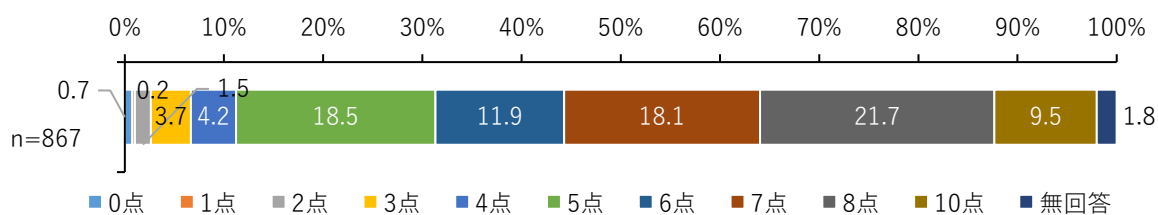


図4 市民の幸福度 (SA)

一般社団法人スマートシティ・インスティテュートが、令和5年度に全国で実施した都道府県別の地域幸福度(Well-Being)調査(以下、「地域幸福度調査」という。)のうち、山梨県における幸福度の調査結果と比較すると、南アルプス市の平均が6.8点であるのに対して山梨県の平均が6.3点であることから、南アルプス市の幸福度が高いことが分かる。点数別では、南アルプス市では8点が高いのに対して山梨県は5点が高くなっている。

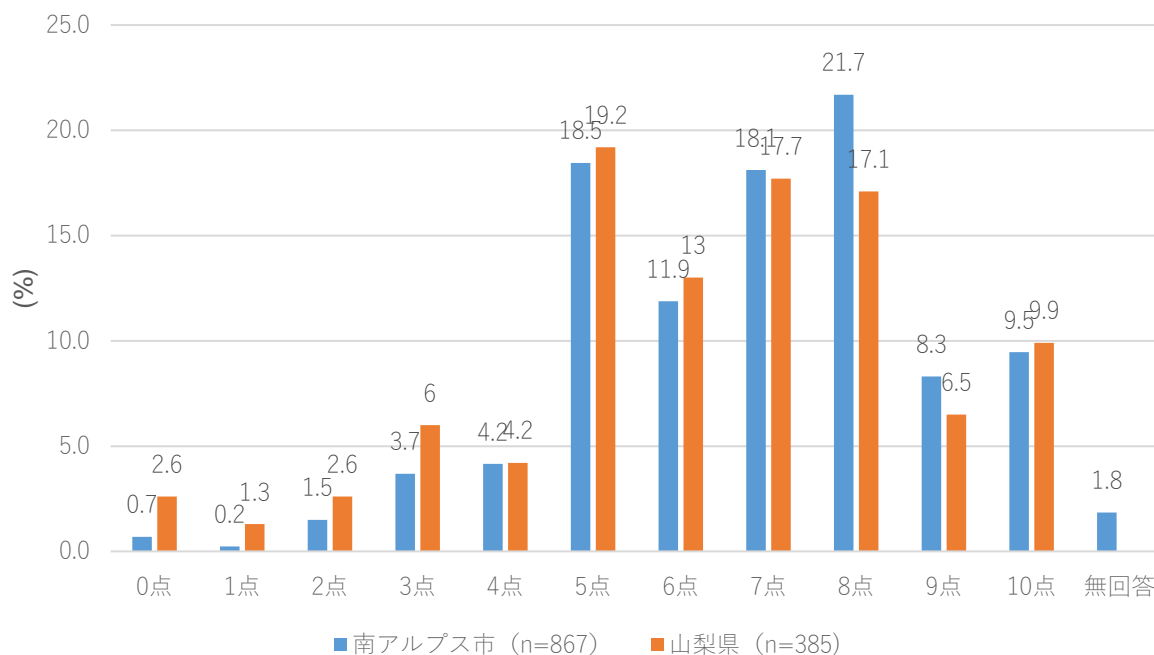


図5 市民の幸福度 (南アルプス市・山梨県)

(2) 性別・年齢・家族構成・居住地区・居住年数

回答者の属性別でみた場合、性別では女性、年齢では40歳代、家族構成では、未成年の子どもがいる世帯、居住年数では6～10年が、それぞれ最も高くなっている。また、居住地区では、幸福度に大きな違いはみられない。

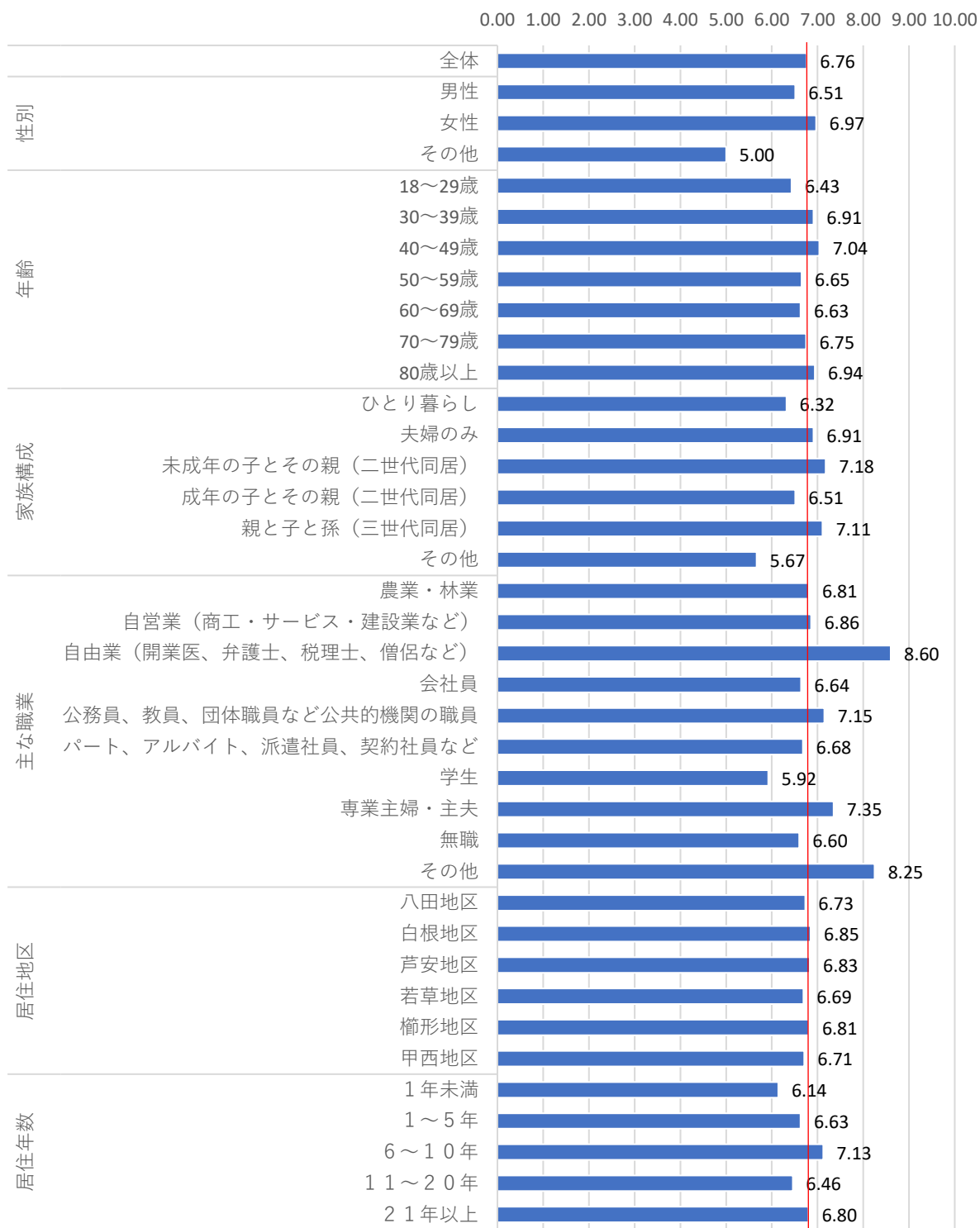


図 6 幸福度（性別・年齢・家族構成・居住地区・居住年数）

1.2.2. 地域の暮らしへの満足度

「あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか」という質問に対し、「とても不満」を0点、「とても満足」を10点として答えてもらったところ、「5点」が20.8%と最も高く、次いで「7点」が18.5%、「8点」が18.1%となっている。また、全体の平均は6.4点となっている。

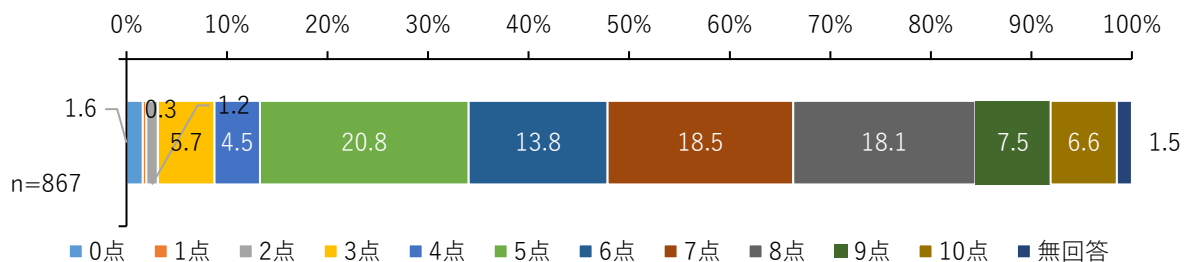


図 7 市民の暮らしへの満足度 (SA)

また、満足度を前述の幸福度と比較すると、「8点」や「10点」で幸福度よりも低くなっているのに対して、「5点」「6点」では幸福度よりも満足度の方が高くなっている。また、満足度の全体平均6.4点は、幸福度の6.8点よりも低くなっている。

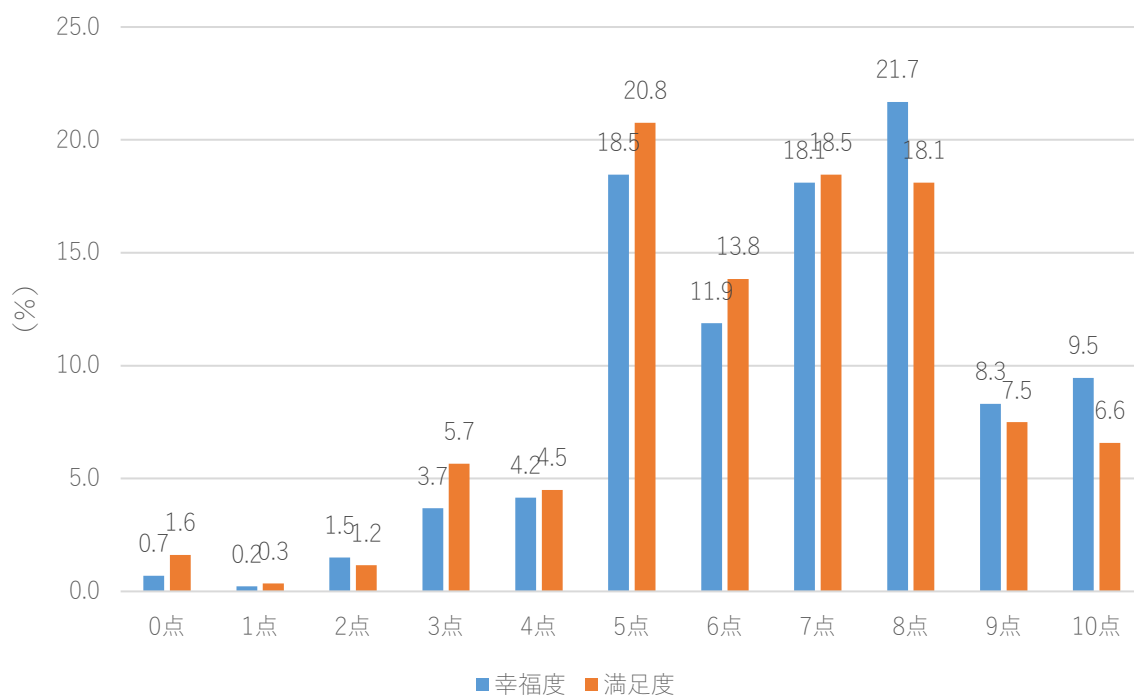


図 8 市民の幸福度と満足度の比較 (SA)

さらに、地域幸福度調査における山梨県の調査結果と比較すると、南アルプス市の平均が 6.4 点であるのに対して山梨県の平均が 6.2 点であることから、南アルプス市の満足度の方が高いことが分かる。点数別では、南アルプス市、山梨県ともに 5 点が最も高く、次いで 7 点となっている。

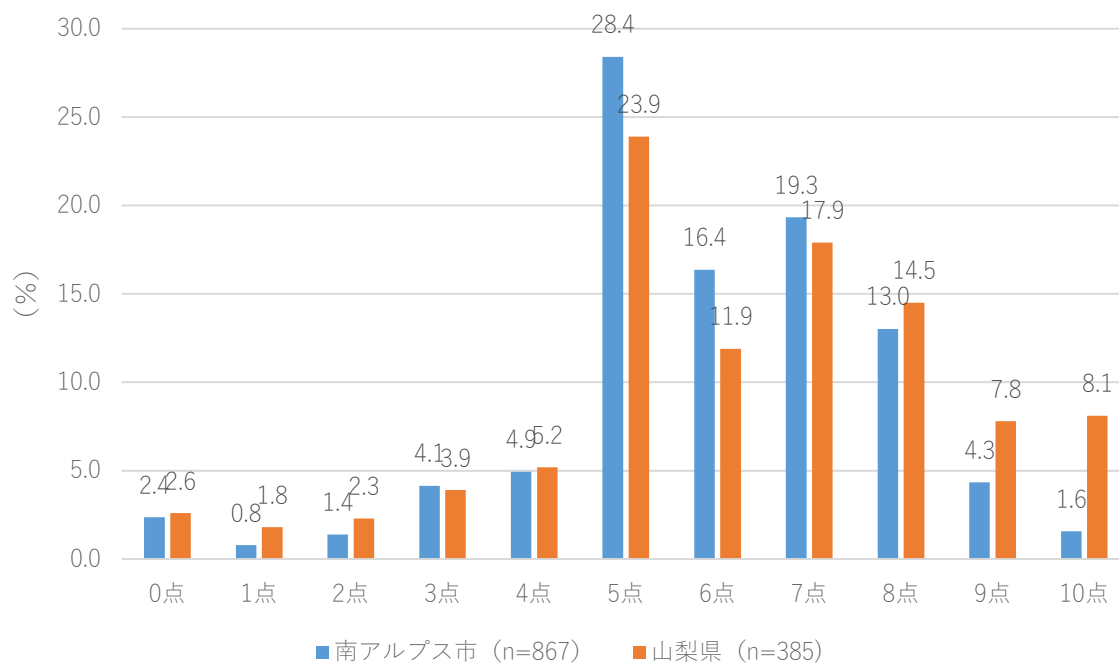


図 9 市民の暮らしへの満足度の比較 (南アルプス市・山梨県)

1.2.3. 自治会内の幸福度

「あなたの自治会の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか」という質問に対し、「とても不満」を0点、「とても満足」を10点として答えてもらったところ、「分からない」が41.5%で最も高く、次いで「5点」が16.6%「7点」が11.3%となっている。また、全体の平均は5.9点となっている。地域幸福度調査における山梨県の調査結果と比較すると、山梨県の平均が6.2点であることから、南アルプス市における自治会内の幸福度の方が低いことが分かる。

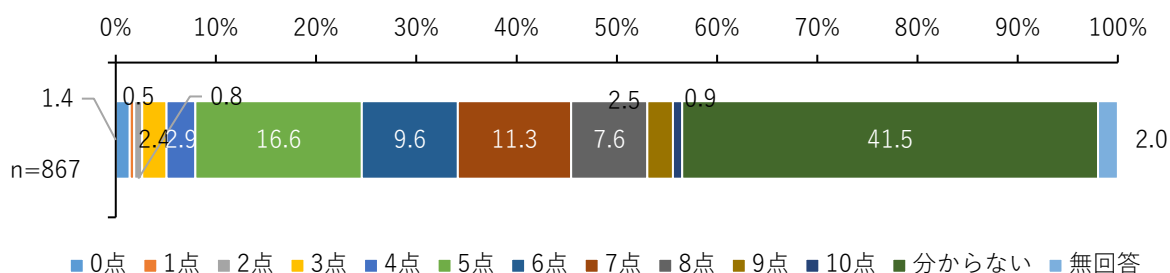


図 10 自治会内の幸福度 (SA)

また、「分からない」と「無回答」を除いた本市における自治体内の幸福度と山梨県の調査結果を比較すると、「5点」、「7点」及び「10点」の割合が山梨県より低くなっている半面、「0点」、「3点」、「4点」及び「6点」など低い評価を中心に高い割合となっている。

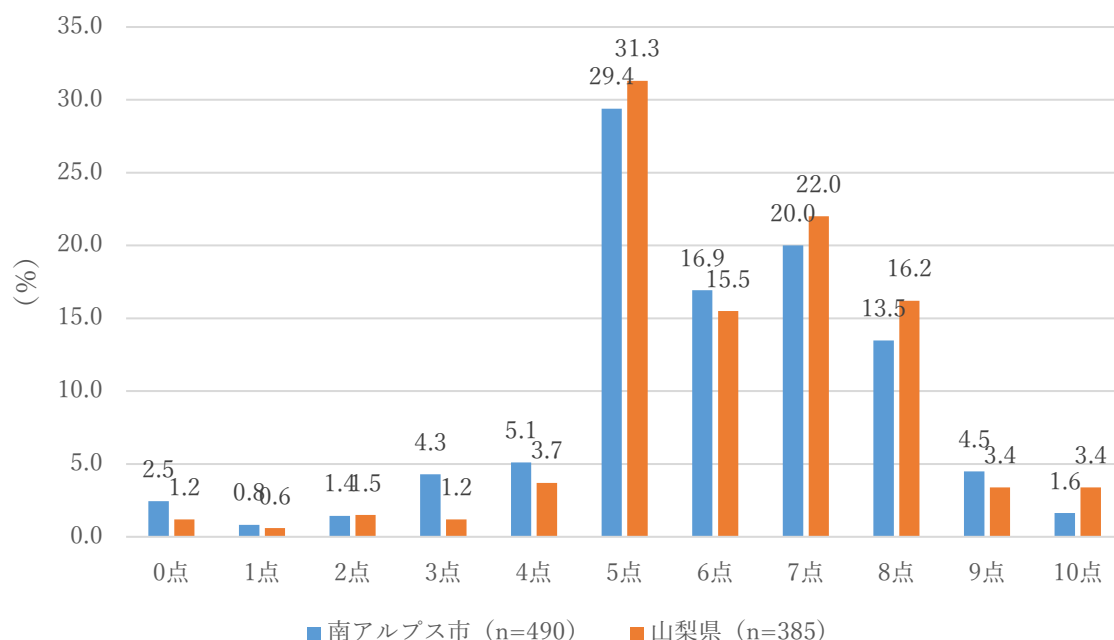


図 11 自治会内の幸福度 (南アルプス市・山梨県)

1.3. 問 7～11：地域活動・住民参加

市民アンケート結果から、自治会の役割や市民の地域活動への参加意向などについて以下にまとめます。

1.3.1. 自治会の役割

(1) 全体

「地域の自治会組織（区や組など）の役割として大切なことは何だと思うか」聞いたところ、「ごみ処理や子育て支援などの行政サービスが地域でスムーズに提供されるよう協力する」が59.4%で最も高く、次いで「自主防災組織として住民の安全を守る」が42.2%、「住民の意見や要望をとりまとめ、市役所や市議会に働きかける」が41.3%などとなっている。

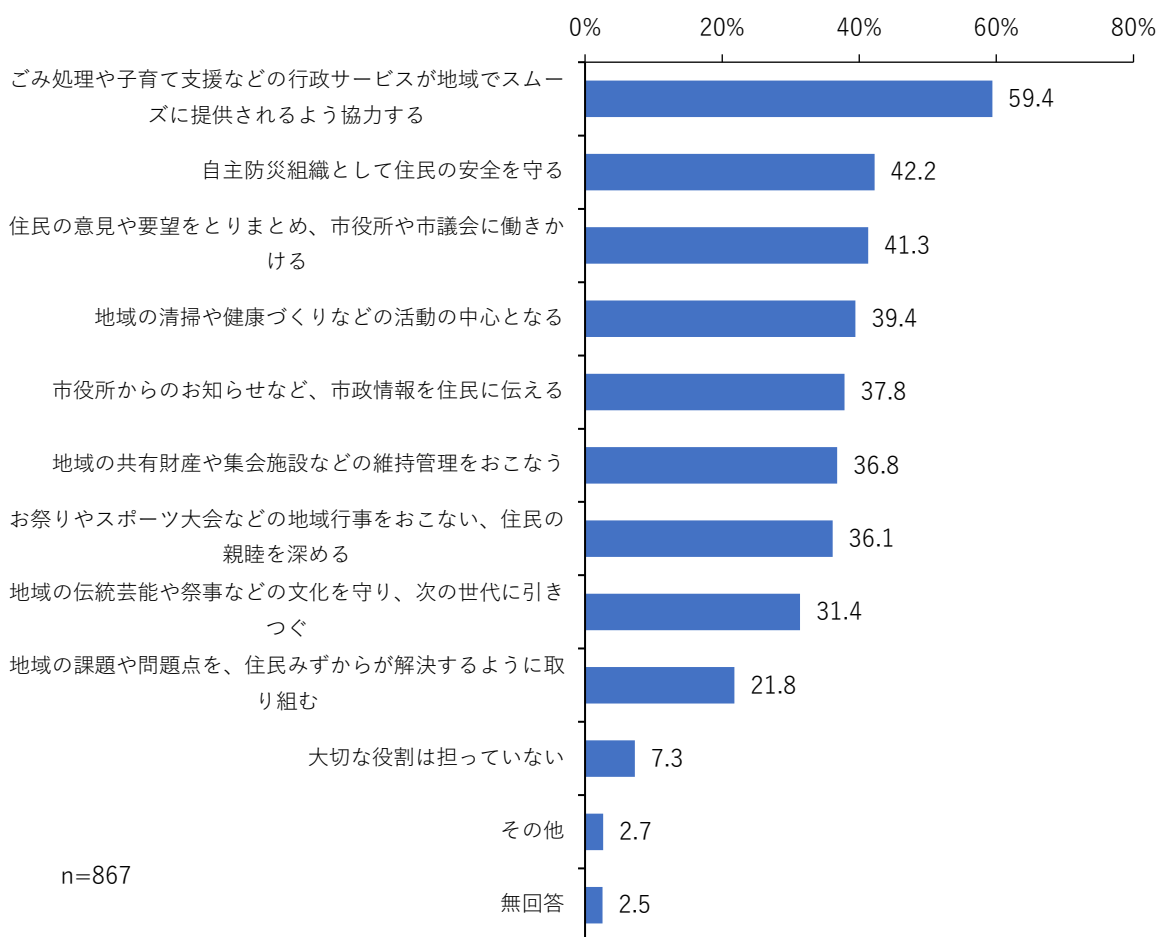


図 12 自治会組織（区や組など）の役割として大切なこと（MA）

(2) 性別

性別で見ると、男女に大きな差異はないものの、「地域の共有財産や集会施設などの維持管理をおこなう」、「お祭りやスポーツ大会などの地域行事をおこない、住民の親睦を深める」などの項目において男性の割合が比較的高くなっている。

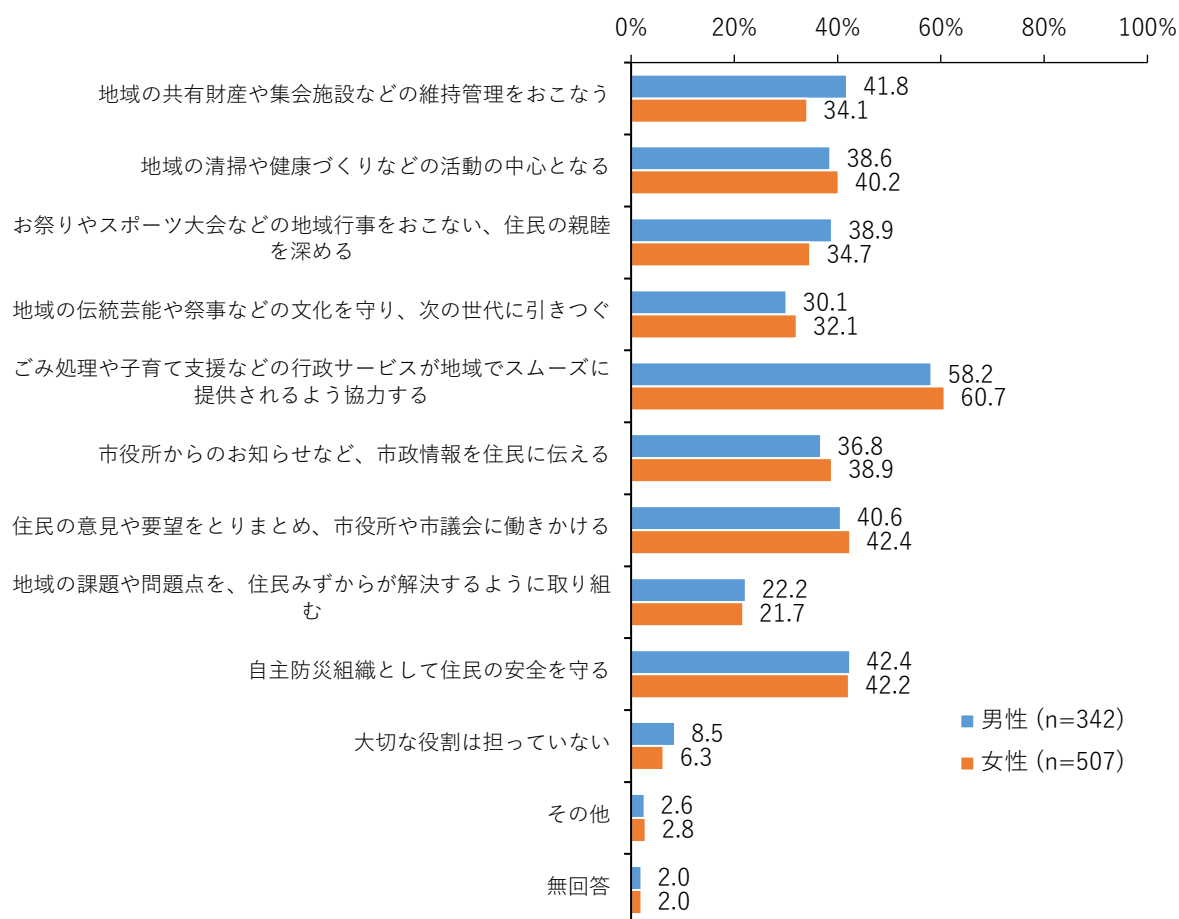


図 13 性別×自治会組織（区や組など）の役割として大切なこと（MA）

(3) 年齢

年齢で見ると、「地域の伝統芸能や祭事などの文化を守り、次の世代に引きつぐ」、「市役所からのお知らせなど、市政情報を住民に伝える」、「地域の課題や問題点を、住民みずからが解決するように取り組む」の項目で、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向がみられる。

一方で、「地域の清掃や健康づくりなどの活動の中心となる」、「お祭りやスポーツ大会などの地域行事をおこない、住民の親睦を深める」、の項目で、40～50歳代の割合が低くなっている。

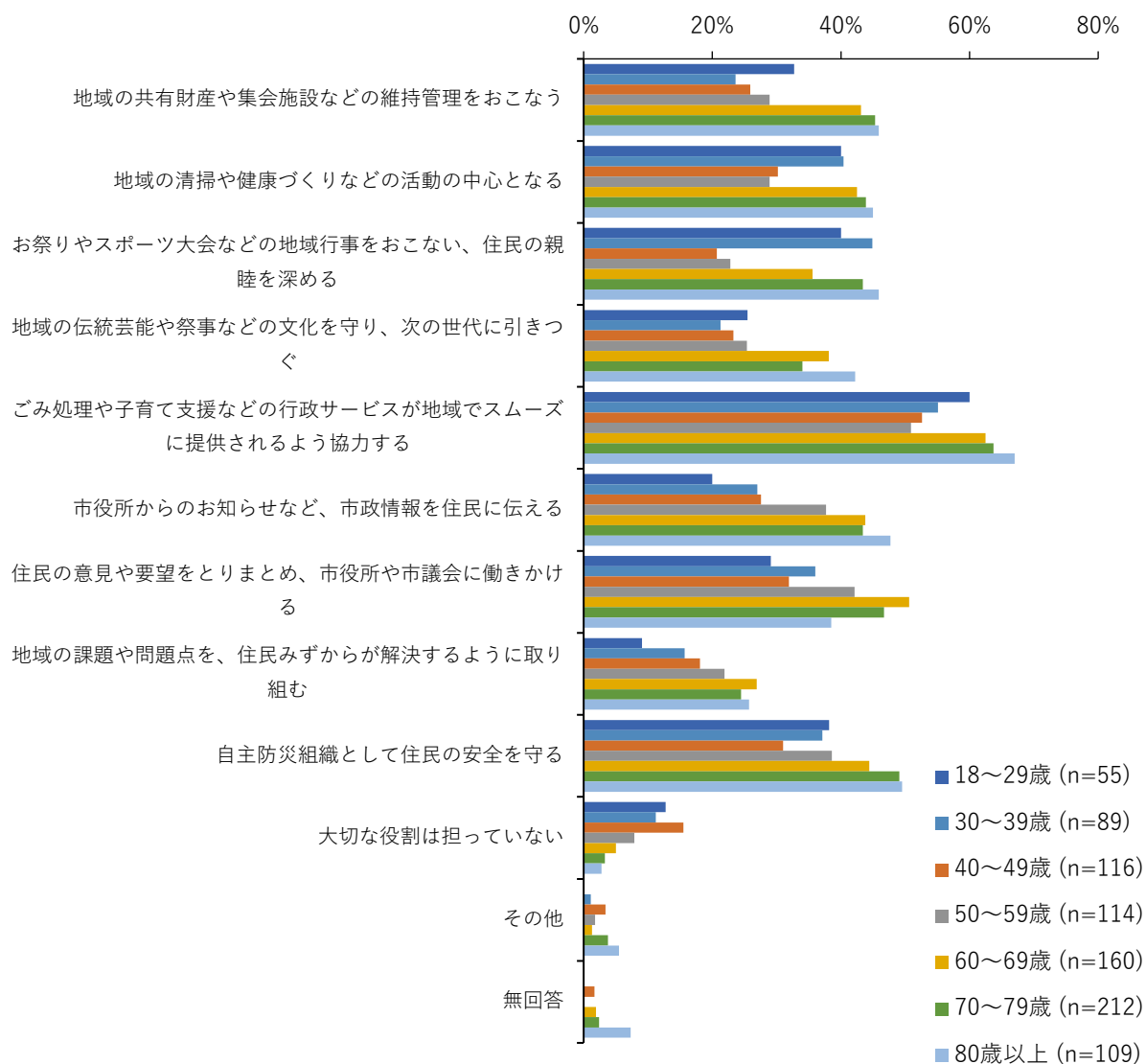


図 14 年齢×自治会組織（区や組など）の役割として大切なこと（MA）

(4) 居住地区

居住地区では、大きな差異はみられないものの、「自主防災組織として住民の安全を守る」で橿形地区の割合が高かったほか、「住民の意見や要望をとりまとめ、市役所や市議会に働きかける」では、白根地区・橿形地区の割合が比較的高くなっている。

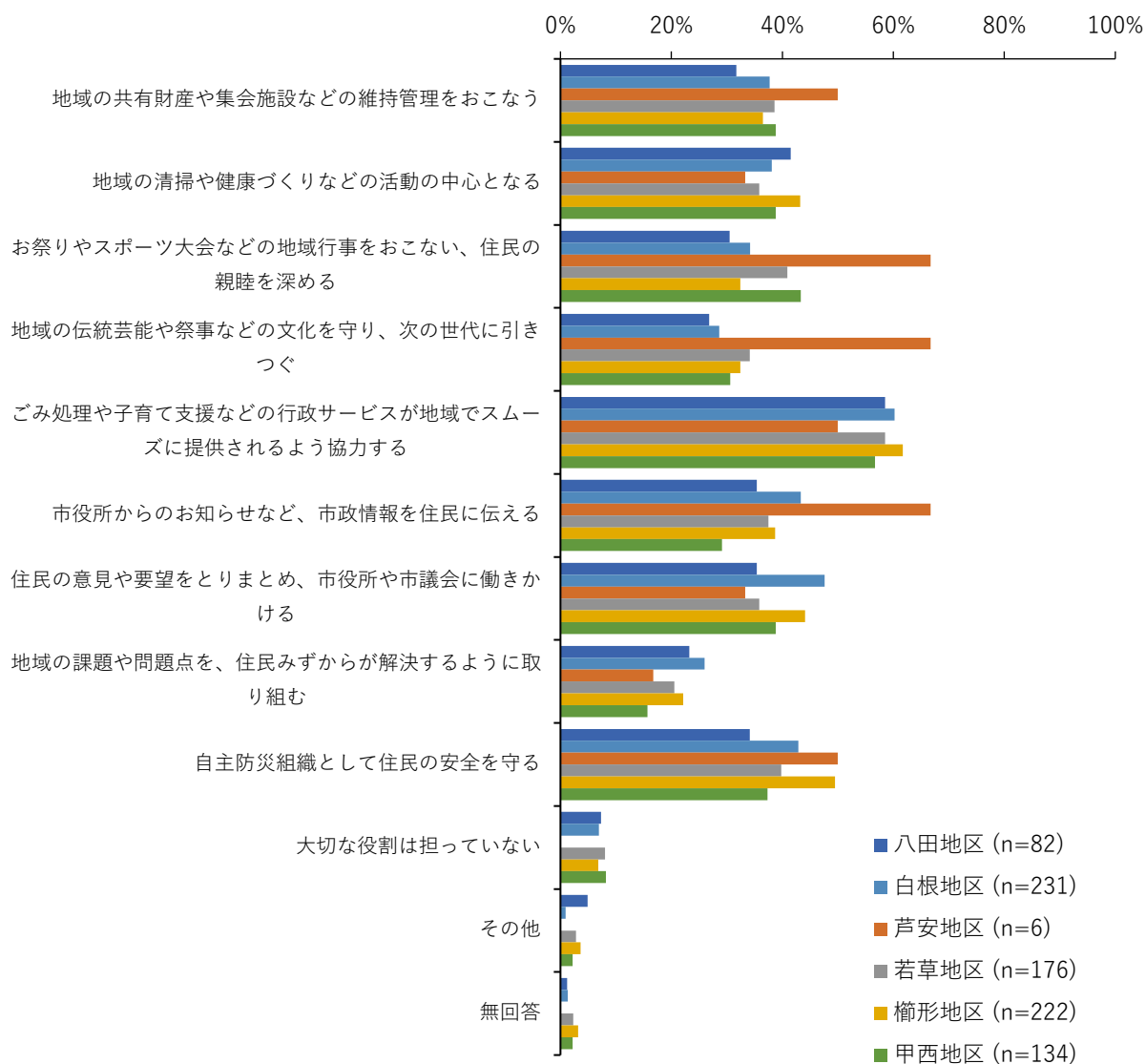


図 15 居住地区×自治会組織（区や組など）の役割として大切なこと（MA）

1.3.2. 地域活動への参加意向

(1) 全体

「地域でおこなわれる活動で、機会があれば参加してみたいもの（これからも続けていきたいもの）を選んでください」との質問に対して、「地域の清掃や美化活動」の割合が54.3%で最も高く、次いで「災害時に備えた防災訓練や防災講習会などの地域支援活動」が42.3%、「高齢者や障害者の見守り・手助け」が36.0%となっている。

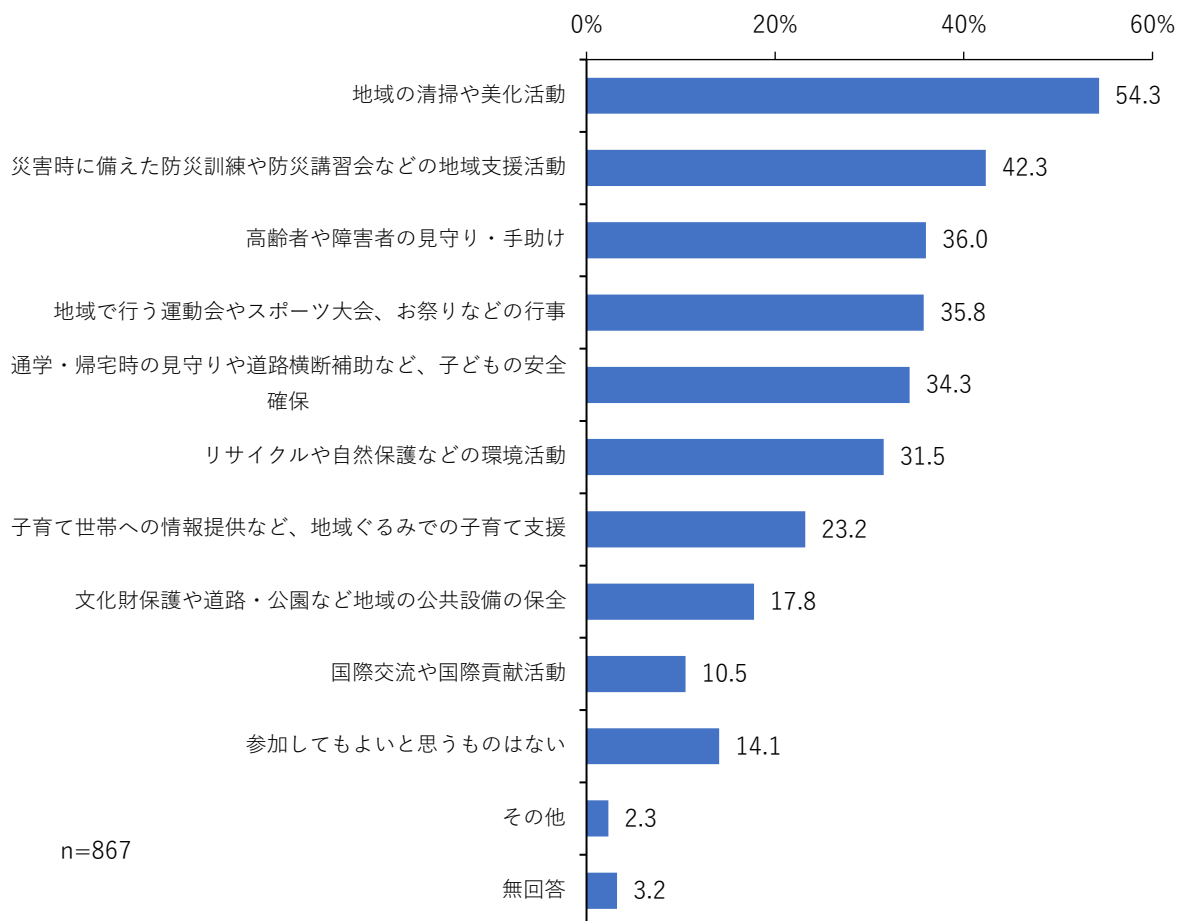


図 16 地域活動への参加意向 (MA)

(2) 性別

性別でみると、「地域で行う運動会やスポーツ大会、お祭りなどの行事」、「リサイクルや自然保護などの環境活動」、「文化財保護や道路・公園など地域の公共設備の保全」などの項目において男性の割合が高く、「通学・帰宅時の見守りや道路横断補助など、子どもの安全確保」、「子育て世帯への情報提供など、地域ぐるみでの子育て支援」など子育てに関する項目において、女性の割合が高くなっている。

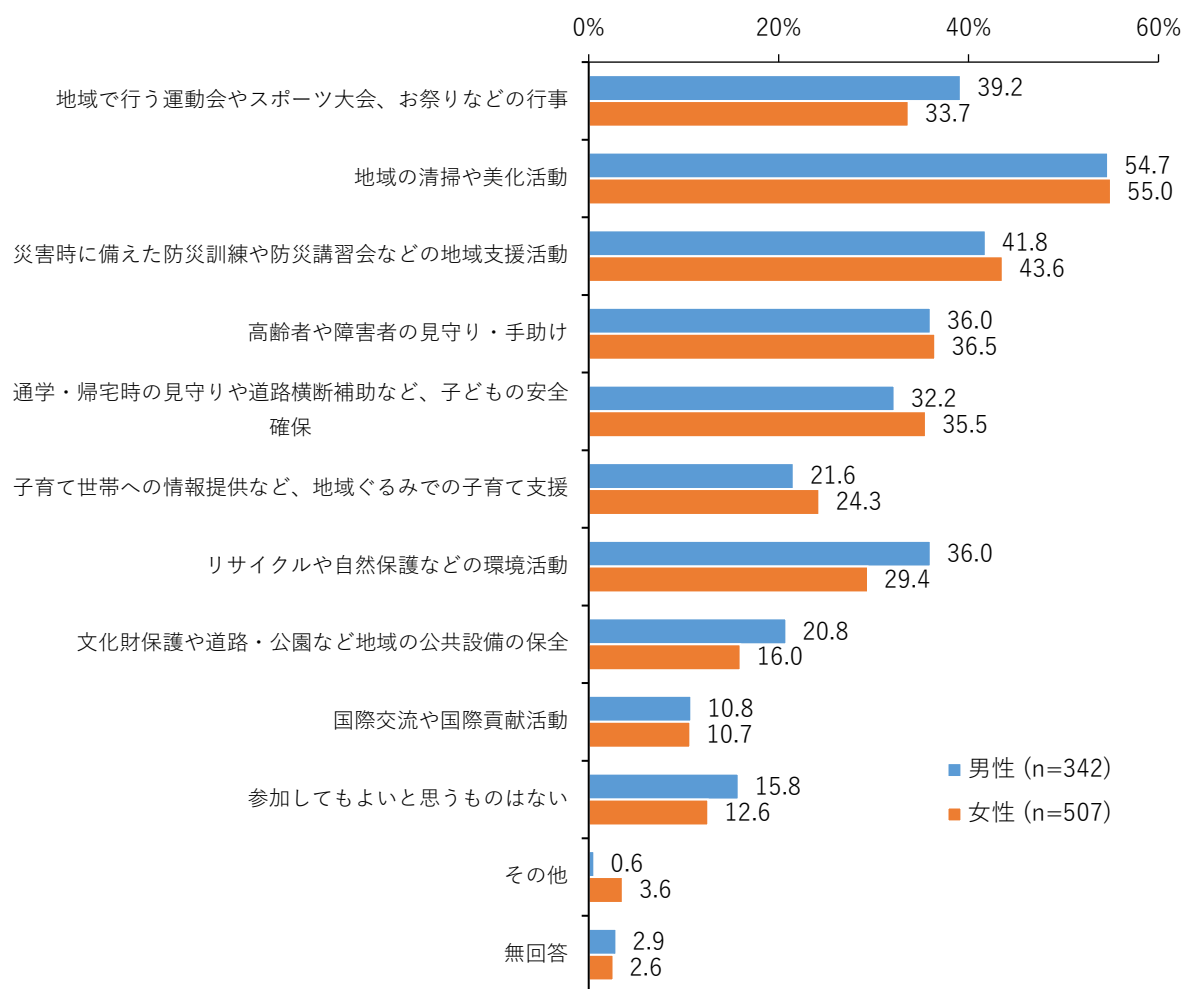


図 17 性別×地域活動への参加意向 (MA)

(3) 年齢

年齢では、大きな差異は見られないものの、「地域の清掃や美化活動」や「災害時に備えた防災訓練や防災講習会などの地域支援活動」、「高齢者や障害者の見守り・手助け」など、地域の環境や安全安心に関する項目について、年齢が上がるほど割合が高い傾向がみられる。また、30代を中心に「子育て世帯への情報提供など、地域ぐるみでの子育て支援」への参加意向が高くなっている。

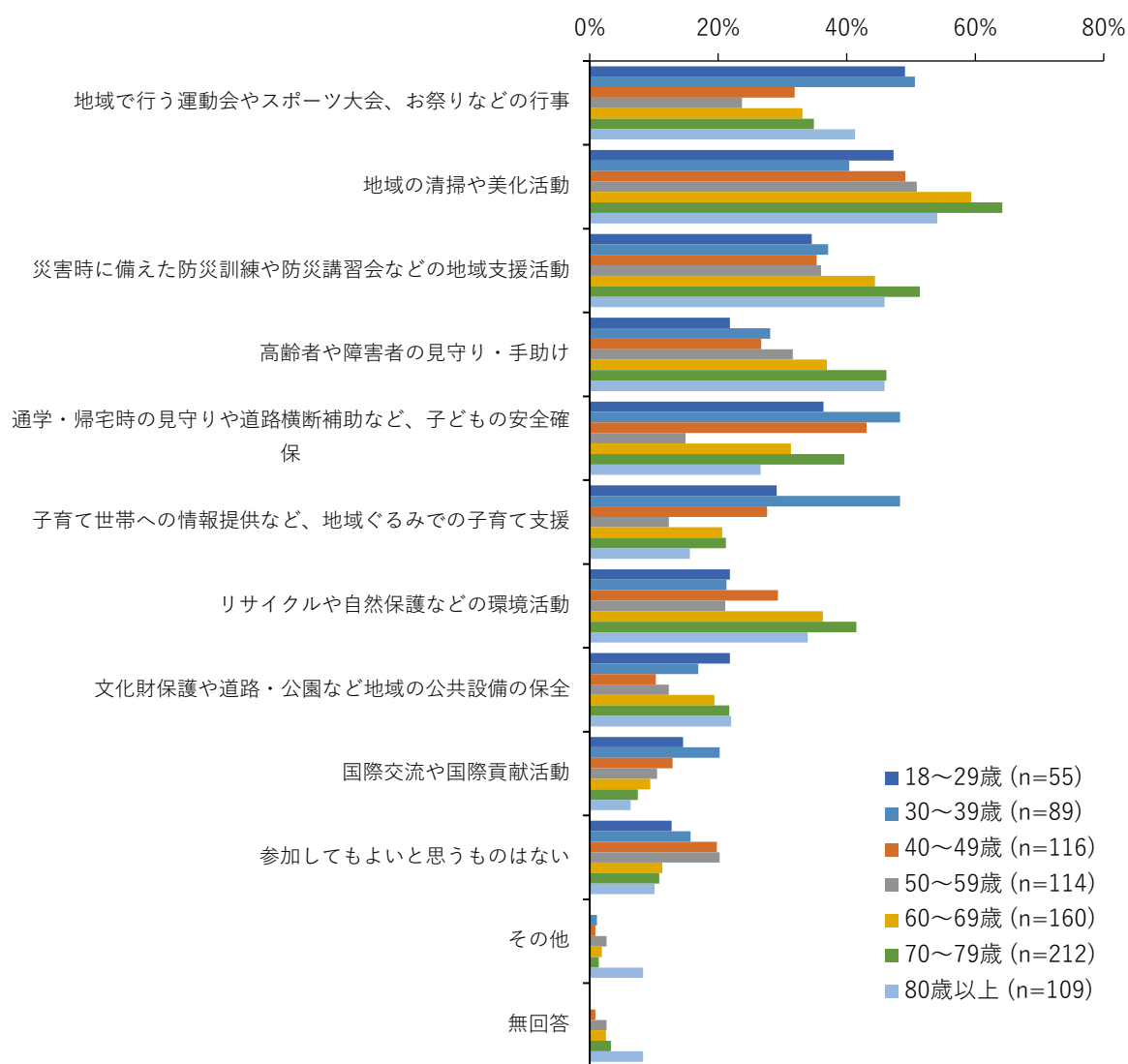


図 18 年齢×地域活動への参加意向 (MA)

1.3.3. 市政への参加意向

(1) 全体

「今後機会があれば、どのような手段を通じて市政に参加したいと思うか」聞いたところ、参加内容としては「市が実施する各種の意識調査への回答」の割合が43.9%で最も高く、それに次ぐ「市長と市民との懇談会や対話集会への参加」の14.9%や、「事業実施に必要な労力を提供するボランティア」の13.6%と大きな開きが生じている。

また、「市政に参加する意思はない」との回答も27.3%と回答の中で2番目に高い割合となっている。

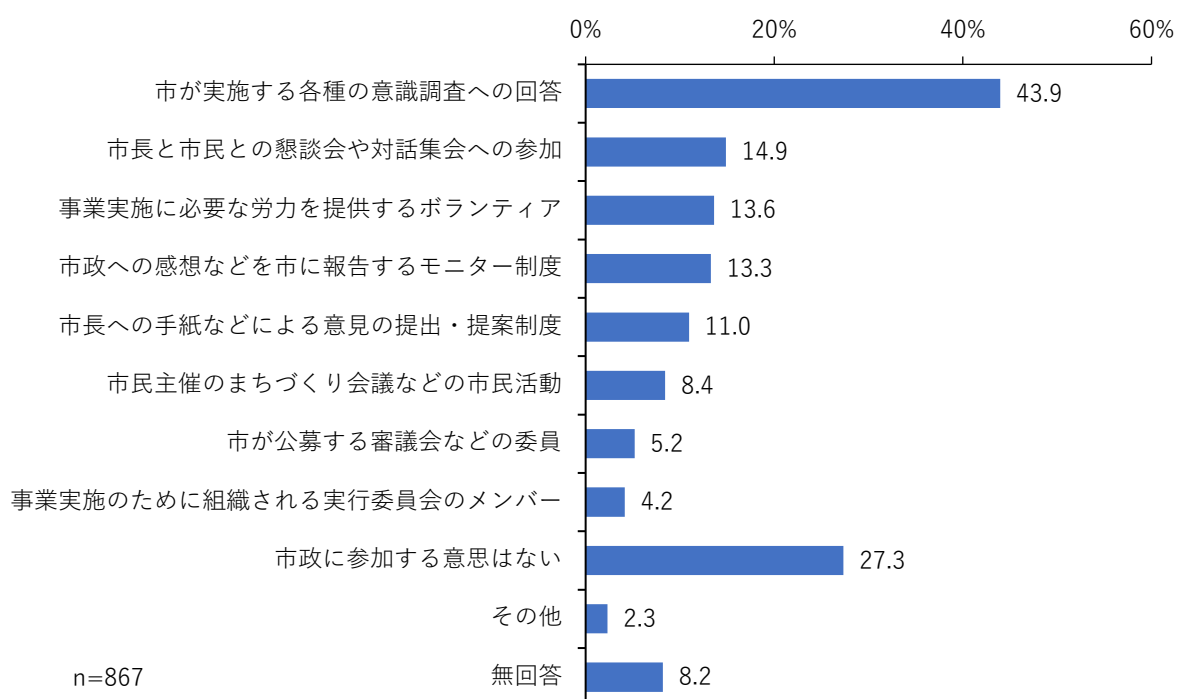


図 19 市政への参加意向 (MA)

(2) 性別

性別でみると、「市が公募する審議会などの委員」、「市長と市民との懇談会や対話集会への参加」、「市民主催のまちづくり会議などの市民活動」、「事業実施のために組織される実行委員会のメンバー」などの項目において男性の割合が女性よりも高くなっている。

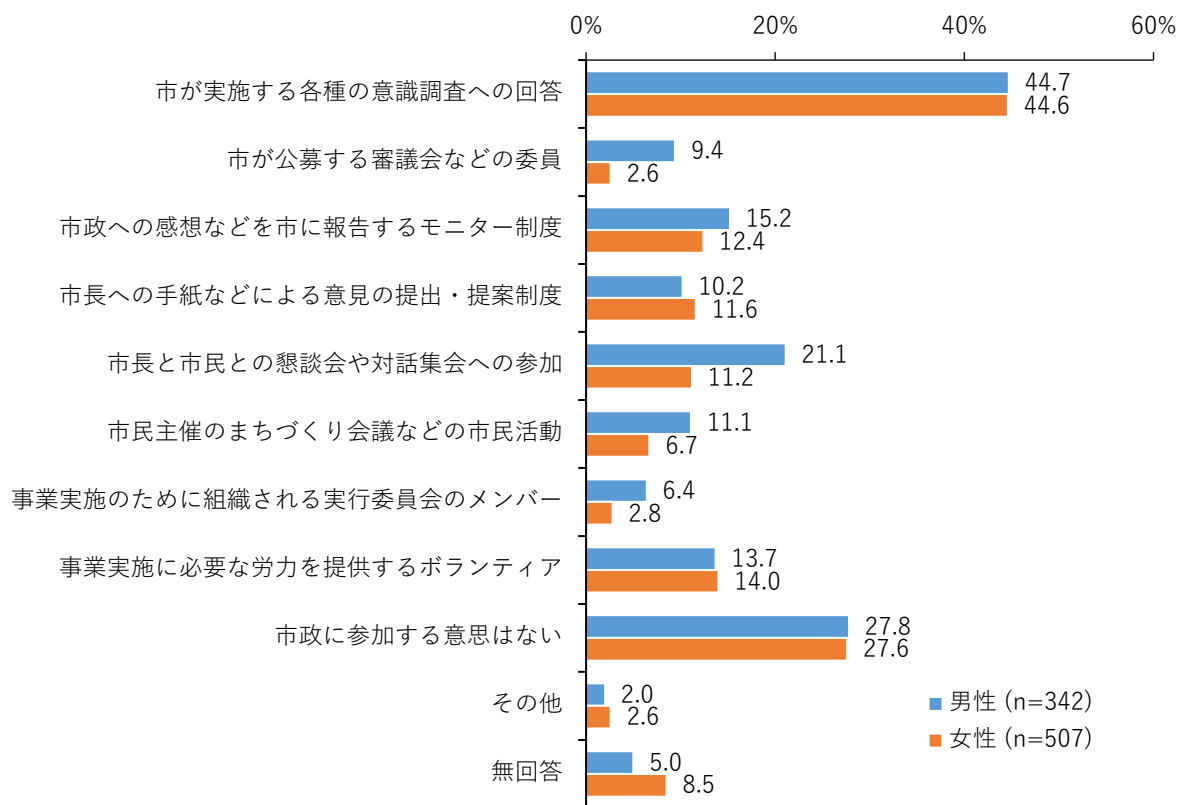


図 20 性別×市政への参加意向 (MA)

(3) 年齢

年齢で見ると、参加項目の中では全ての年齢において「市が実施する各種の意識調査への回答」の割合が最も高くなっている。一方で、「市政に参加する意思はない」の割合は年齢が下がるほど高くなる傾向がみられる。

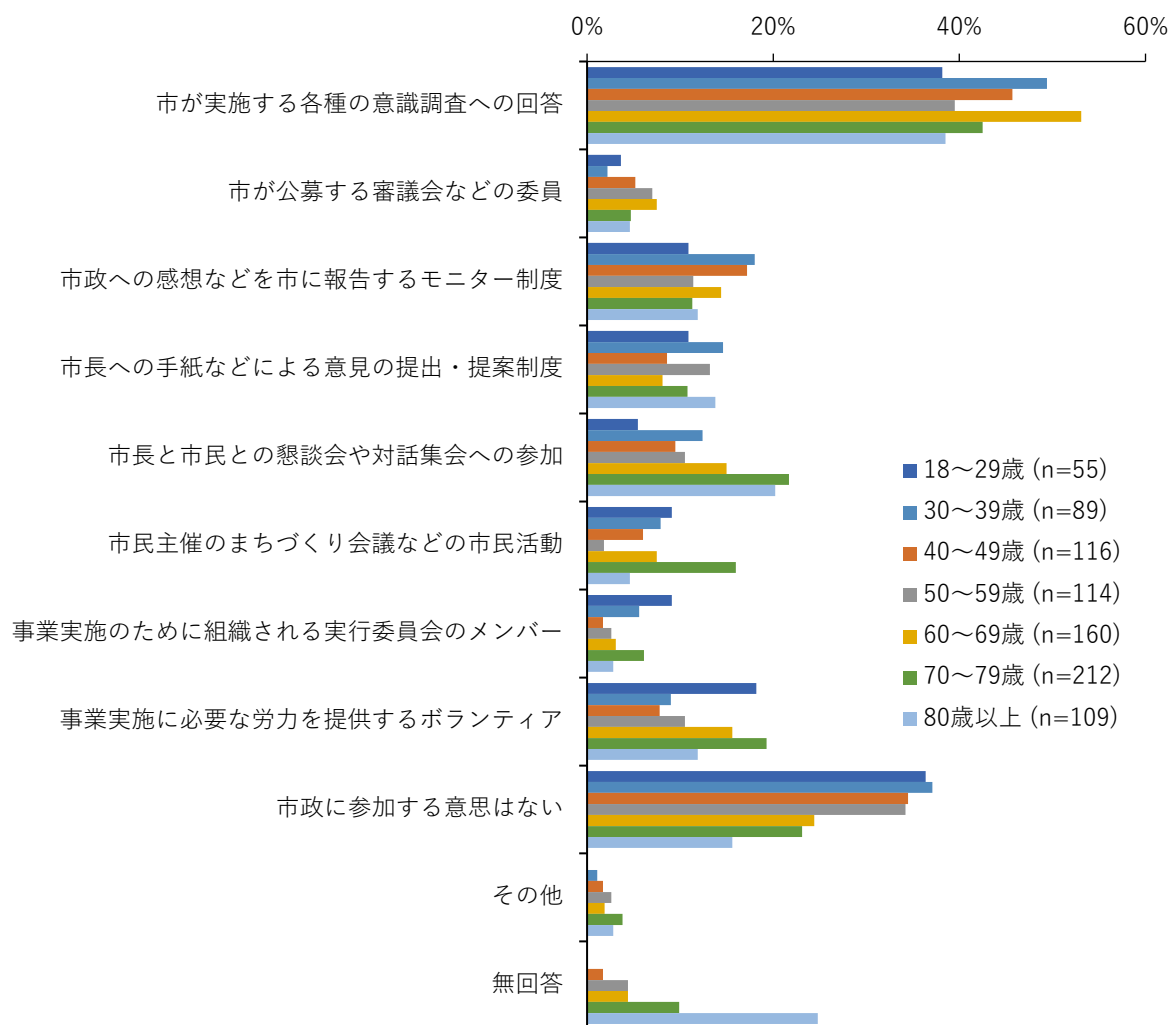


図 21 年齢×市政への参加意向 (MA)

1.3.4. まちづくりへの市民参加に必要なこと

(1) 全体

「市民がまちづくりに参加しやすくなるために必要だと思うことは何か」聞いたところ、「活動のリーダーとなる人材を育成すること」が 27.7%で最も多く、次いで「市の職員がまちづくりについての情報・専門知識を積極的に提供すること」が 25.6%、「市民同士の情報交換の場や交流の機会が充実すること」が 25.1%となっている。

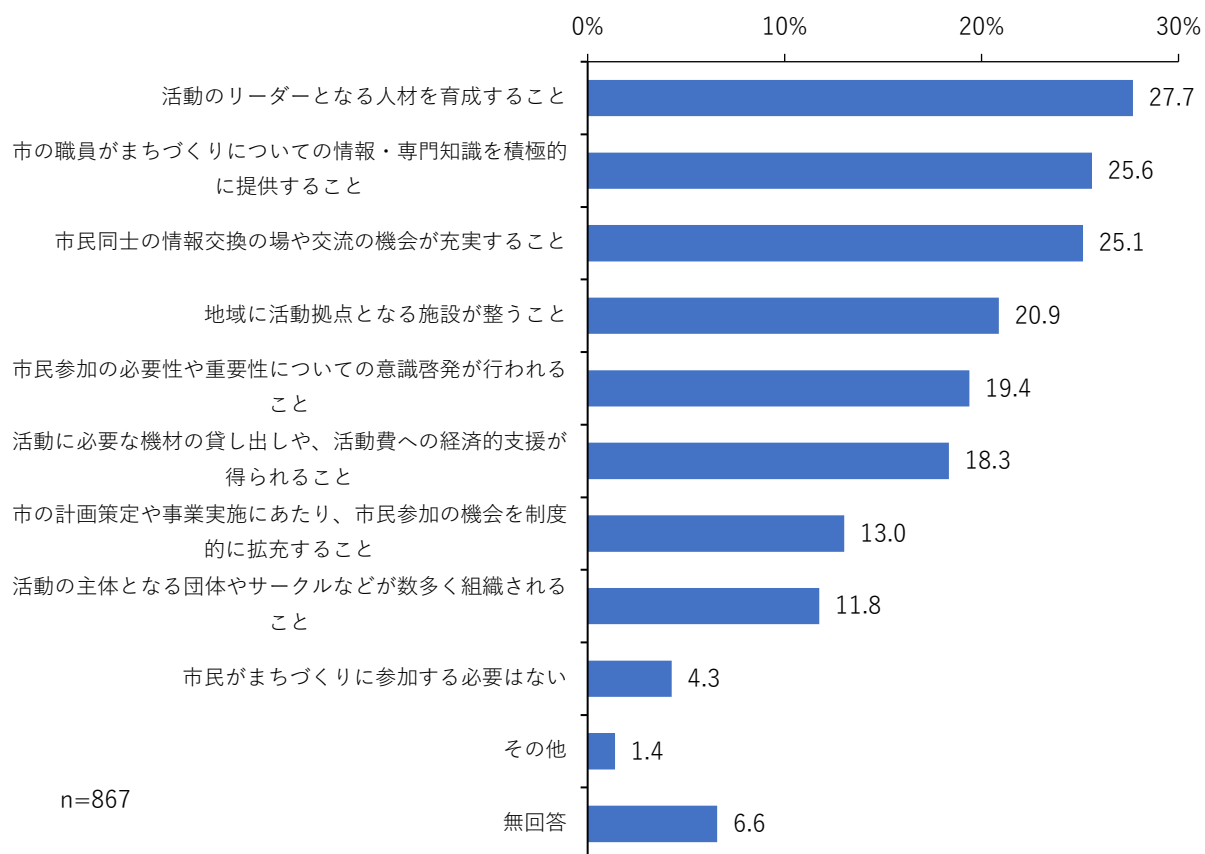


図 22 まちづくりへの市民参加に必要なこと (MA)

(2) 性別

性別で見ると、男性では「活動のリーダーとなる人材を育成すること」、「市の計画策定や事業実施にあたり、市民参加の機会を制度的に拡充すること」の割合が高く、女性では「市民同士の情報交換の場や交流の機会が充実すること」の割合が高くなっている。

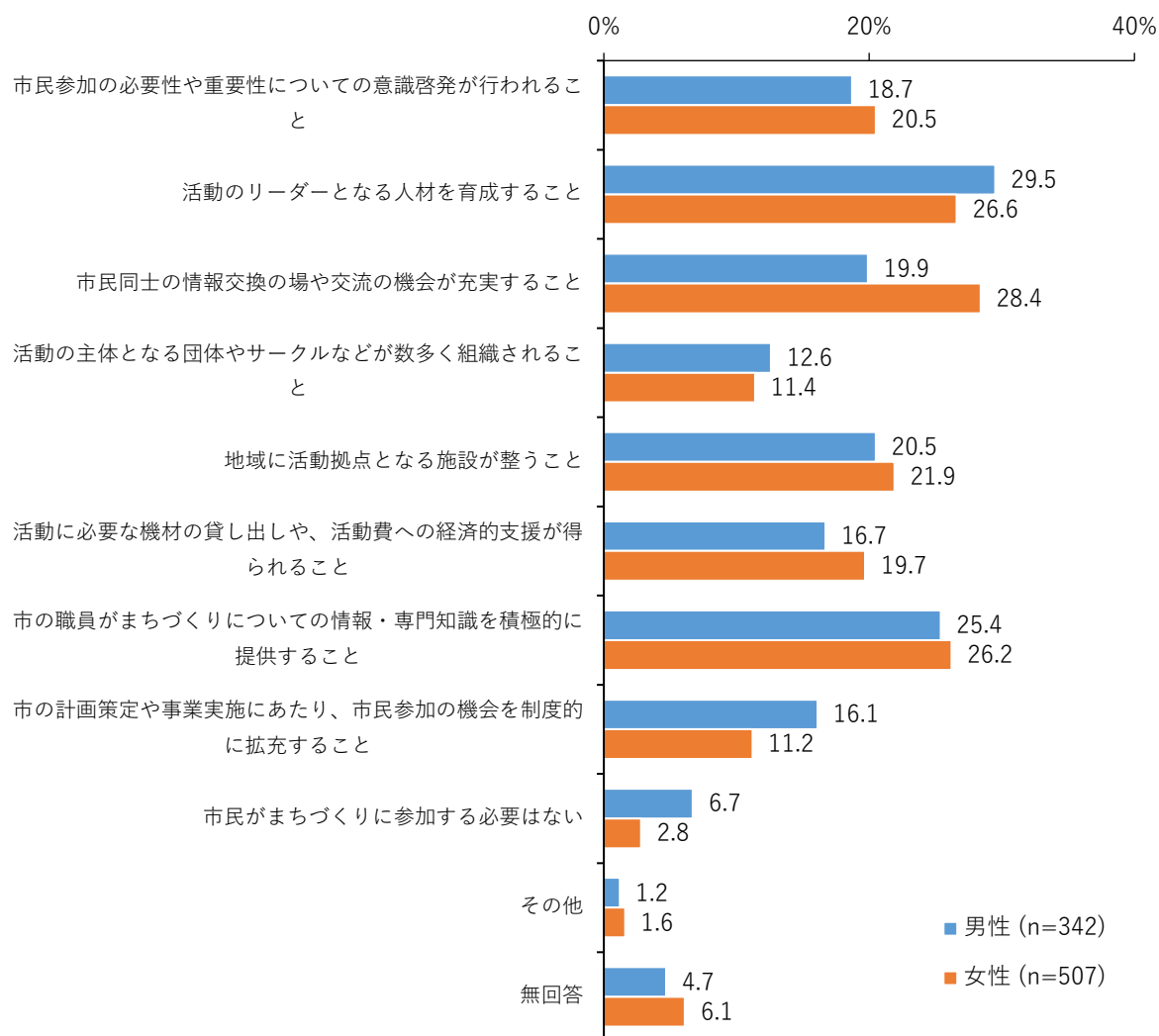


図 23 性別×まちづくりへの市民参加に必要なこと (MA)

(3) 年齢

年齢でみると、「活動の主体となる団体やサークルなどが数多く組織されること」、「市の職員がまちづくりについての情報・専門知識を積極的に提供すること」、「市の計画策定や事業実施にあたり、市民参加の機会を制度的に拡充すること」などの項目について、年齢が上がるほど割合が高い傾向がみられる。一方で、40～50歳代で「市民がまちづくりに参加する必要はない」との回答割合が比較的高くなっている。

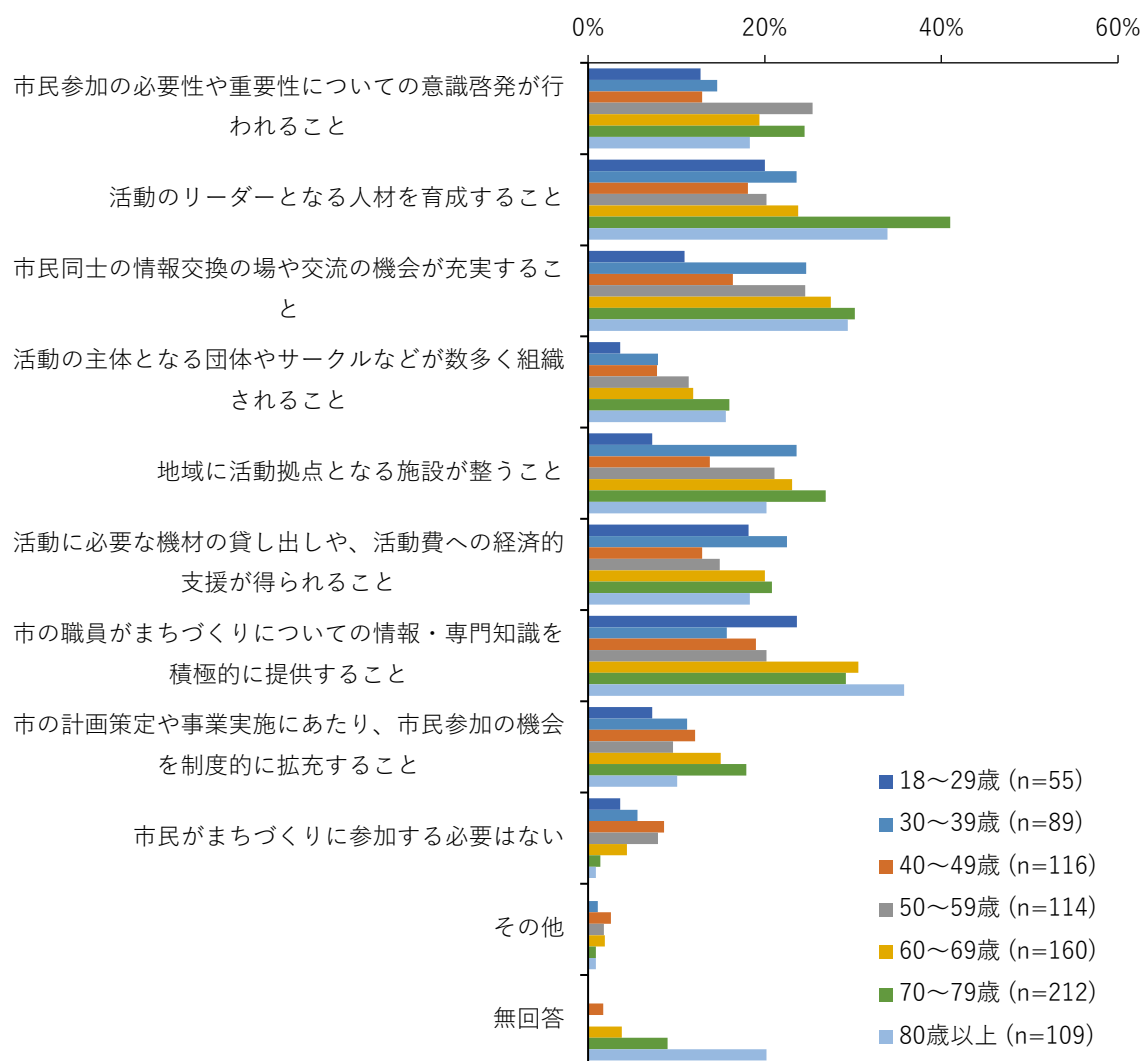


図 24 性別×まちづくりへの市民参加に必要なこと (MA)

1.3.5. 市政情報を得る手段

(1) 全体

「市政に関する情報をどのような手段で得ているか」聞いたところ、「広報紙(広報南アルプス)」が73.4%で最も多く、それに次ぐ「回覧板」の48.7%、「市議会だより」の20.9%と大きな開きが生じている。

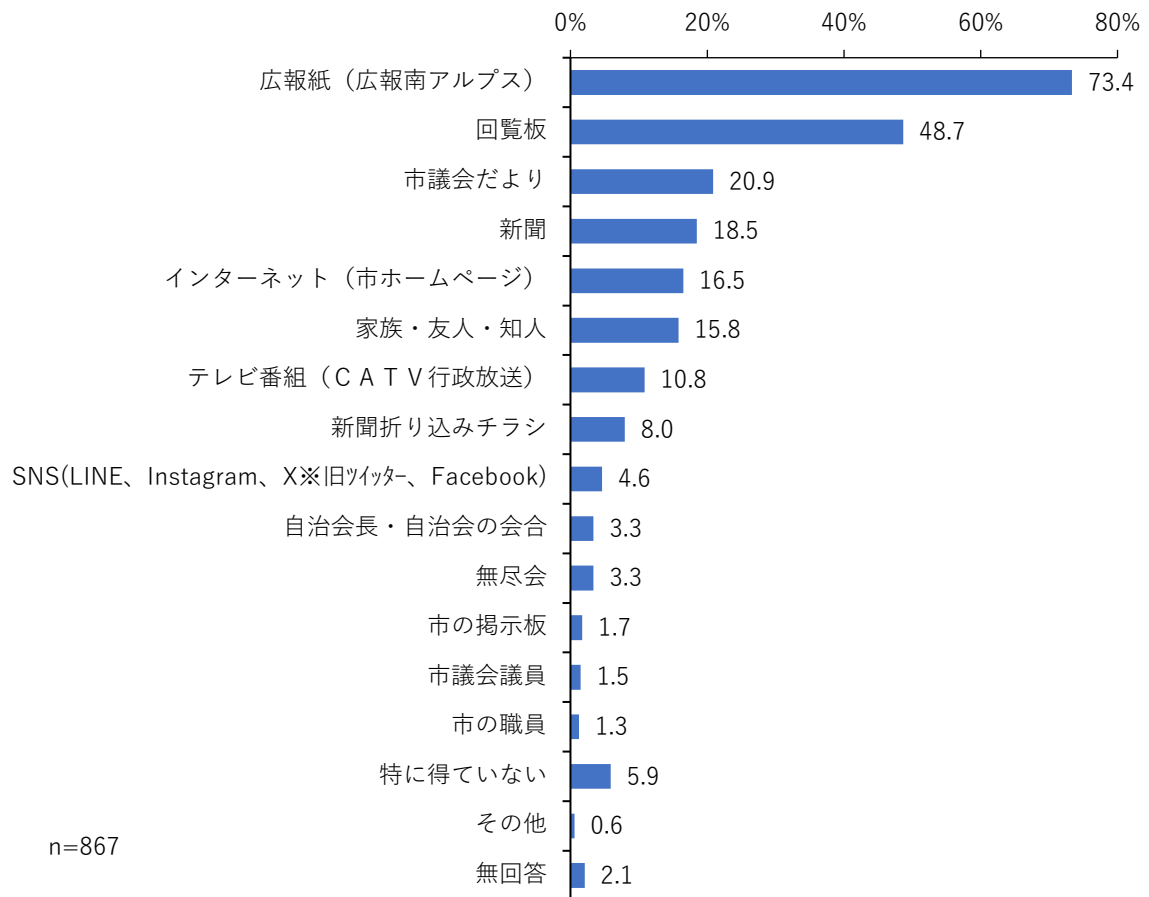


図 25 市政情報を得る手段 (MA)

(2) 性別

性別で見ると、大きな差異はみられないが、「広報紙（広報南アルプス）」や「回覧板」で女性の割合が高くなっている。

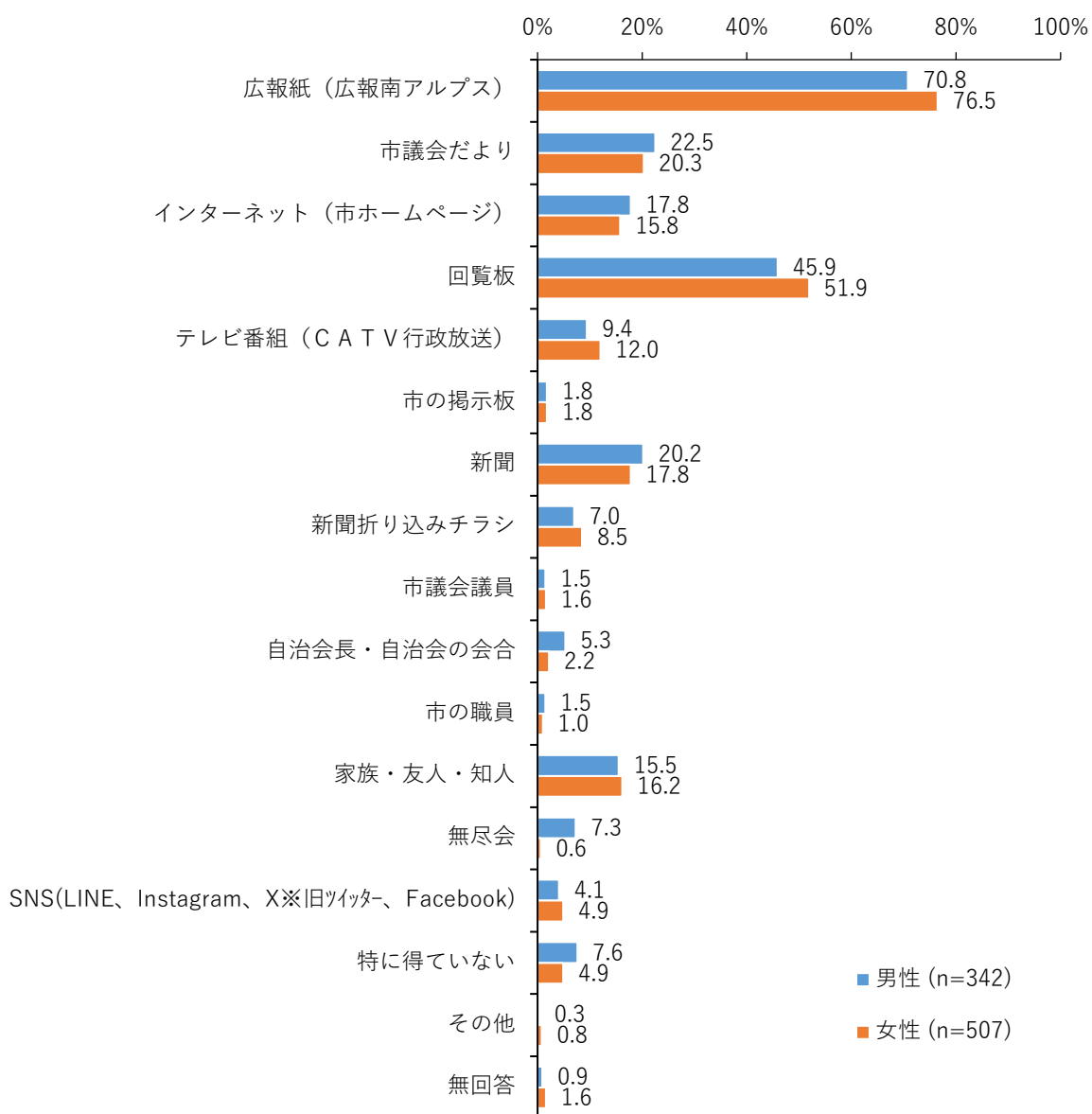


図 26 性別×市政情報を得る手段（MA）

(3) 年齢

年齢でみると、「広報紙（広報南アルプス）」、「回覧板」、「新聞」などの紙媒体は年齢が上がるほど割合が高くなる一方で、「インターネット（市ホームページ）」や「SNS」、さらには「家族・友人・知人」については、年齢が下がるほど割合が高くなる傾向がみられる。

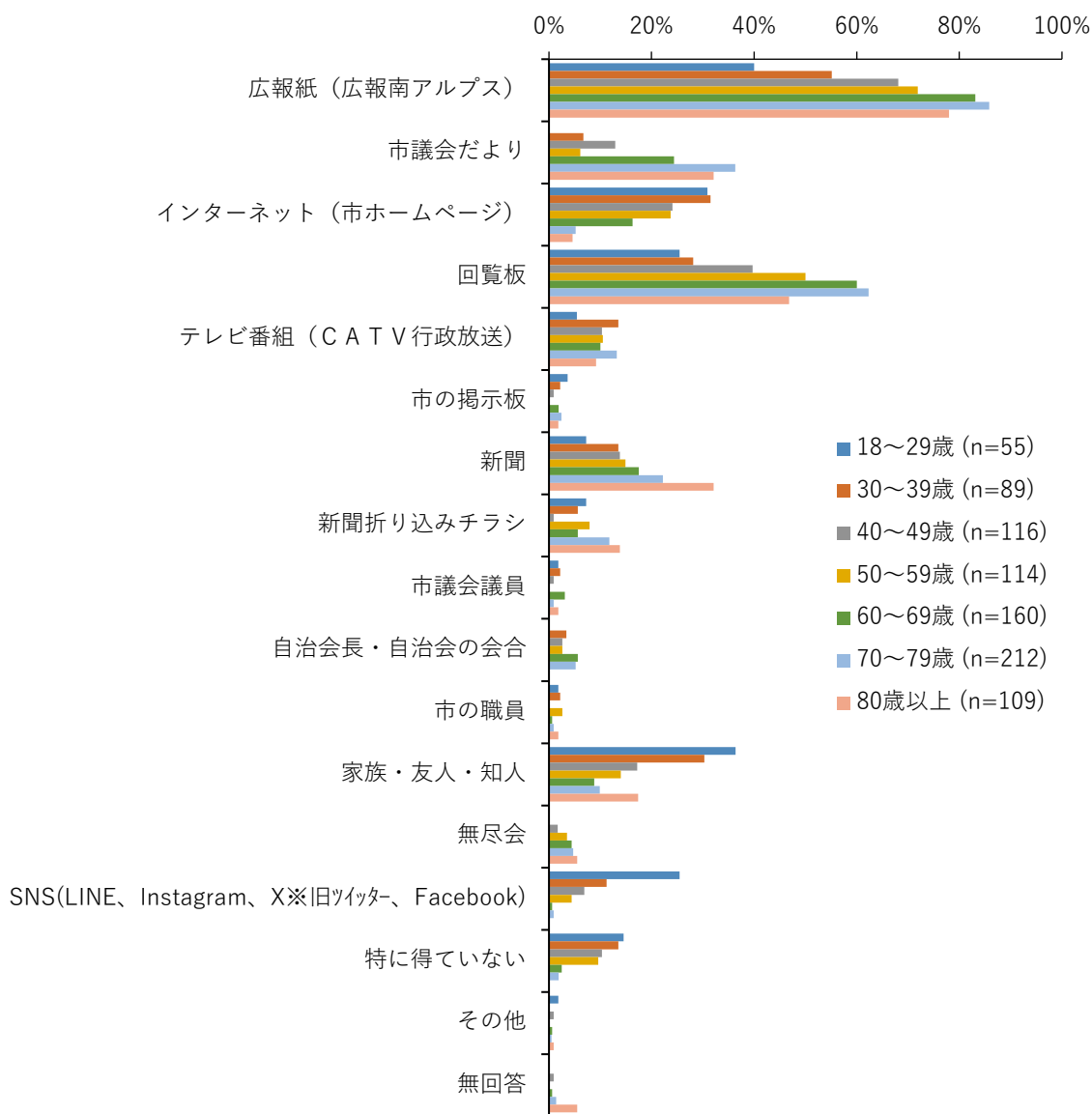


図 27 性別×市政情報を得る手段 (MA)

2. 各施策の現状と課題

市民アンケート結果及び第2次南アルプス市総合計画における33施策の実績などから、施策別にみた本市の現状と課題についてまとめる。

2.1. 概要

2.1.1. 施策体系

第2次総合計画における施策体系は以下の通り。

表1 第2次総合計画における施策体系

基本理念	将来像	政策	NO	施策
未来にひらく豊かなまちをつくることを アルプスの山々に誓います 緑かがやく自然を守り なかよく美しい心をつなぎ合います	自然と文化が調和した幸せ創造都市 南アルプス 魅力ある地域資源を活かした 自立のまち	政策1：安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成	1	地域コミュニティの充実
			2	市制への市民参加の推進
			3	防災体制の整備
			4	防犯対策の推進
			5	交通安全の推進
			6	自然との共生
			7	生活環境の保全
		政策2：ともに生き支えあうまちの形成	8	多様性社会の構築
			9	地域福祉の充実
			10	福祉総合相談体制の充実
			11	保育・幼児教育の充実
			12	子育て支援の充実
			13	高齢者福祉の充実
			14	障がい者福祉の充実
			15	母子保健の充実
			16	健康づくりの推進
			17	地域医療の充実
		政策3：潤いと活力のある快適なまちの形成	18	農林業の振興
			19	商工業の振興
			20	企業誘致の推進
			21	観光の振興
			22	道路・交通基盤の整備
			23	都市空間の整備
			24	移住・定住人口の拡大
			25	上下水道の整備
		政策4：心豊かな人と文化を育むまちの形成	26	生涯学習の推進
			27	歴史・伝統文化の振興
			28	学校教育の充実
			29	学校施設の整備
			30	青少年健全育成の推進
		政策5：未来をひらく経営型行政運営の形成	31	健全な財政の維持
			32	時代に合った行政サービスの実現
			33	職員の資質の向上

2.1.2. 地域に対する市民の満足度・重要度

南アルプス市の暮らしに対する 45 項目について、市民の満足度（5 段階）および重要度（3 段階）の平均値を以下にまとめる。

「どちらでもない」を 0、満足度及び重要度の最大・最小値を±2 とした場合、満足度の平均値は 0.31 となり、多くの項目についてプラスの傾向がみられる。一方で、雇用や賑わい、公共交通、多様性社会などについては、マイナスの回答が多くなっている（詳細は、施策別の結果を参照）。

また重要度については、全ての項目についてプラス、平均値は 1.28 と高くなっているが、その中でも、安全・安心、環境、福祉、教育などについて、平均を上回る傾向がみられる（詳細は、施策別の結果を参照）。

これらの結果から、満足度が高く重要度も高い項目については、引き続き施策を維持していくことが必要となる「維持する分野」、また、重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目については、改善に向けた取組が必要となる「改善が必要な分野」と分類することができる。

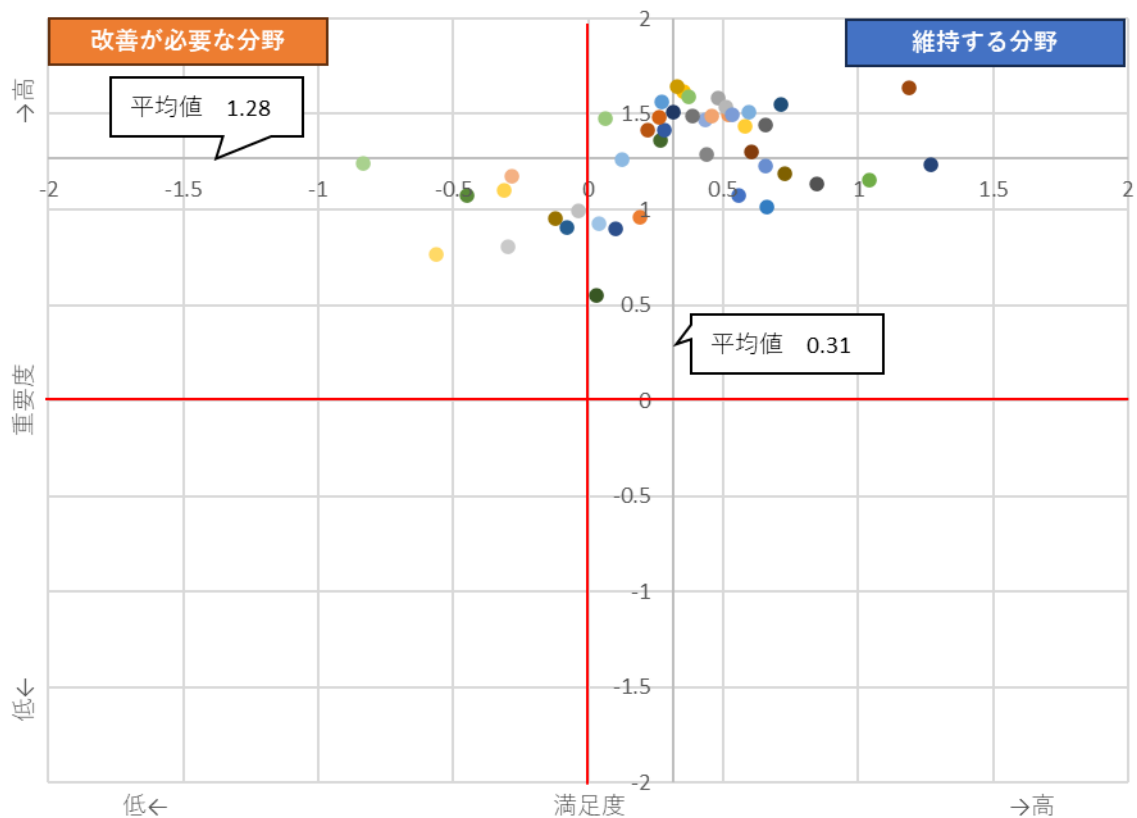
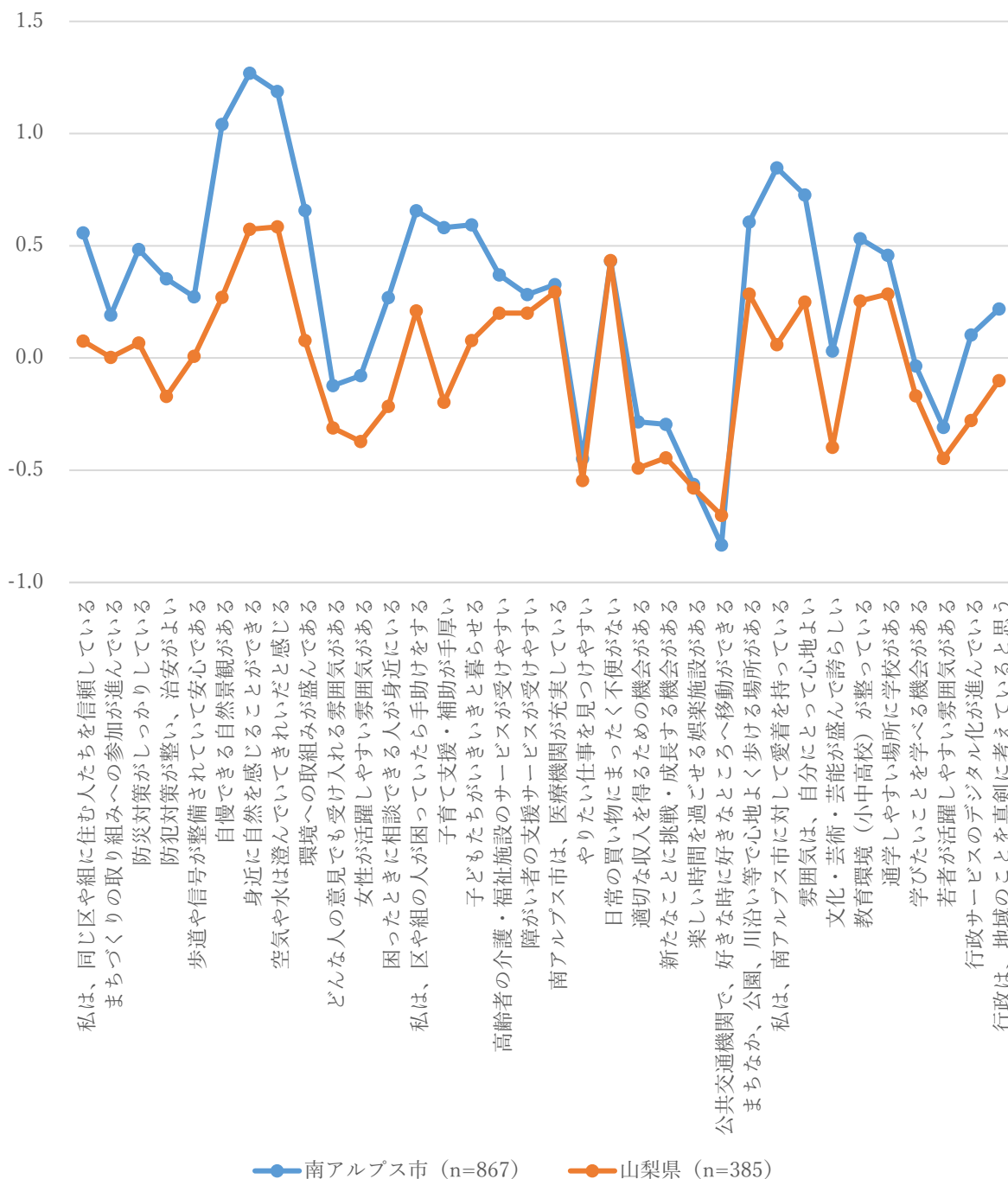


図 28 地域に対する市民の満足度・重要度（平均）

また、南アルプス市の満足度と山梨県における地域幸福度調査結果との比較を以下にまとめる。各設問に関する満足度は、概ね同様の傾向を示しているが、全般的に南アルプス市の方が山梨県より高い結果となっていることが分かる。特に高い値を示している自然環境、子育て、住み心地や愛着などは、本市の魅力にもつながる結果であると考えられる。



参考：地域幸福度(Well-Being) 指標 (<https://sci-japan.or.jp/LWCI/index.html>)

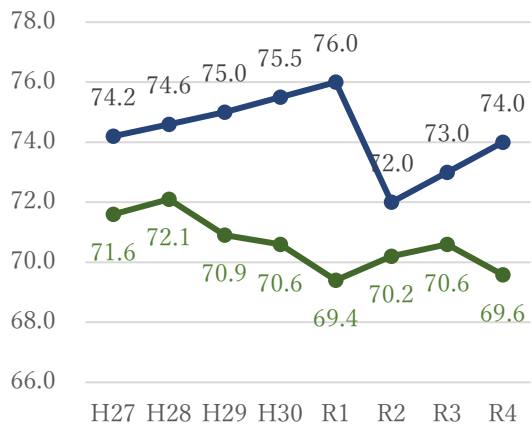
図 29 地域に対する市民の満足度（南アルプス市・山梨県）

2.2. 安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成

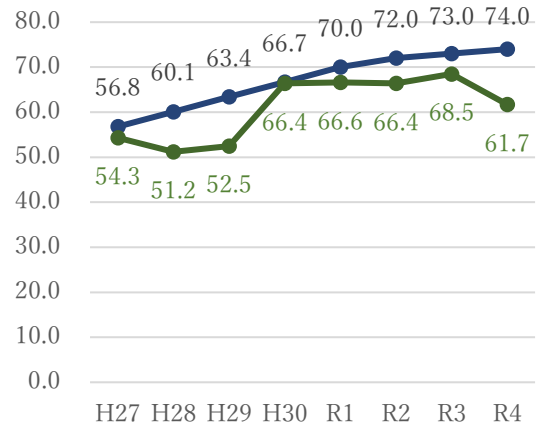
2.2.1. 地域コミュニティの充実

【目的】	自治会が自主的に活動し、地域が活性化する
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自治会加入を促進し、地域イベントへの参加を呼び掛けます。 ◆ 市民が自治会活動に参加しやすいよう、活動内容の充実化、自治会組織の体制見直しを図ります。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会加入の促進 ○ 自治会活動の充実化 ○ ○自治会組織の体制見直し
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の世帯数は増加を続けており、それに伴い自治会への加入世帯も増加傾向ではあるが、世帯数の増加に対して加入世帯数が伸び悩んでいる。 ・ コロナ禍で自治会活動が制限されたことに加え、高齢化や若年層の多様化により、関係性が希薄化していることから、自治会活動への参加が減少するなどの影響が現れている。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会の役割や必要性、活動などの情報発信による加入の促進や、自治会活動の充実に向けた学びの場づくり ・ 市民のライフスタイルの多様化にあわせた自治会組織の見直しによる参加しやすい仕組みづくり
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会加入世帯は年々増えているが、加入したがやめる世帯や、最初から加入しない世帯もある。一旦加入しても、輪番制で役が回ってくるとやめてしまう世帯もある。 ・ ここ 10 年くらい移住者が増えてきたと感じているが、旧住民との間には意見や意識の違いがある。 ・ 自治体の体制の見直しと言われているが、実際にどう行われるのか見えないことから、方針の「見える化」が必要ではないか。 ・ 高齢化が進む中で自治会の機能を維持していくためには、組の統合も必要ではないか。一方で、組にはそれぞれのルールや文化がある。組対抗のスポーツ大会などもあり交流やつながりはあるものの、組を統合するには、住民の抵抗感が強い。

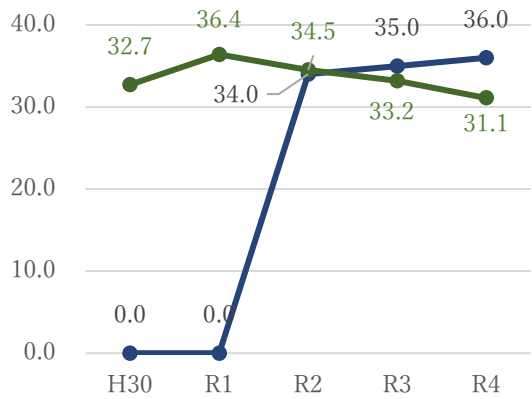
【成果指標】 目標値 実績値



自治会に加入している世帯の割合 (%)

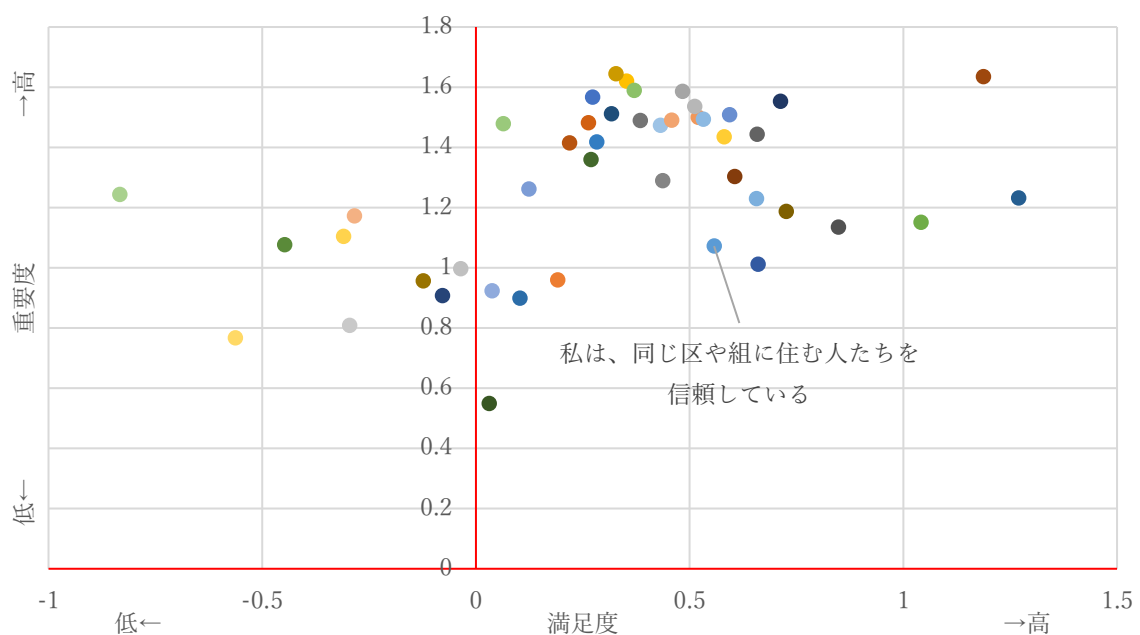


自治会などの地域活動に参加している世帯の割合 (%)



自治会の活動により地域が活性化していると感じる市民の割合 (%)

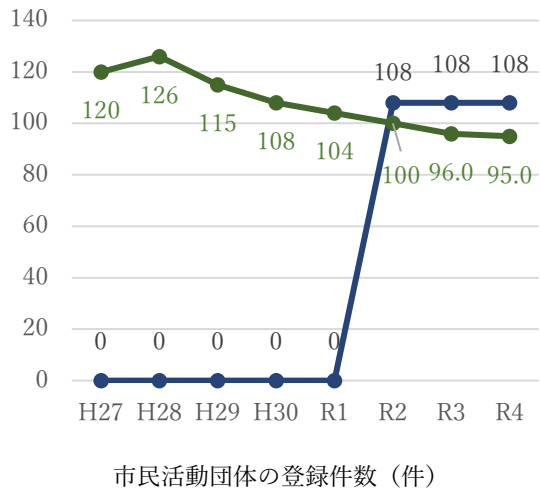
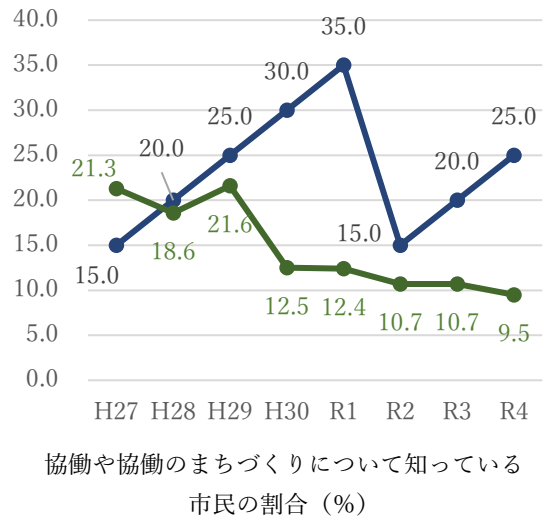
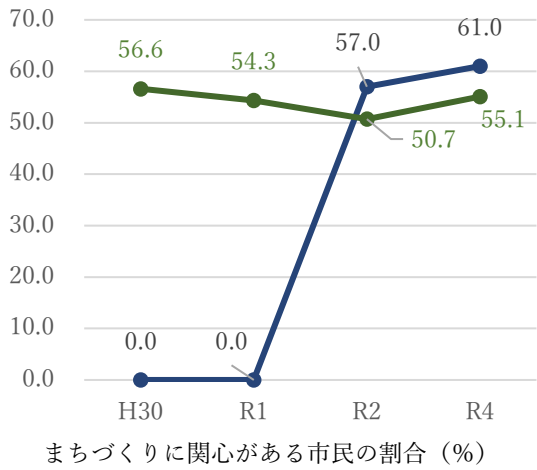
【満足度・重要度】



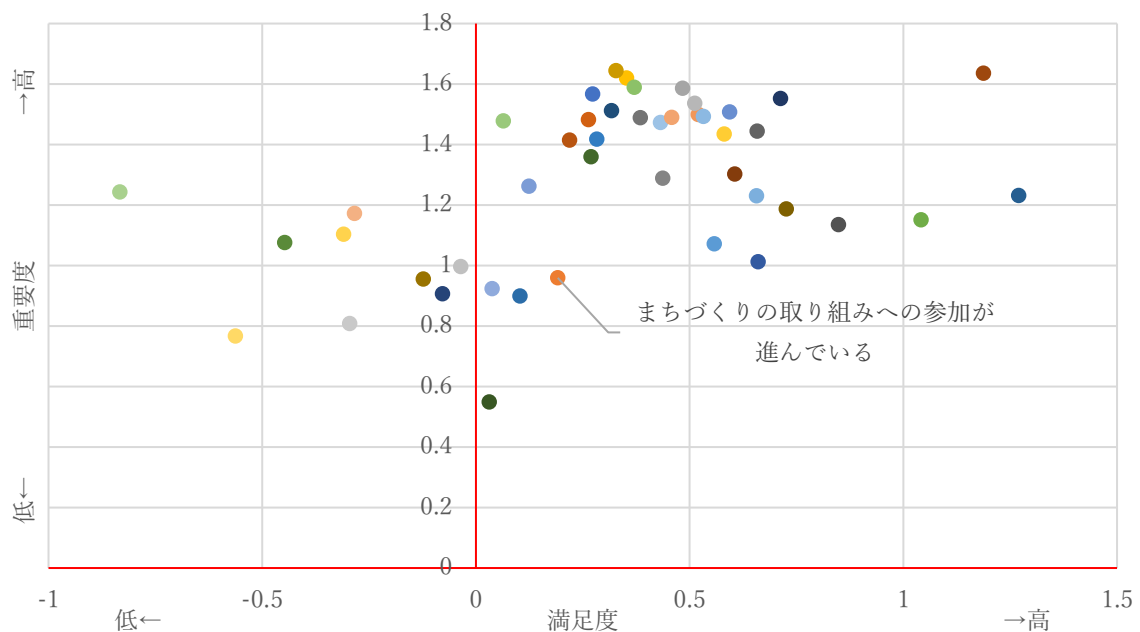
2.2.2. 市政への市民参加の推進

【目的】	市民が自主的にまちづくりに参加・参画する
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市民のまちづくりへの関心を高め、市政への積極的な参画を促します。 ◆ 協働のまちづくりについての啓発を推進します。 ◆ 市民活動団体の支援を図り、まちづくりに結びつけていきます。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちづくりへの参加の促進 ○ 協働のまちづくりの普及・啓発 ○ 市民活動団体の支援
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働や協働のまちづくりについて知っている市民の割合や、市民活動団体の登録件数が減少した理由として、協働や協働のまちづくりの意味や取り組み等が分かりづらいことが考えられる。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働のまちづくりの普及・啓発や、まちづくりへの参加促進のための情報発信、研修等の開催 ・ 市民活動団体相互の情報交換の場の提供と情報発信、活動の支援
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町村が合併して感じたことは、これまでは各地域で誰かがやろうという意識が強かったが、ひとつの市になったことで、急に取り組みに人が出てこなくなった。これまであった協働の意識が失われてきたからこそ、あえて「協働」と言わなければならなくなったのかも知れない。 ・ 誰が主体となって何をやるのかが分からない。活動が立ち上がっても、その後継者がいないので、高齢化とともに活動が終わってしまう。 ・ 小さいコミュニティでは気心が知れているので協力しやすいが、規模が大きくなると、関係性や絆が薄まっていくので参加しなくなる。誰かがやるだろうという人任せの感覚もあるのではないか。 ・ 自治会といった基礎的な枠組みは残しつつも、消防などの諸活動については共同で行っていくという考え方もある。こうした「協働」もあるのではないか。

【成果指標】 目標値 実績値



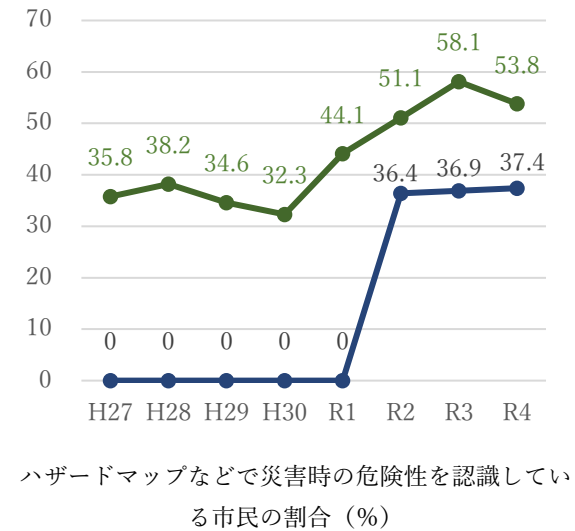
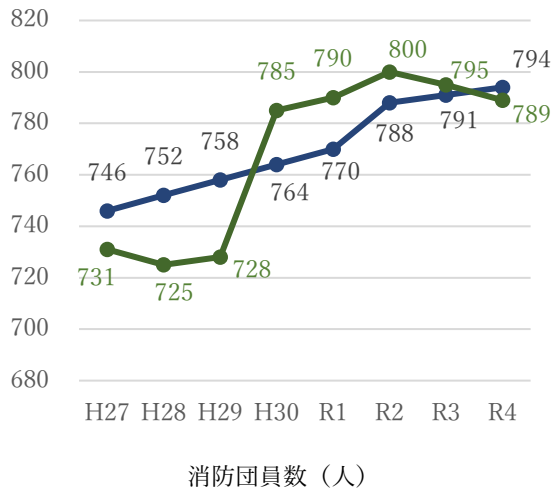
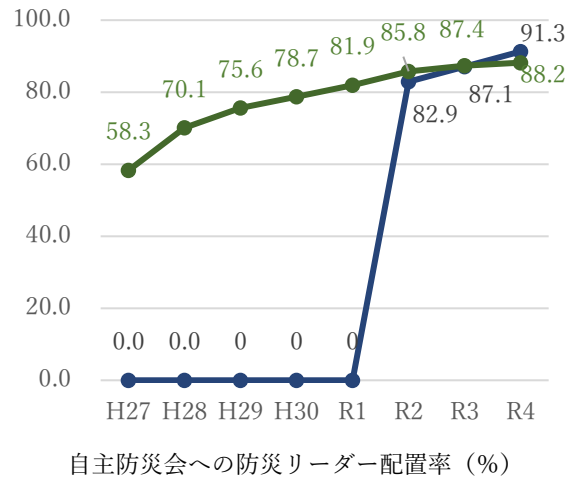
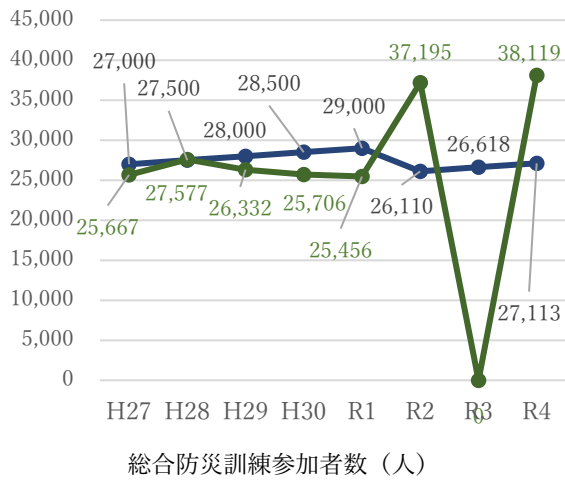
【満足度・重要度】



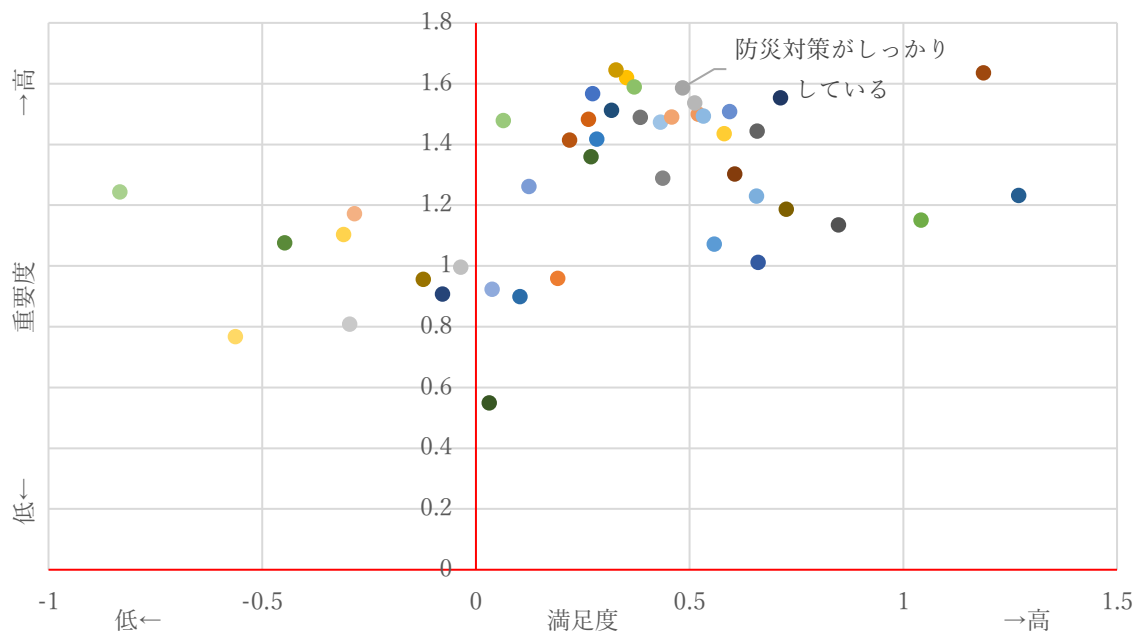
2.2.3. 防災体制の整備

【目的】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が、災害時に受ける被害を最小限にできる ・ 自治会（自主防災会）が災害に強い地域になる
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域防災計画の見直しに沿った防災訓練の実施など、実効性の高い防災・減災対策に取り組みます。 ◆ 自主防災力強化のため、防災リーダーの配置及び自主防災活動の支援に取り組むとともに、地域における自助・共助の意識啓発に努めます。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域防災力の強化 ○ 防災意識の向上と防災施設の整備 ○ 消防体制の充実 ○ 水路及び河川の維持管理の推進
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍ではあったが、安否確認に重点を置いた総合防災訓練を実施したことから参加者数が増加した。 ・ 防災リーダーの配置率は、自主防災会への呼びかけによる防災意識の向上により増加したが、まだ地域によって温度差がある。 ・ 消防団員数は、目標値を下回る結果となったが、機能別消防団制度により高い充足率となっている。 ・ ハザードマップの認識は、近年の甚大な災害から、住民の災害に対する危機意識も高くなっている。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災講習会などの機会を利用し、地域での防災力の必要性、重要性について周知することによる防災意識の向上 ・ 消防団体制の充実に向けた消防団活動の見直し、適正な消防団員数等の検討 ・ 河川等の施設の適切な維持管理による浸水、冠水の防止
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災訓練への自治会役員の意識は高いが、若い世代や移住者、外国人、自治会に入っていない方もいるので、災害時に近所に誰が住んでいるか分からない可能性がある。 ・ 自治会の中で防災リーダーの周知・認識が十分にされておらず、自主防災会（自治会）と防災リーダーが別組織扱いをされている地域もある。 ・ 台風などの被害の記憶が無いので、地域の防災意識が薄れてしまった印象がある。 ・ 地域で愛される、愛着のある消防団であってほしい。今の消防団は昔と考え方も違うと思うが、地域のためという思いは一緒だと思う。 ・ 消防団への家族の理解が薄いと感じている。周りの方の理解がより必要であるが、会社・地域・家族の理解・サポートが薄れていることに危機感がある。 ・ 人員不足を補うため、OBによる「機能別消防団」でつなぎとめているが、若い世代が入ってこないので先行きが不安である。

【成果指標】 目標値 実績値



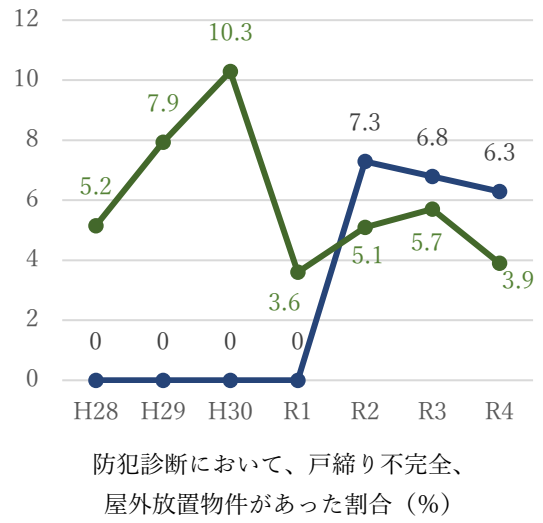
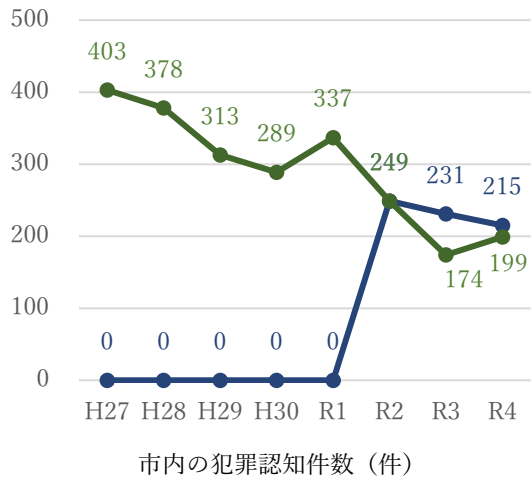
【満足度・重要度】



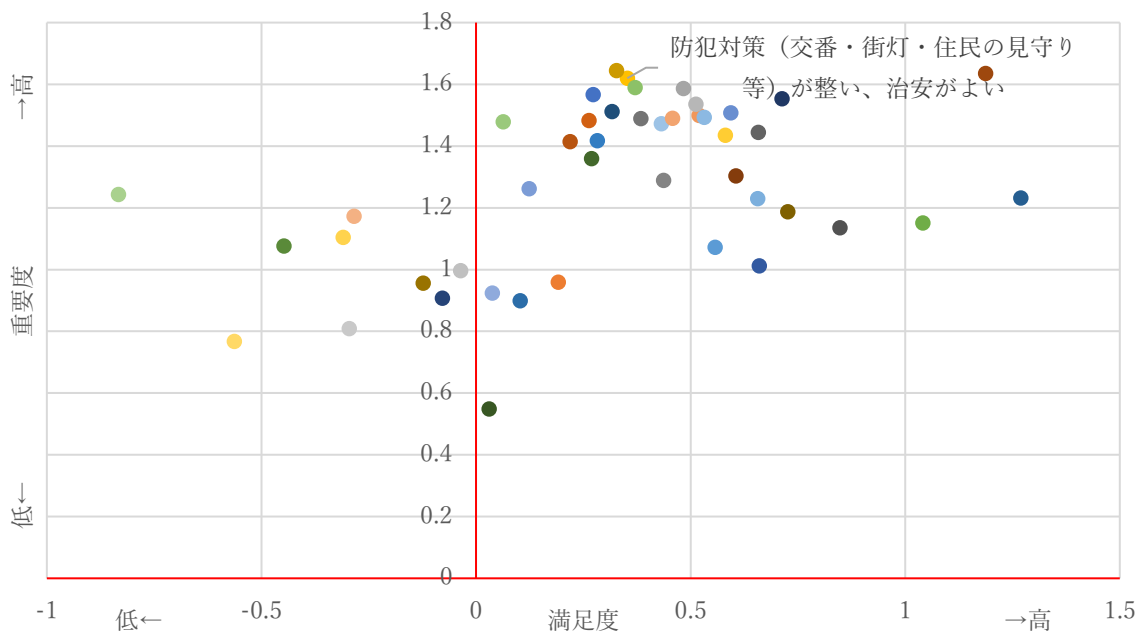
2.2.4. 防犯対策の推進

【目的】	犯罪が減り市民が安心して生活できる
【基本方針】	◆ 市民が犯罪被害・消費者トラブルに遭わないように、警察署や関係団体、地域と連携し、防犯対策を推進します。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防犯意識の向上と防犯活動の充実 ○ 防犯施設の整備と防犯対策の推進 ○ 消費者保護と身近なトラブル対策の推進
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標値より高い実績値で推移している状況であり、各家庭での防犯対策意識の向上がみられ、防犯推進の啓発活動が浸透してきている。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 警察や消防団、防犯ボランティア等関係団体と連携した防犯意識の向上と防犯活動の充実 ・ 自治会が実施する防犯灯の設置や修繕に対し補助金を交付することによる、夜間における市民の安全及び犯罪被害の未然防止 ・ 出前講座や相談などによる、多様化・複雑化する消費者被害の未然防止
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近所付き合いのある地域なので、見慣れない人には皆気を付けている。しかし、移住者や外国人が増えたことで、県外ナンバーの車や、見知らぬ人が生活道路にいと、近所の人か分からない。 ・ 防犯、戸締りについて、近所に出かける時も戸締りをするように心掛けている。 ・ 防犯灯について、かなり設置が進んでいると感じているが、暗い場所もあるので、もう少し増やしても良いのではないかと。 ・ 住民から要望があれば、警察等の防犯啓発活動はあるが、地域に先頭に立って、自主的に防犯啓発活動を担う人はいない。

【成果指標】 目標値 実績値



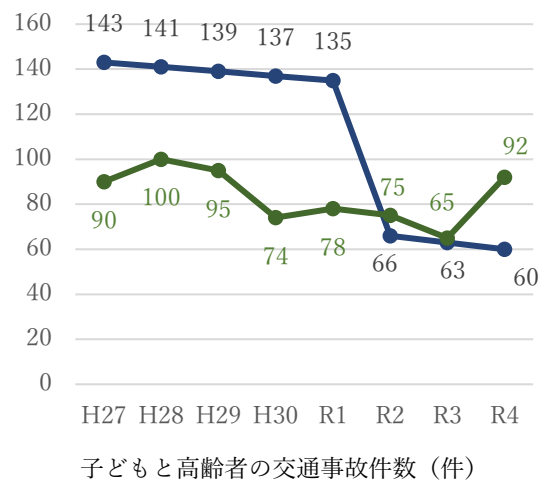
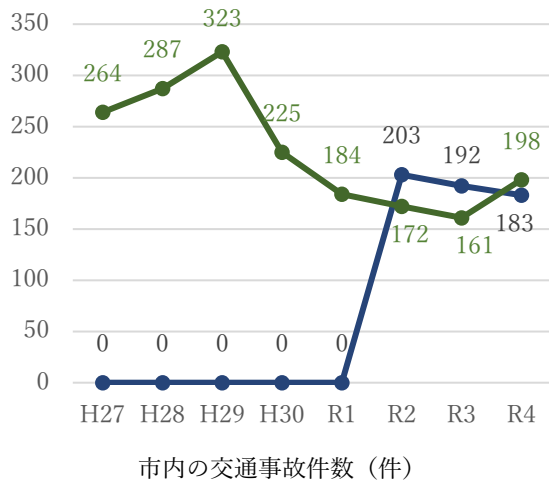
【満足度・重要度】



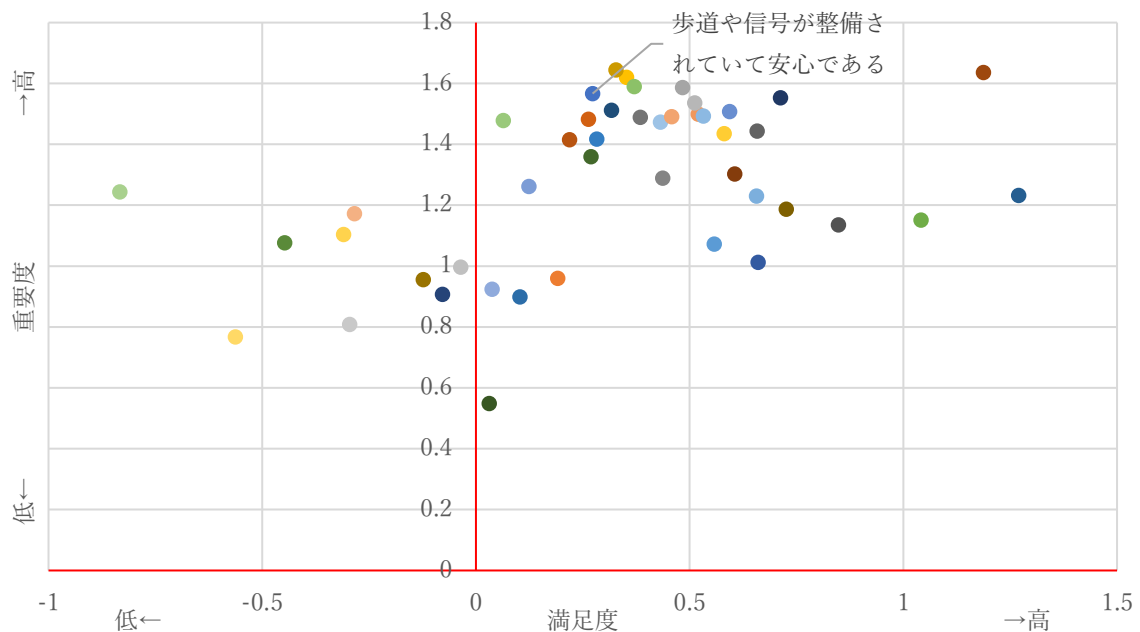
2.2.5. 交通安全の推進

【目的】	市民が交通事故に遭わない、交通事故を起こさない
【基本方針】	◆ 交通安全計画に基づき、警察署や地域及び関係団体と連携して交通事故防止を推進するとともに、カーブミラーなど必要な交通安全施設を整備します。
【基本事業】	○ 交通安全意識と交通マナーの向上 ○ 交通安全施設の整備
【施策の現状】	・ これまで市内の交通事故件数や、子どもや高齢者の交通事故件数は減少傾向にあったが、令和4年度は増加に転じた。
【施策の課題】	・ 専門交通指導員による交通安全教室や高齢者講習会等の実施による交通安全意識の啓発及び交通マナーの向上 ・ 交通安全施設の整備による交通安全の推進
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域によっては車の交通量が多いにも関わらず、横断歩道が非常に少なく、設置距離が離れている地域がある。警察にも相談したが、周辺の利用人数が少ないので設置がされないという現実がある。 ・ 国道52号などが渋滞すると、生活道路や農道をショートカットするために利用する人がいるが、スピードを出して非常に危険、運転者のマナー啓発が必要ではないか。 ・ 地域が発展することは良いが、生活道路を裏道代わりに使用する人もいて危ないと感じる時もある。 ・ 耕作放棄地や道路沿い住宅から生えている、雑草や枝の整備がされていない場合があり、道路にはみ出しているため危険と感じる場面がある。

【成果指標】 目標値 実績値



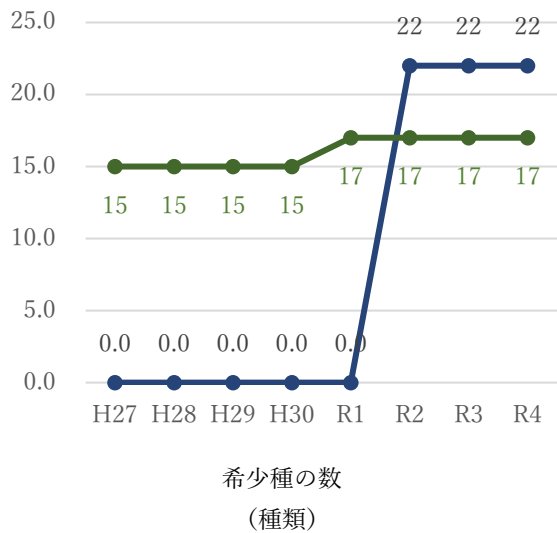
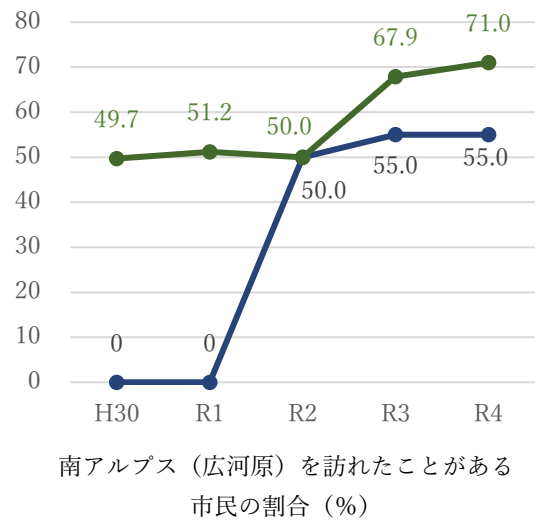
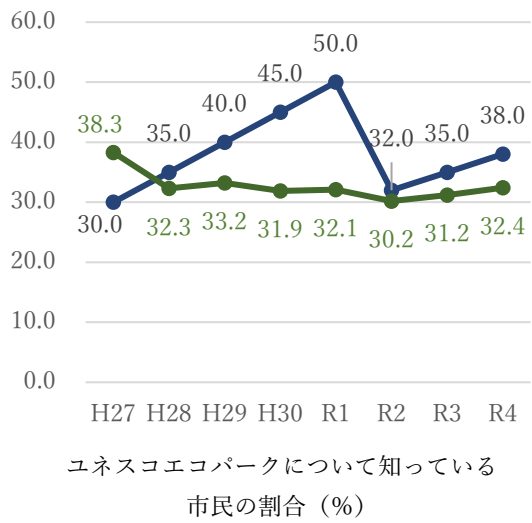
【満足度・重要度】



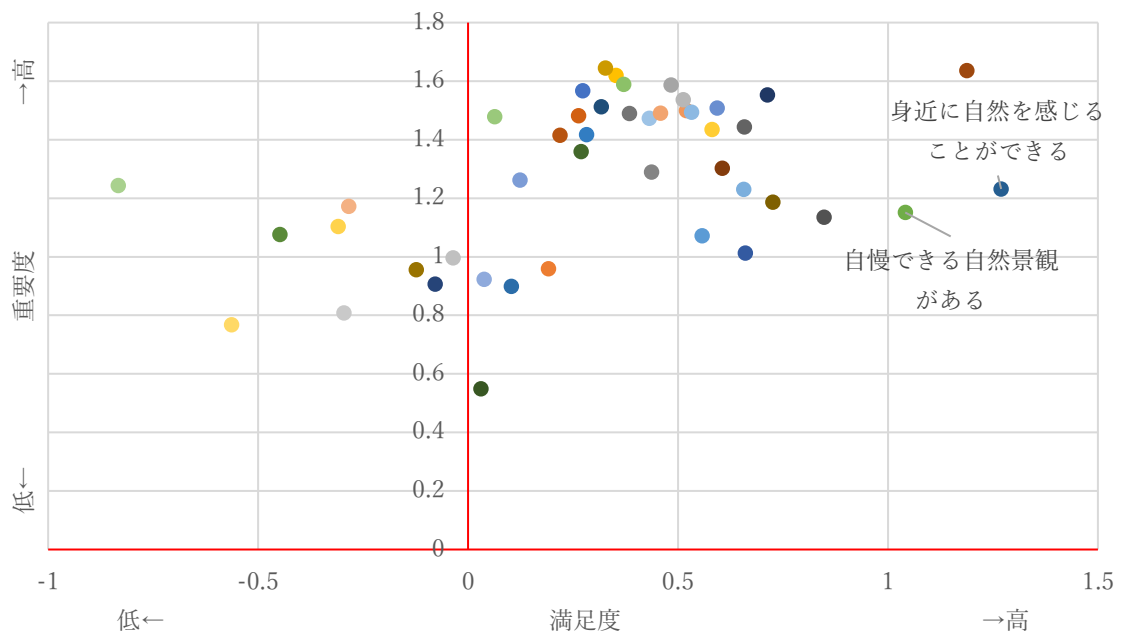
2.2.6. 自然との共生

<p>【目的】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が自然環境を保護、活用する ・ ユネスコエコパークのエリア（市内全域）において、生物多様性が保全される
<p>【基本方針】</p>	<p>◆ ユネスコの正式事業であるユネスコエコパーク（生物圏保存地域）の理念を普及し、日常生活においても南アルプスの自然環境の保全について意識を高めます。</p>
<p>【基本事業】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際連合とユネスコの事業についての啓発 ○ 生物多様性の保護・保全活動の推進 ○ 自然エネルギーの有効活用と普及促進
<p>【施策の現状】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユネスコエコパークの認知度が目標値を下回っている理由として、ユネスコエコパークのイメージが、北岳などの高山地帯であり市民には身近なものとして捉えられていないことや、日常的にユネスコエコパークという文字や言葉を目にしたたり聞いたりしないことなどが考えられる。
<p>【施策の課題】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ あらゆる年齢層へのユネスコエコパークの取り組みの啓発や市民参画の場面の構築 ・ 楡形山（アヤマ平・裸山）の防鹿柵の維持・管理、希少種の盗掘対策などによる生物多様性の保護・保全活動の推進 ・ 太陽光発電や水力発電などの自然エネルギーの有効活用と普及促進
<p>【市民の声】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ユネスコエコパーク」という言葉は普段から聞きなれない。・ 広河原も小学校の時に行ったことがあるが、行くきっかけもなく、道も整備されていない印象である。 ・ 啓発イベントも行っているようだが、市民の関心度を上げるにはきっかけ作りが必要で、市民の身近な存在であると認識されることが必要ではないか。 ・ エコパークで生物多様性をアピールすると、人が増えることで植物が乱獲され、失われる可能性がある。また、人が山に入ることによって花粉や種子などを持ち込み、それによって生態系に影響を及ぼすこともある。 ・ エコパークを「自然との共生」と捉えるのがよいのか。共生とは「共に生きる」ということで自然から何かを頂くということであるが、遠くから自然を見守ることも必要ではないか。

【成果指標】 目標値 実績値



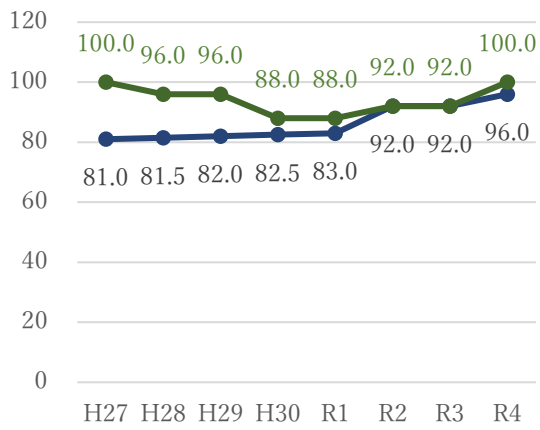
【満足度・重要度】



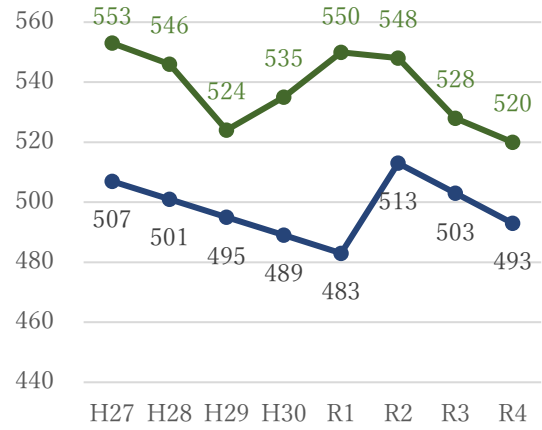
2.2.7. 生活環境の保全

【目的】	市民が良好な生活環境の中で暮らす
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 3R（リユース・リデュース・リサイクル）を推進し、ごみの減量化・再資源化に取り組みます。 ◆ 不法投棄の防止や公害対策を進めるとともに、環境保全に対する意識の向上を図り、良好な生活環境を保持します。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ ごみの減量化と再資源化の推進 ○ 環境美化の推進
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民1人1日当たりのごみ排出量は目標値を下回っているものの減少傾向にあり、市民の意識が向上してきている。 ・ 廃棄物リサイクル率が目標を下回っている要因として、民間企業の店頭回収による収集量の分散、昨今の急速なペーパーレス化による古紙類全体の減少が考えられる。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の広報媒体等を活用した周知による、ごみ減量化とリサイクルに対する市民意識の向上 ・ 単独浄化槽から合併浄化槽への転換、環境監視員の巡回等による環境美化の推進
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川の水質の指標でほとんどの河川が目標を達成しているのか、それで本当に水がきれいになっているのか。 ・ 生活や経済活動による排水が河川などの汚染につながっていると言われていたことから、水質については「クリーン処理率」を指標が考えられるのではないか。 ・ 多くの市民はスーパーなどでリサイクルを行っているが、指標ではこうした数字が反映されていないことから、リサイクル率の数字は実態と乖離しているのではないか。

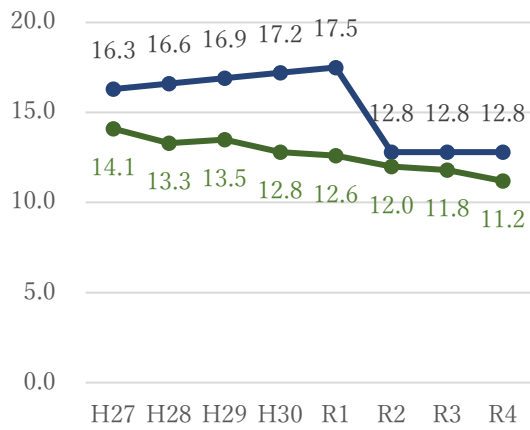
【成果指標】 目標値 実績値



平均 BOD 値が 2m g/l 以下の河川の割合 (%)

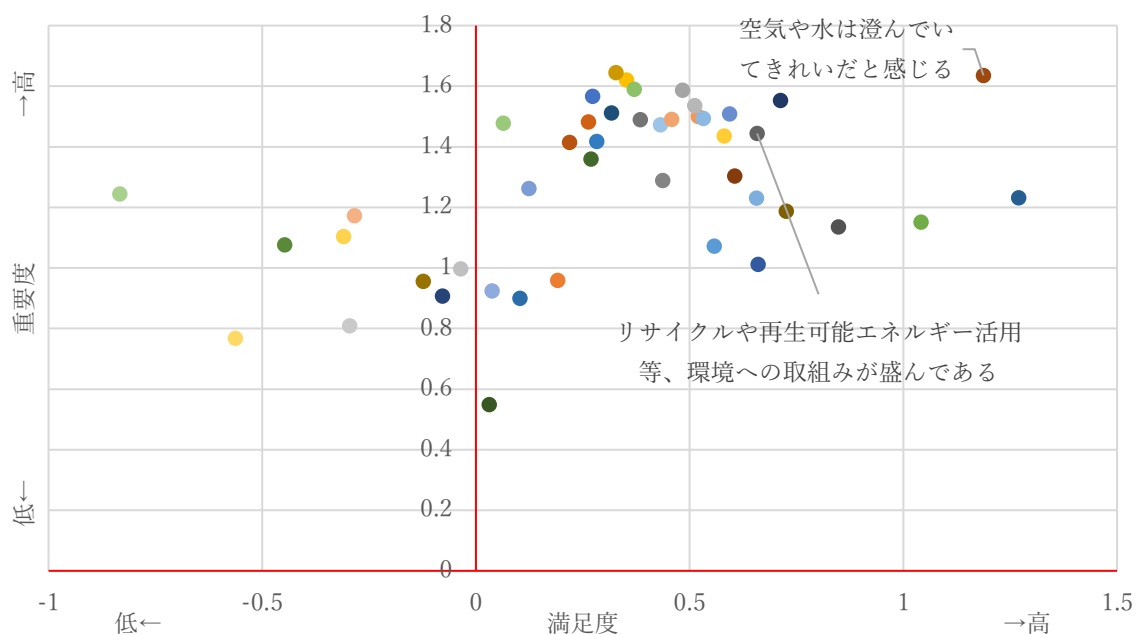


市民 1 人 1 日あたりのごみ排出量 (g/人・日)



廃棄物のリサイクル率 (%)

【満足度・重要度】

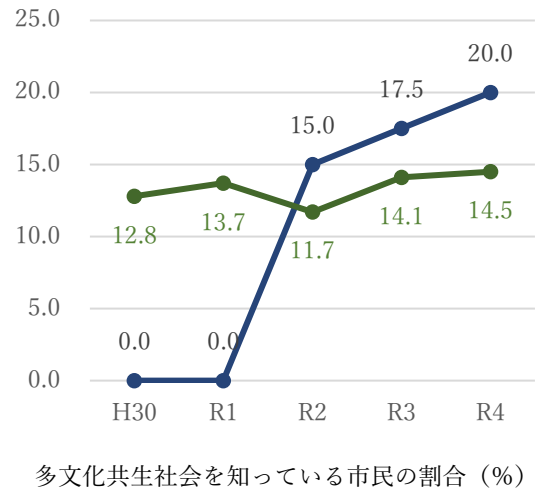
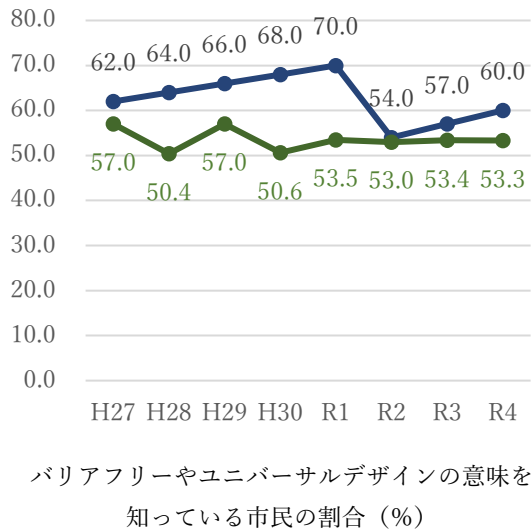
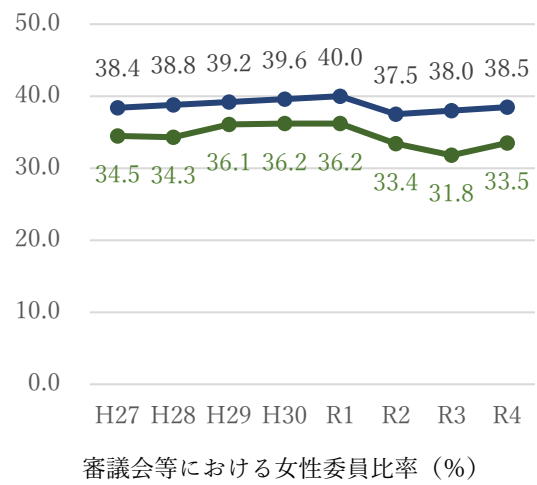
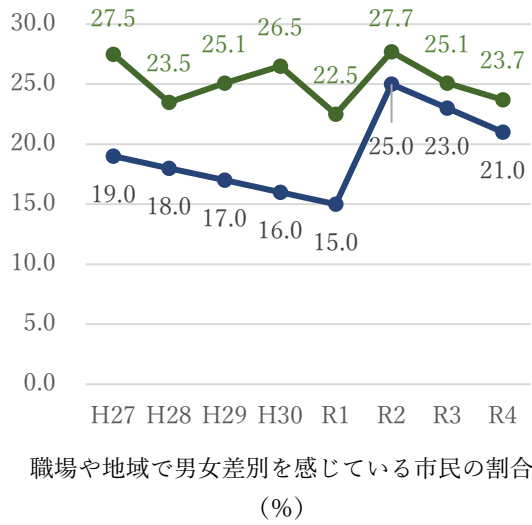


2.3. ともに生き支えあうまちの形成

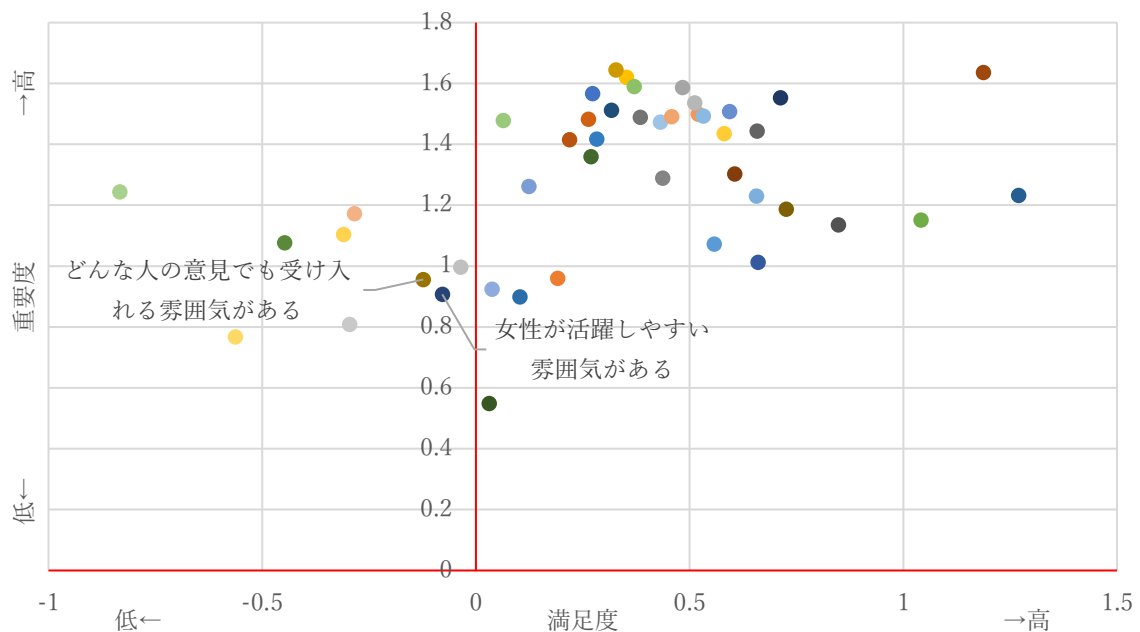
2.3.1. 多様性社会の構築

【目的】	市民が年齢・性別・文化などに関係なく、互いに尊重して暮らすことができる
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 家庭・地域社会・職場それぞれの環境の中で男女共同参画を推進します。 ◆ 互いを尊重しあい、共感しあえる社会（多様性の社会）を構築するための周知啓発と体制の整備に努めます。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 男女共同参画の推進 ○ 多様性社会の構築に向けた環境整備
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審議会等の改正時に女性を登用した団体数が増加したことにより、審議会等における女性委員比率は増加した。 ・ 地域で男女差別を感じている市民の割合、多文化共生社会を知っている市民の割合は若干だが増加している。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハーモニープランで掲げた目標達成に向け、庁内で連携した男女共同参画の取り組みの推進 ・ 多様性社会について正しく学び地域へ還元できる人材を増やしていくことによる多様性社会の構築に向けた環境整備 ・ 県が推進するパートナーシップ宣誓制度の他自治体と歩調を合わせた対応
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元出身の女性にとって男女の格差という感覚はあまりなく、また移住者にとっても風通しの良い地域と感じている。 ・ 行き過ぎた男女の差は問題だが、合理的な範囲内での一定程度の「区別」は必要となるように思う。 ・ 家を代表するのは男性という考え方が未だに地域内では根強く残っているところもあり、実際自治会などの地区の役員は男性が中心であることから、女性が参加しにくい状況も見られる。 ・ 外国からの居住者が増えていく中で、性別に限らず、宗教や文化などの「多様性」をどのように捉えていくのか、議論の必要がある。個人の特性を踏まえた、より細かな多様性について考えることも必要である。 ・ 学校教育の現場では、男らしさや女らしさといった男女の「区別」が残っている様子も窺えるので、意識的に変えていかなければならない。

【成果指標】 目標値 実績値



【満足度・重要度】

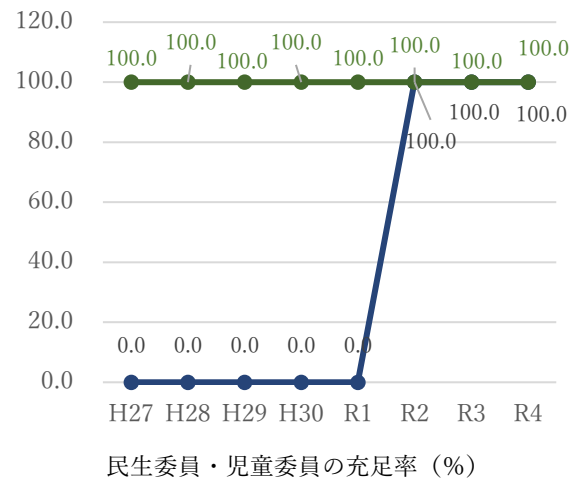
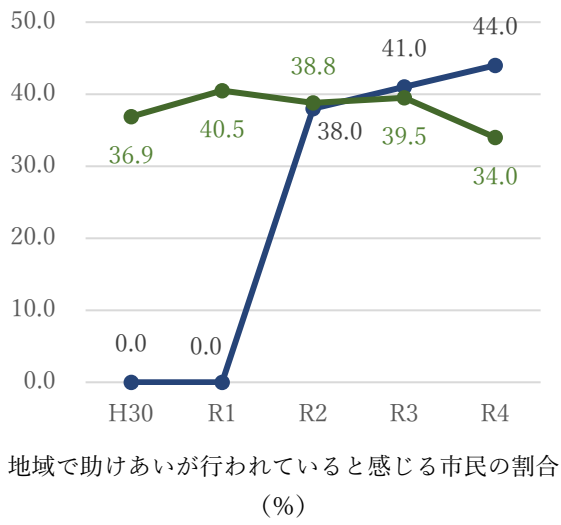


2.3.2. 地域福祉の充実

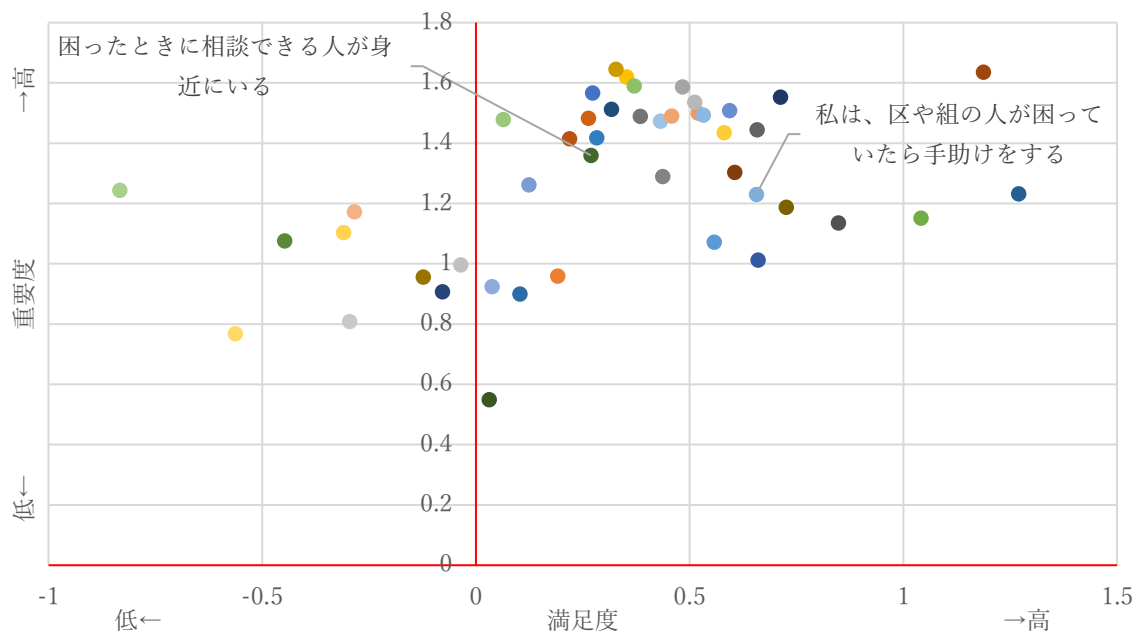
【目的】	市民が地域でお互いさまの気持ちをもって、支えあい・助けあいを実践できる
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 誰もが役割を持ち、お互いに支えあっていくことができる地域共生社会を目指します。 ◆ 地域の中での見守りや支えあう体制づくりを推進します。 ◆ 各種団体や関係機関と連携を図り、地域の現状や課題を共有し、課題解決に向けた取組を推進します。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 支えあい体制の充実 ○ 地域の福祉課題の共有と解決への取組
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で見守りや声かけなど助け合いが行われていると感じる市民の割合が低かった要因として、新型コロナウイルス感染症による地域での活動制限や外出自粛などにより孤立感を強めたり、人の集まりの中に入ることには抵抗を感じる人が多くなったことが考えられる。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別支援計画まで含めた避難行動要支援者の登録となってから 10 年が経過し、自治会及び地区の防災リーダー等との連携確認が必要 ・ 地域の福祉課題の共有と解決への取組に関するコミュニティーソーシャルワーカーとの連携体制の構築
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会及び地区の防災リーダーの方も高齢化が進んでいる中で、地域の行事や避難訓練にも参加せず、孤立している人も見られる。 ・ 若者世代の中には自治会に入らない世帯もあることから、住民の顔が見えず、自治会や自主防災組織が機能していない地域もある。 ・ 民生委員という立場ではあるが、自分一人で問題を解決できるとは思わず、基本的には最初に相談を聴き、地域の中の関係者等につなぐのか役割と思っている。 ・ 民生委員の充足率は高く熱心に活動しており、通学時の見守りなどは高齢者のやりがいや生きがいづくりの一助となっている。 ・ 避難行動要支援者に対する支援のように、福祉分野でも地域での防災に関する取組は重要だと感じている。

【成果指標】

● 目標値 ● 実績値



【満足度・重要度】

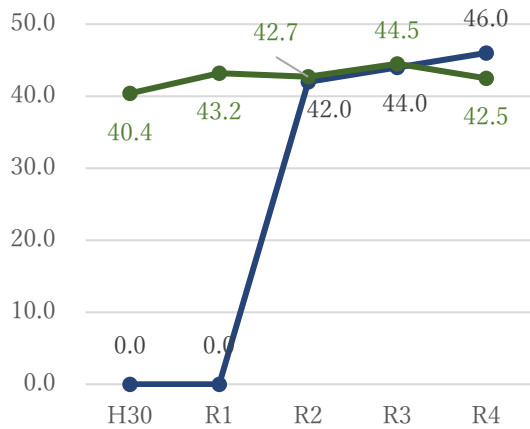


2.3.3. 福祉総合相談体制の充実

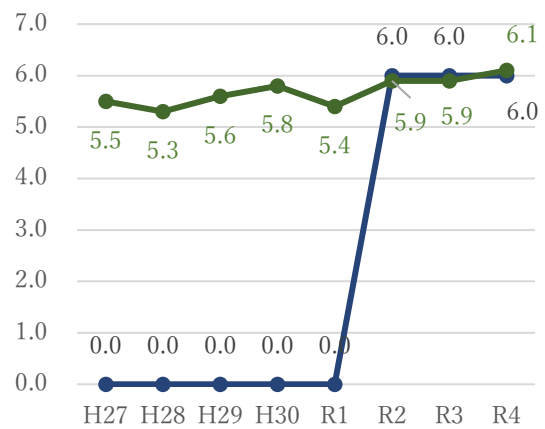
【目的】	市民が生活に困っても、生きることをあきらめない
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 分野別、年齢別などで区切らない全世代を対象とした包括的支援体制の構築を目指します。 ◆ 庁内や関係機関と連携を図り、市民が気軽に相談できる場を充実させ、相談支援体制を強化します。 ◆ 相談につながった市民が支援を受け、自立した生活を送ることを目指します。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合相談体制の充実と強化 ○ 自立に向けた支援の推進
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活に困ったとき、市の相談窓口があることを知っている市民の割合はこれまで増加傾向にあったが、R4は目標値に到達出来なかった。 ・ 生活保護率は、目安となるR4には6.0を上回ってしまった。 ・ いずれの指標も新型コロナウイルス感染症などの環境要因の影響が大きかったと推察している。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合相談体制の充実と強化については、重層的支援体制の整備が課題 ・ 自立に向けた支援については、就労準備支援事業の対象者の拡大、生活困窮者の家計改善支援が必要
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域において、生活面で問題を抱えている様子から心配な人がいても、あまり深く聞く訳にはいかず、どこまで踏み込んでいいのかが難しい。 ・ 生活資金の問題については、恥ずかしくて相談できないという人も多いだろうし、本人自身が助けを求めなければ対応もなかなか難しい。 ・ 市役所などに相談窓口があることをしっかりと周知し続けていく必要があり、情報媒体もパソコンやスマートフォンで見れるだけでなく、回覧板での周知も重要だと思う。

【成果指標】

● 目標値 ● 実績値

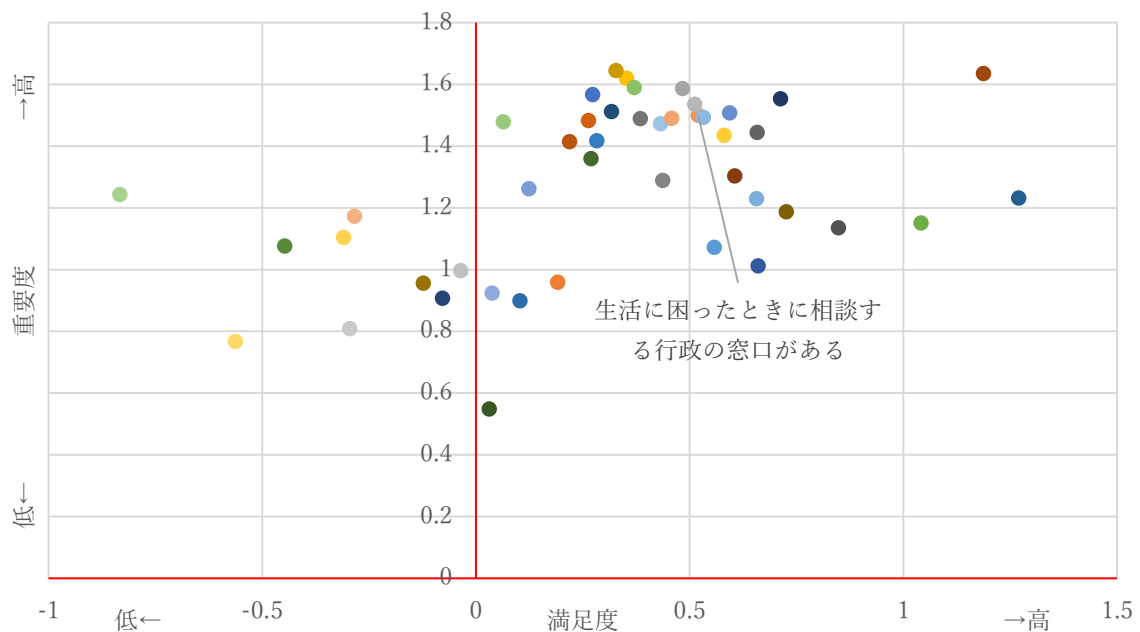


生活に困ったとき、市の相談窓口があることを知っている市民の割合 (%)



生活保護率 (%)

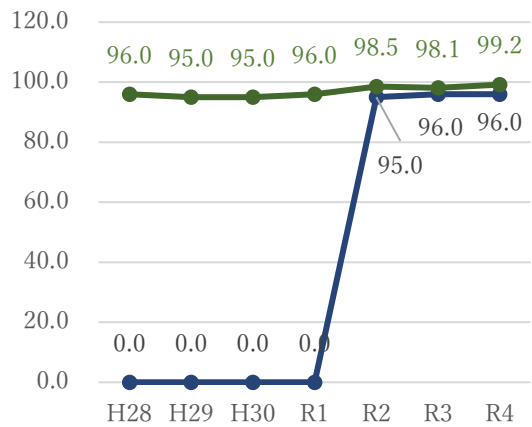
【満足度・重要度】



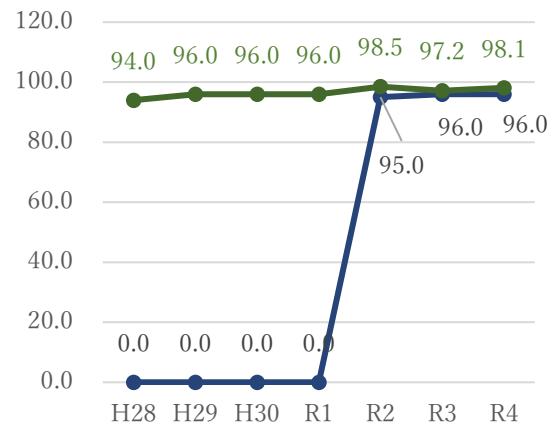
2.3.4. 保育・幼児教育の充実

【目的】	未就学児が、適切な環境のもとで、心身が健全に発達する
【基本方針】	◆ 保育を必要とする未就学児に対し、保育の量と質を確保することで、健全な心身の発達を図ります。
【基本事業】	○ 保育の量の確保 ○ 保育の質の確保
【施策の現状】	・ 指標すべてが目標値を達成している要因として、さまざまな子育て支援施策の充実の他、保育士の確保、保育の質の確保、発達特性のある園児の保護者に寄り添い適切な援助が提供できていることなど考えられる。
【施策の課題】	・ 保育士の処遇改善・働き方改革・ICT化などの体制整備、0～2歳児の入所受け入れ体制の確保、一時預かり事業の拡充などにより保育の量の確保 ・ 医療的ケア児等の支援を必要とする児童や外国籍の入所、食物アレルギーなど児童への対応など、保育の質の確保
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の立場からみて、南アルプス市の保育は手厚く、とても良い印象を持っている。 ・ 土曜日の保育所（園）での預かりも含め、保育の充実は重要である一方で、それが子どもたちにとって本当に良いことなのか考える必要がある。子どもは両親と一緒にいることを望んでいるケースもある。 ・ 保育所（園）での預かりが必要なのは、夫婦ともに働かなければならない経済状況も背景にあることから、雇用の確保や賃金アップについてもあわせて考える必要がある。 ・ 保育の現場では女性の保育士が大半であるが、その理由の1つとして賃金の低さが考えられる。保育現場にも多様性が求められる中で、より男性が働けるようにするとともに、保育士の賃金を上げていくことも必要である。

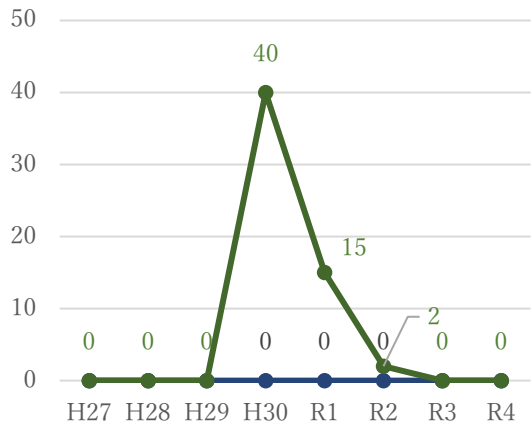
【成果指標】 目標値 実績値



子どもを愛情深く大切にされた保育がなされていると思う保護者の割合 (%)

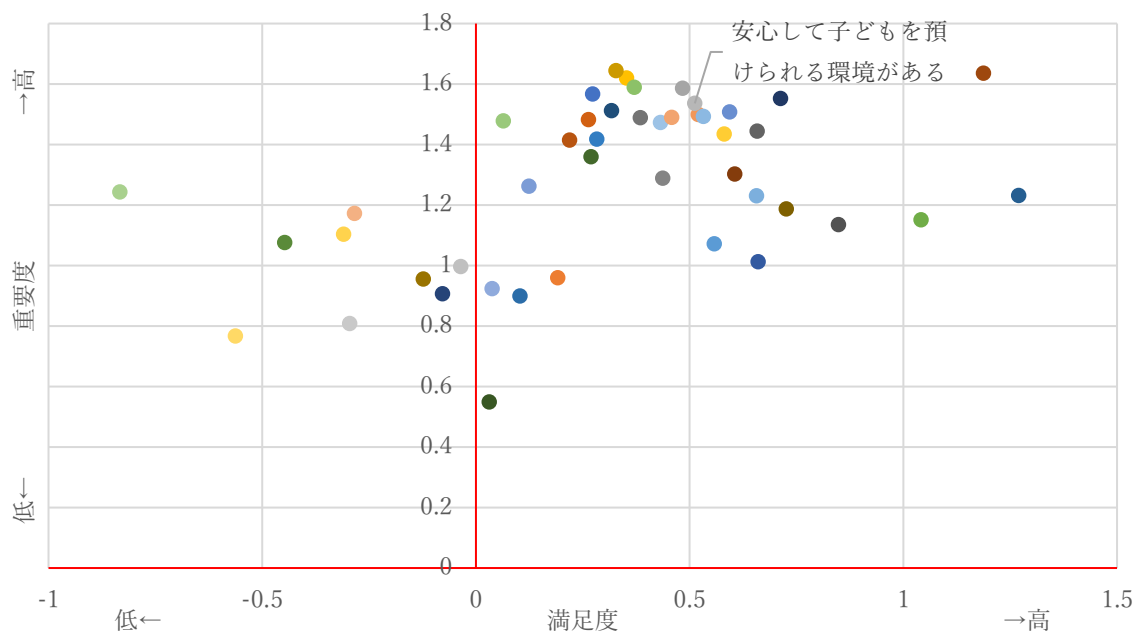


子どもの発達の特徴や発達過程に沿った適切な援助が行われていると思う保護者の割合 (%)



希望する保育所に入所できなかった児童数 (人)

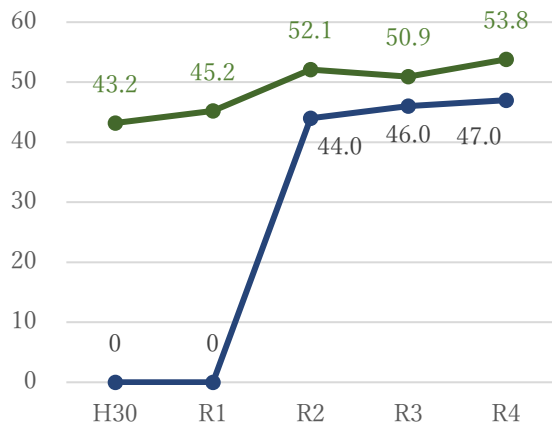
【満足度・重要度】



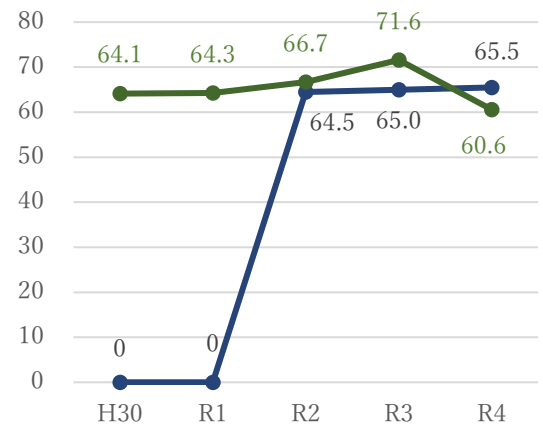
2.3.5. 子育て支援の充実

【目的】	保護者が安心して子育てができる
【基本方針】	◆ 地域や社会が保護者に寄り添い、子育てに対する負担や不安、孤立感を和らげるとともに、保護者が親として成長することを支援します。
【基本事業】	○ 保護者が健やかに子育てできるための支援の推進 ○ 子どもへの途切れのない支援の推進
【施策の現状】	・他市にさきがけての未満児の保育料の無償化や子育て支援施策の充実により、安心して子育てできるまちとして認知され、転入意欲の高まりのきっかけとなったと思われる。
【施策の課題】	・子育て家庭や妊産婦で悩みを抱えたまま子育てする家庭や児童虐待に係わる相談支援の充実 ・乳幼児から保育所・小学校・中学校・高校まで途切れのない支援を行うためには各機関との的確な連携
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市には、行政サービスの他に民間事業者による子育て支援サービスがあることは、子育て世代にとってありがたい。 ・公共交通機関が十分でないために、子どもたちが自分たちで移動することが難しく、親が送り迎えをしている。子どもの自立への影響も含め、公共交通のあり方などを考えていく必要がある。 ・インターネットを通じて子育てに関する情報が得られる時代ではあるが、情報だけではなく、人の心の問題に寄り添う愛育会の取り組みなども重要ではないか。 ・子育て支援を充実させても、出生率の上昇にはつながっていないように感じる。その理由の1つとして、若者世代が将来に見通しが立たず、それが不安につながっているからではないか。 ・将来に不安もあるが、家族を持つことの楽しさを若者世代に伝えていくことも必要である。 ・子育てには長い時間がかかり、大学進学まで考えると費用もそれなりにかかることから、長期にわたる支援も必要ではないか。

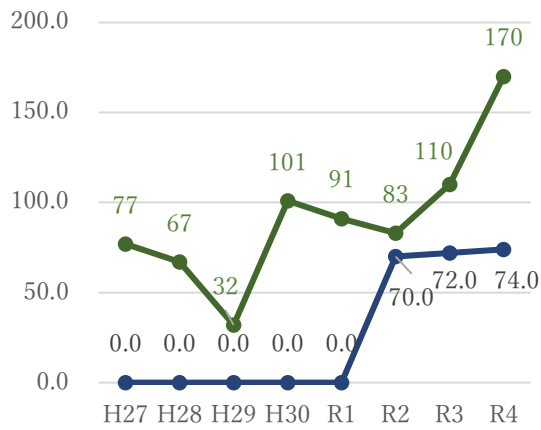
【成果指標】 目標値 実績値



子育てしやすいまちだと思う市民の割合 (%)

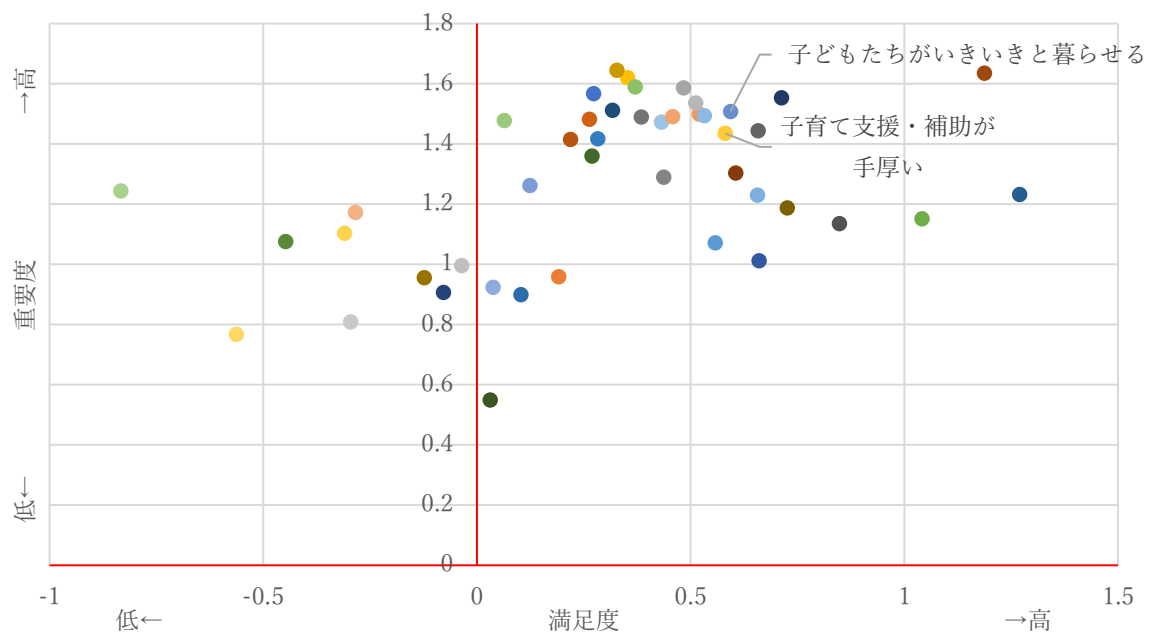


子育てについて気軽に相談できる相手や場所があると思う子育て中の市民の割合 (%)



12歳以下の転入による増加数 (人)

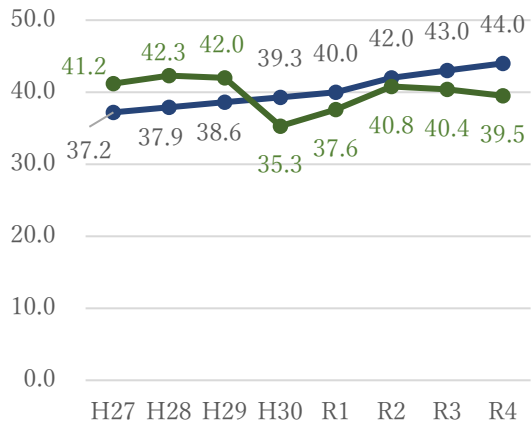
【満足度・重要度】



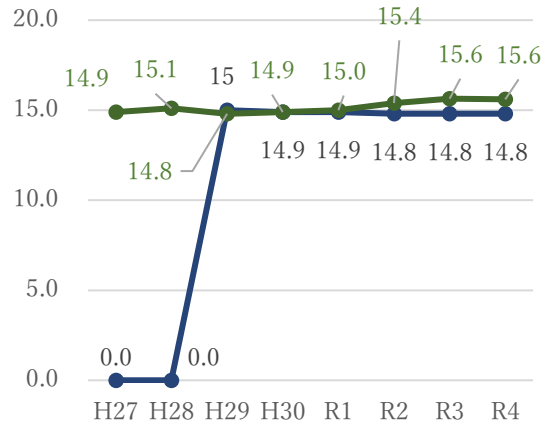
2.3.6. 高齢者福祉の充実

【目的】	高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を送ることができる
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 健康・長寿のまちづくりを実現するため、高齢者が地域の支えあいの中で、その人らしく安心して暮らし続けられる仕組みづくりを推進します。 ◆ 包括ケアシステム（生活支援、介護予防、医療・介護連携、地域支えあい協議体）の構築を推進し、要介護状態となることを抑制します。 ◆ 認知症の正しい理解の普及・啓発に努め、認知症高齢者にやさしい地域づくりを推進します。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域包括ケアシステムの構築 ○ 認知症にやさしい地域づくりの推進 ○ 高齢者の社会参加の推進
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年代別に見ると、50歳代以降において割合が低くなっている。物価高騰やコロナ禍による外出自粛などにより、将来的な経済面や健康面への不安に対し、高齢者ほど影響を受けていることが推測される。 ・ 要介護認定者のうち、75歳以上が9割以上を占めている。人口構造の変化により、75歳以上の高齢者が占める割合が増加していることが、認定率増加の要因と考えられる。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の相談窓口である地域包括支援センターの周知、相談体制の更なる機能強化 ・ 2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると推計される中、認知症基本法の制定により、共生社会の実現に向けた取組みの推進 ・ 住み慣れた地域で安心して生活し続けるため、高齢者の社会参加や、地域支えあい協議体活動への理解・自治会等各種団体との連携強化への取組み
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険の各種サービスや高齢者福祉サービスはかなり充実している。 ・ 要介護認定を受ける前の段階で、百歳体操など、地域で様々な取組みを通して介護予防をしていくことが重要である。 ・ 介護や高齢者施設は充実しているが、それらを極力使わず、元気な状態であることが重要ではないか。 ・ 介護保険制度が普及し、一人ひとりが人生の最後まで自分らしく生きられるように多様なサービスの受給が可能となっていることは、とても良いことだと思う。ただ、そのためのサービスやシステムは、まだ不十分ではないとも感じている。 ・ サービスを受けるという考え方だけでなく、高齢者自身が生きがい持ったり、地域における役割があると思えることが大事ではないか。 ・ 地域支えあい協議体では、専門職の方を交えて事例研究会などを行っており、他の協議体の実践事例を参考に、新たに協議体が設置された事例もある。今後は、高齢者だけでなく、子どもも一緒に加わって活動する共生型の福祉サービスも重要となると思う。

【成果指標】 目標値 実績値

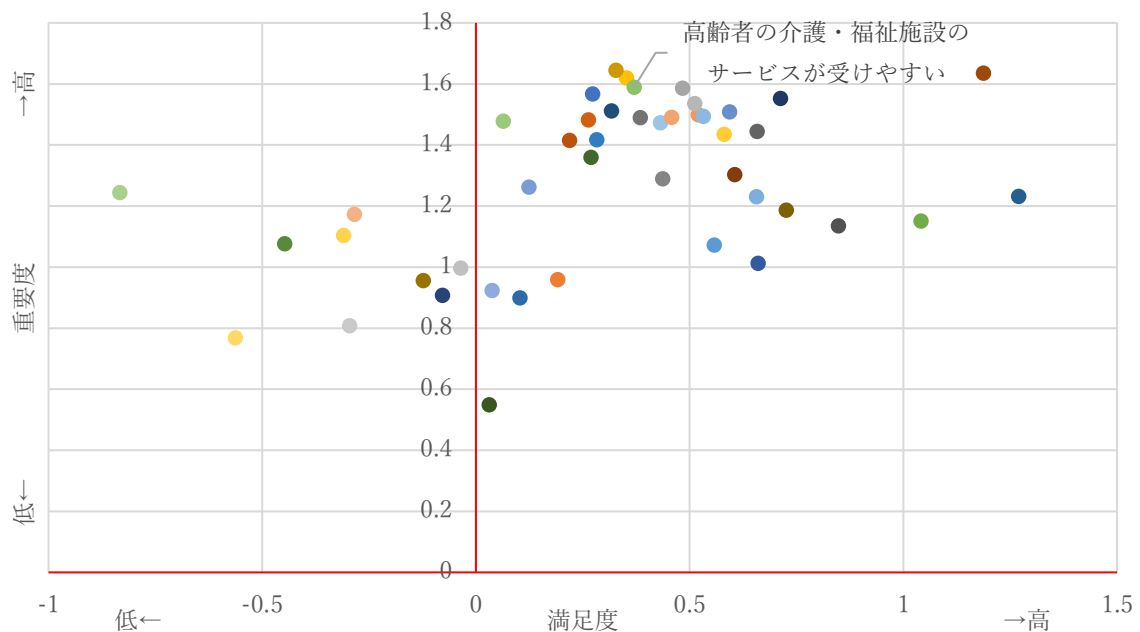


老後も安心して暮らせると思う市民の割合 (%)



65歳以上の介護認定率 (%)

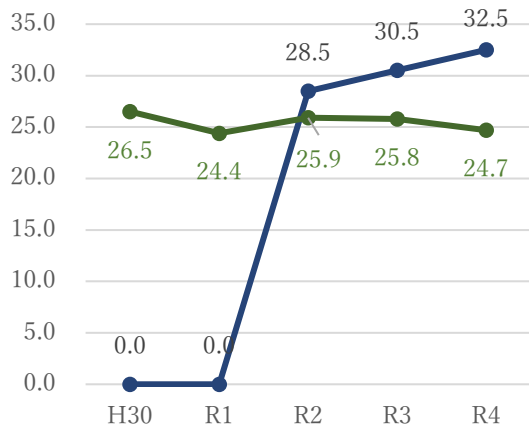
【満足度・重要度】



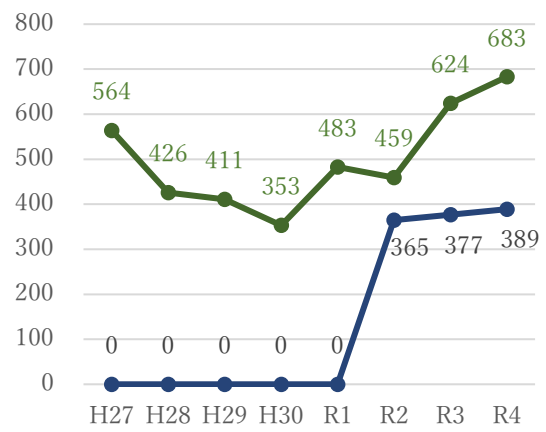
2.3.7. 障がい者福祉の充実

【目的】	市民が、障がいの有無にかかわらず、誰もがいきいきと日常生活を送ることができる
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 障がい者が望む地域生活を送ることができるよう支援に努めます。 ◆ 障がい児支援のニーズの多様化へのきめ細やかな対応に努めます。 ◆ サービスの質の確保・向上に向けた環境の整備に努めます。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相談事業の推進と充実 ○ 生きる力を養う環境の整備
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいのある方等への合理的配慮に関する周知が不足していることにより、地域に理解が浸透していないこと、あるいはコロナ禍による地域コミュニティの希薄化が要因と考えられる。 ・ 障がい者の就労相談件数及び福祉しごとサポートに紹介し就労につながった件数の大幅な増加は、障害者相談支援センターと福祉しごとサポートとの連携によるサポート体制が強化されたことが要因と考えられる。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度施行の障害者総合支援法改正に伴い、相談支援事業所への助言・指導などの業務が明確化されたことに対する、基幹相談センター機能の充実 ・ 就労継続支援事業から一般就労への移行に関する、就労移行支援及び就労定着支援事業所の充実 ・ 発達障がいへの理解促進を目的とした市民、関係者向けの各種研修会等の充実
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者の就労に関する相談件数が多いだけでなく、それが一般就労につながっていることは素晴らしい。 ・ 障がい児に対するサービスはとても充実していると感じるが、充実しているがゆえに早い者勝ちみたいなのところもあるため、サービスを受給するだけでなく、地域で助け合えるような仕組みもあると良いと思う。 ・ 障がいを持つ子どもについては、本人の意思というよりも親や周囲の支援する側の事情によってサービスを受給等が決められてしまうこともあるので、本人の意思も大切にすべきである。 ・ 地域支えあい協議体の活動対象は主に高齢者だと思うが、その対象に障がい者も組み込んで欲しい。

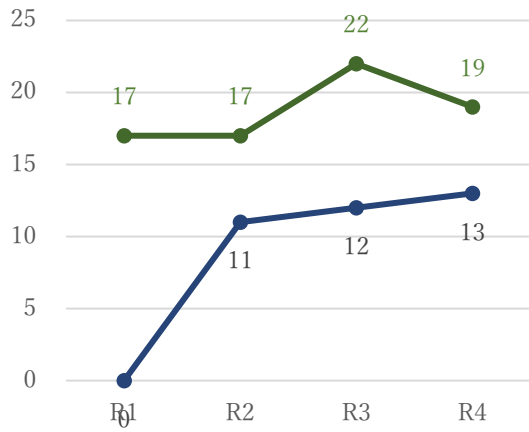
【成果指標】 目標値 実績値



障がいのある方への声かけ、見守りを行っている市民の割合 (%)

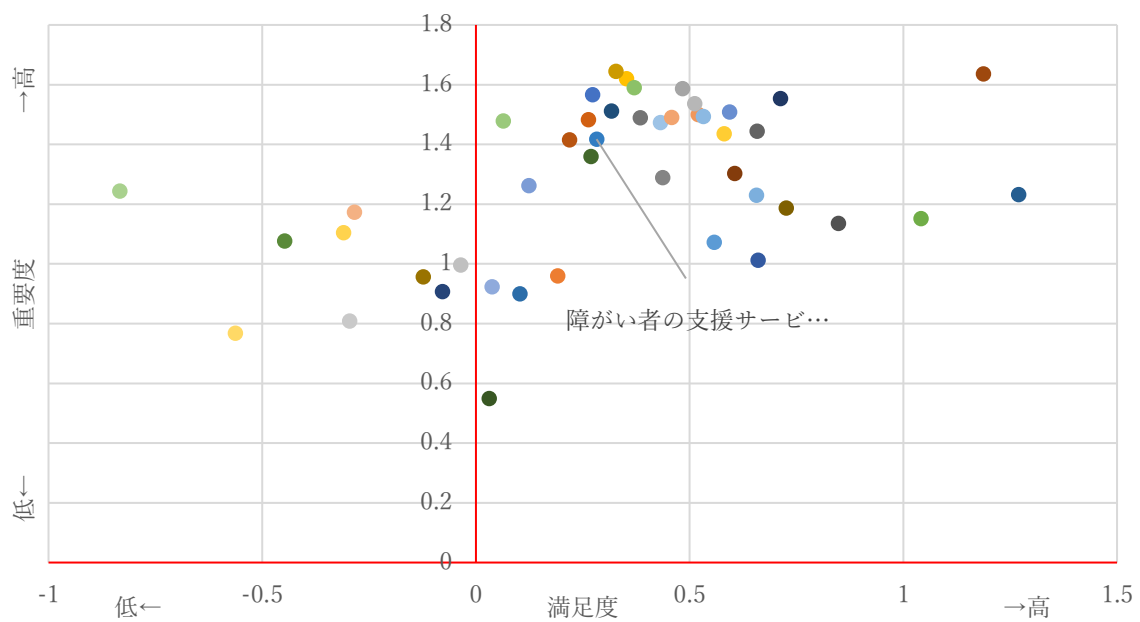


障がい者の就労相談件数 (件)



福祉しごとサポートで紹介し就労につながった件数 (件)

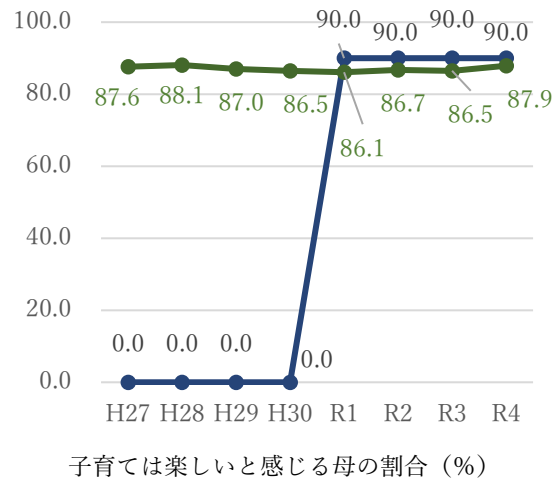
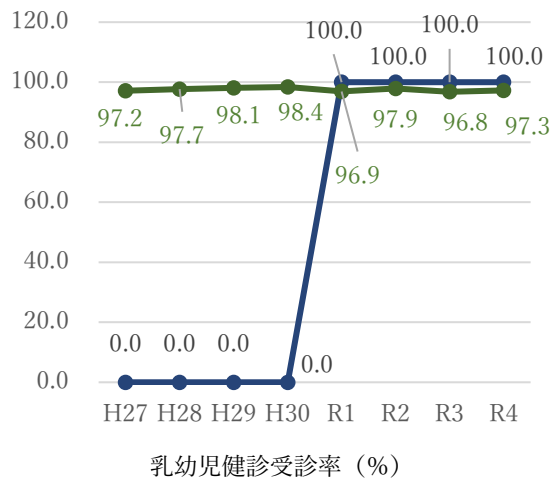
【満足度・重要度】



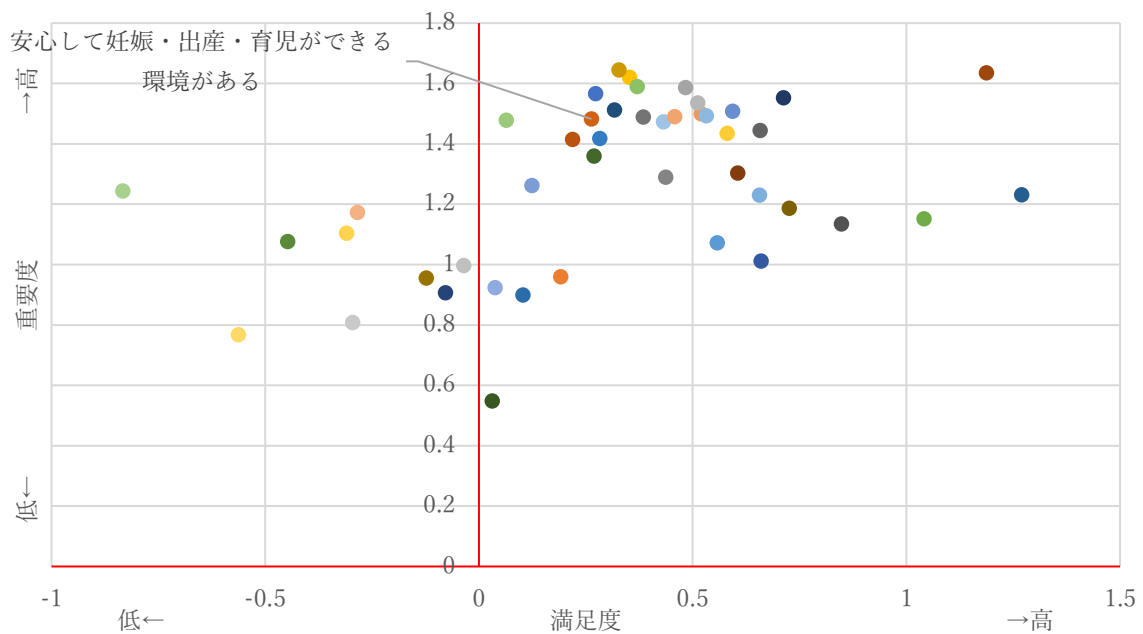
2.3.8. 母子保健の充実

【目的】	<ul style="list-style-type: none"> ・母が、安心して妊娠・出産し、育児ができる ・0歳～3歳児が、健やかに育つ
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 包括支援機能を充実させ、妊娠期から母の気持ちに寄り添いながら、途切れなく育児支援できる体制の継続・強化に努めます。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 妊娠・出産・育児の支援 ○ 相談事業の推進と充実
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児健診の受診率が目標値を下回っている原因として、継続的に医療、療育機関での指導を受けているケースや、里帰り出産で市外にて長期的に過ごすケースがある。 ・ 子育ては楽しいと感じる母の割合が目標値を下回っているが、複合化、複雑化した課題の中に母子が置かれているケースでは、否定的な回答になると考えられる。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児健診未受診ケース、子育てが楽しいと感じないケースや複合化、複雑化した課題の中に母子が置かれ支援が必要なケースに対応を実施できる「こども家庭センター」の構築 ・ 人員不足による職員への負担は慢性化する中、相談体制を継続させることが課題
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所（園）に子どもを通わせている親は保育士に相談ができるが、そうでない母親は、地域の保健師が頼りである。以前は、子どもが生まれると愛育会が訪問していたが、今は個人情報の問題もあり、子どもが生まれたという情報を得にくく、活動が難しい。 ・ 乳幼児健診は一定期間での受診が決められており、子どもの発育について指導するだけでなく、誕生月が近い子の親同士がつながる機会にもなる。こうした機会をうまく活用し、愛育会の活動を行う方法もあるのではないか。 ・ 一方で、乳幼児健診は、子どもの発育の違いが比べられたり、それによって母親として採点されているように感じることもあり、母親が不安に感じることもつながっているように思う。こうした母親が不安にならないように、精神面でのフォローをして欲しい。

【成果指標】 目標値 実績値



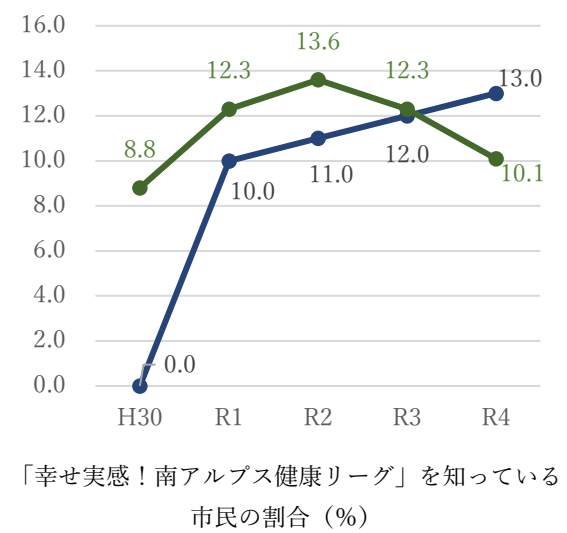
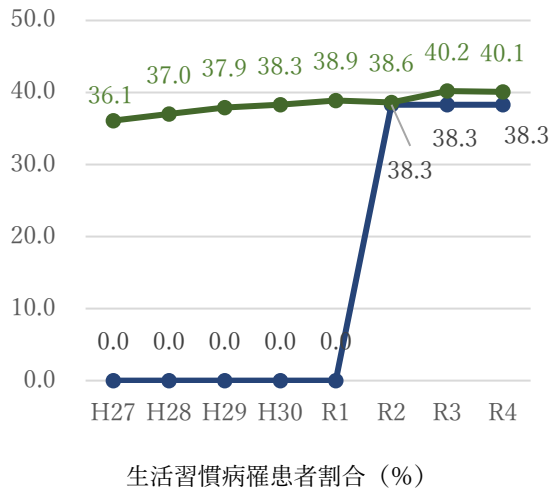
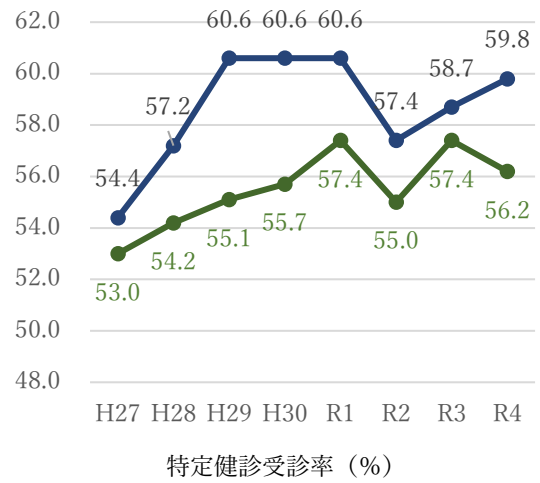
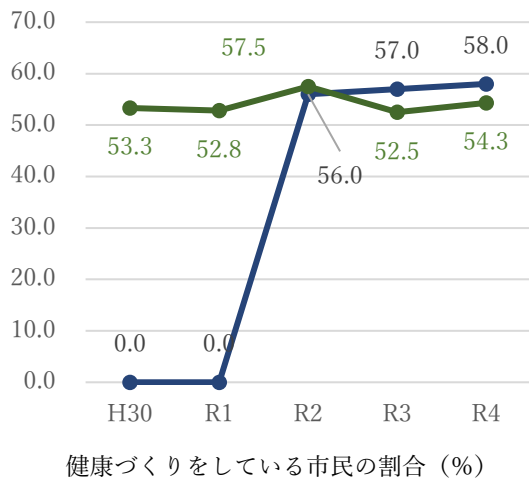
【満足度・重要度】



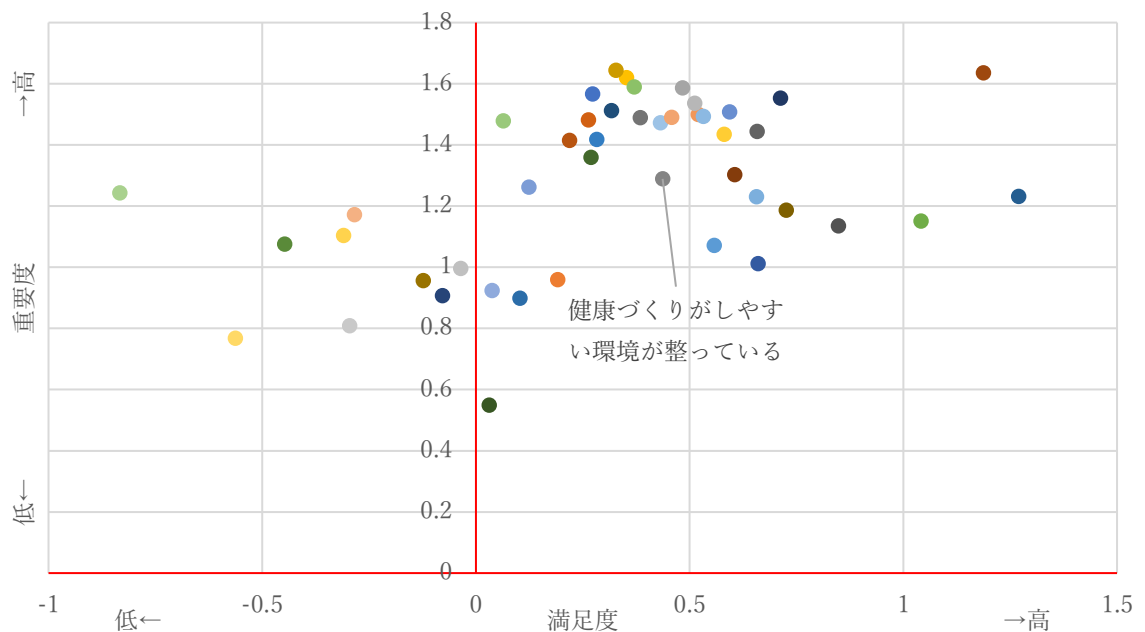
2.3.9. 健康づくりの推進

【目的】	市民が心身ともに健康に暮らす
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 健康に関する正しい知識を広く周知し、健康意識を高めて健康的な生活につながるよう支援します。 ◆ 健康診査を受けることで、自身の健康課題に気づき、適切な健康行動がとれるように支援します。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康意識の向上 ○ 健康診査受診の奨励
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各指標の目標未達の要因としては、長期化するコロナ禍の影響が考えられる。特に令和4年度は夏の第7波、冬の第8波に見舞われ、外出控えにより、健康リーグを含む健康づくりへの影響や、運動不足による生活習慣病の進行などが考えられる。 ・ 一方で、コロナ禍だけではなく、平成30年度、令和元年度の平時も含めた時系列の比較をしてみると、全指標とも、ほぼ横ばいのトレンドであることから、市民の健康意識は高く維持されている。それゆえ感染症への対策意識も高く、自主的な行動抑制による結果が目標未達の要因と考えられる。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「健康リーグ」の認知度の向上 ・ 後期高齢者を対象とした脳ドックの実施状況の分析及び見直し
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「健康リーグ」の認知度は低いものの、スマートフォンを使って歩数に応じたポイントが得られる取り組みなど、「健康リーグ」以外のサービスを使っている人もある程度いることから、健康づくり全体に関する取り組みをここで示されている数値だけで評価することは難しい。 ・ 市などによるフレイル予防を始めとした各種講座の存在は知っているが、周りで参加している人はあまりいないのが実感である。 ・ 農家の作業や犬の散歩など、都会とは違う形で身体を動かしている人がある程度いるので、それらを把握するのは難しい。 ・ ウォークラリーなどの各種イベントにおいて、ゲーム感覚で楽しみながら身体を動かす機会が得られると良い。また、それを通じて市の担当職員の方と交流する機会にもなる。 ・ 高齢者でも参加でき、参加者の交流の機会にもなるような小さなスポーツイベントがたくさんあると良い。

【成果指標】 目標値 実績値



【満足度・重要度】

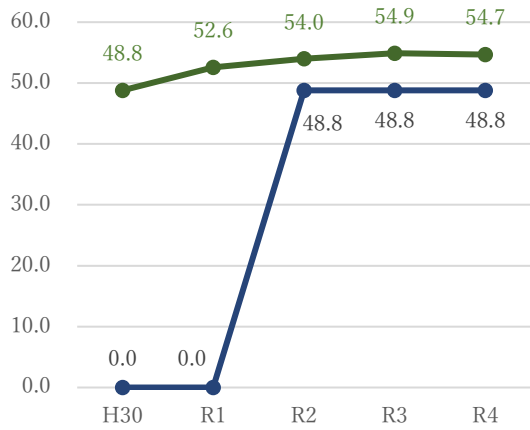


2.3.10. 地域医療の充実

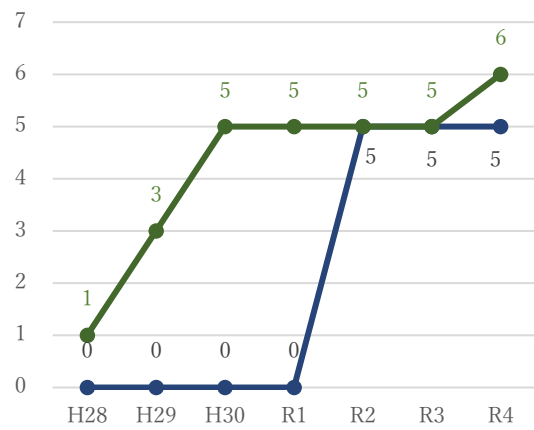
【目的】	市民が適切な医療を受けることができる
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師を推奨して、地域の中で相談できる体制づくりを充実します。 ◆ 初期救急医療体制や在宅医療体制を整備・充実していくため、県や関係機関との連携・調整を図ります。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 救急医療体制の確保・整備 ○ 在宅医療体制の継続・維持
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平日昼間及び夜間・休日の初期（一次）・二次救急医療体制について、市内3病院を中心に連携を深めることで、隣接市町を含めた医療圏域において継続的に整備されている。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域的な調整、かつ医療機関の逼迫した実態への根本的な解決策が課題 ・ 市内における在宅医療に取り組む医療機関の確保
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掛かりつけ医としての地域の医療機関は、比較的多い印象がある。 ・ 地区の中には、遠方の大規模な医療機関に掛かるための移動手段が問題となるケースがあり、地域支えあい協議体がボランティアで移動支援を行っている。

【成果指標】

● 目標値 ● 実績値

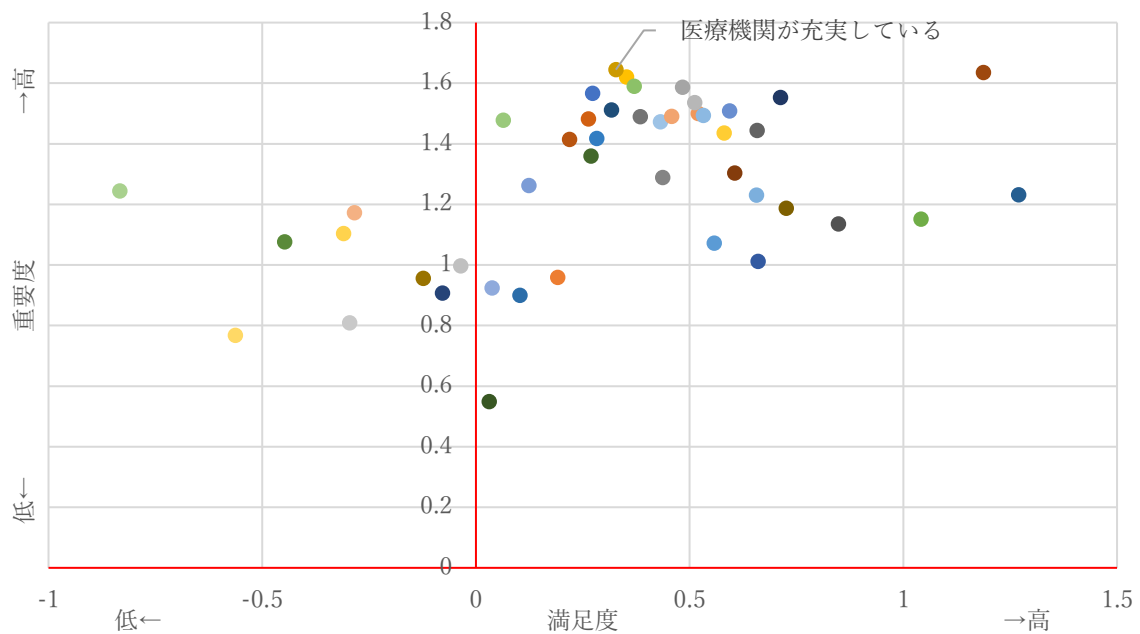


安心して医療が受けられると感じている市民の割合 (%)



在宅診療所の登録件数 (件)

【満足度・重要度】

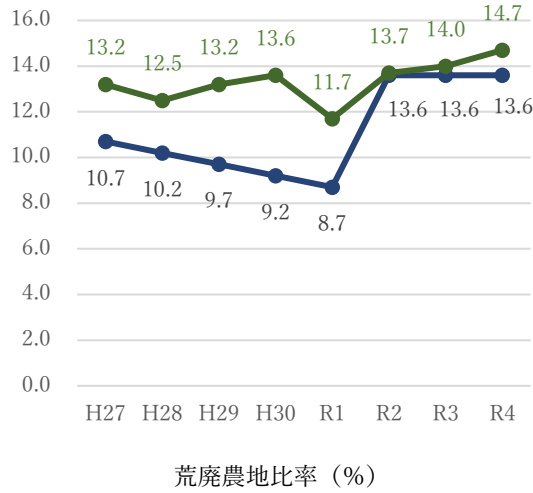
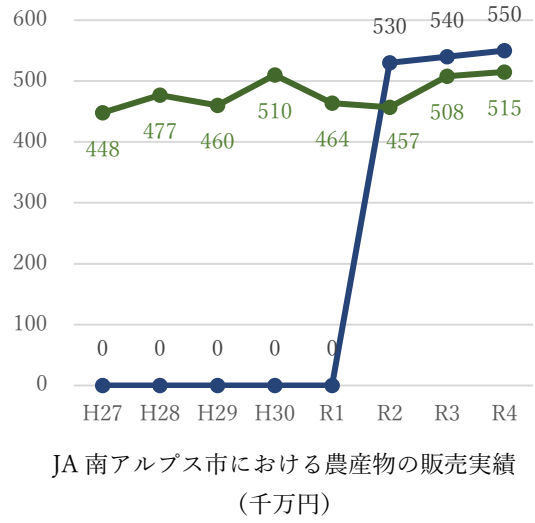
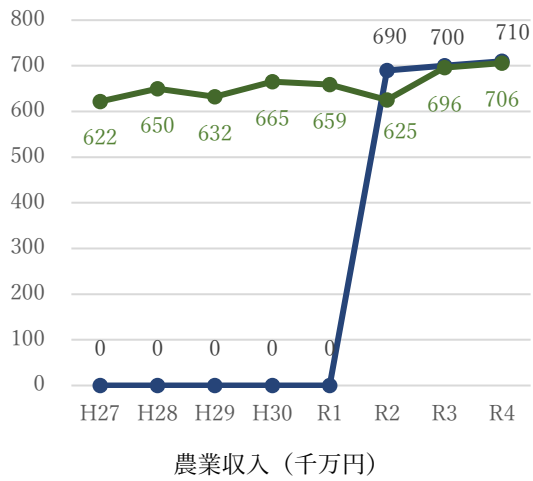


2.4. うるおいと活力のある快適なまちの形成

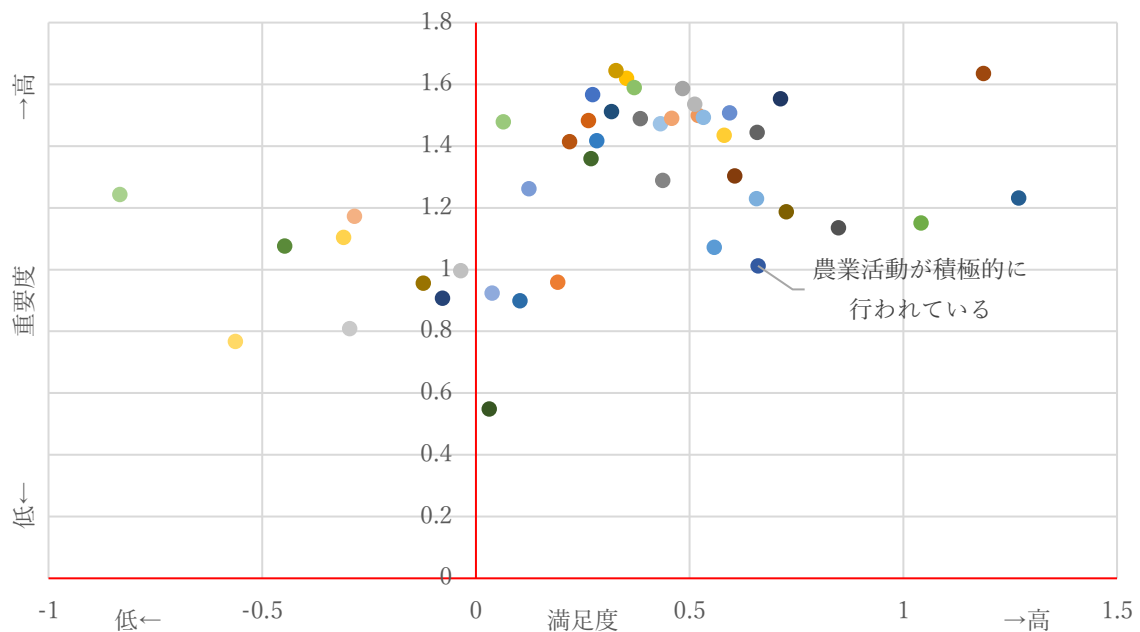
2.4.1. 農林業の振興

【目的】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業生産者（農家）の農業所得が向上する ・ 農地が農地として適切に保全される
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 安定した所得が見込まれる農業への転換を支援することで、農業従事者の増加と農産物の生産性向上を促し、さらに、農地の保全につなげます。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担い手の確保と育成 ○ 遊休農地解消の促進 ○ 農産物の高品質化と付加価値の向上
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度比で見ると、スモモは若干ではあるが減少しているものの、モモとブドウについては増加している。 ・ 荒廃農地比率については、横ばい状態を維持していたが、R4年度は昨年度に比べ上昇した。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南アルプスブランド基準に見合う品質・規格製品の生産、生産農家、検品、広告・宣伝、販路の設定 ・ 山林部分に介在している農地の一帯整備
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家も高齢化が進み、後継者の不足が課題となる一方で、収益性の高い農作物を栽培することで後継者を確保している農家も見られ、農業による安定的な収入の確保が後継者の問題にもつながっている。 ・ 農業に関心がある若者世代は一定程度おり、高齢となったことで諦めようとしている農家とのマッチングや、その後の農業指導などの支援体制の構築が重要となる。 ・ その土地で作れるものの価値が上がってくれば、南アルプス市で農業をしたいという人も出てくると思う。 ・ 果樹王国としての南アルプス市の特徴を今後も残していくために、何が課題でそのためにはどのような解決策が考えられるか、そして実際に行動に移していくことが重要だと思う。 ・ 荒廃農地をいかにして防ぐかが重要となる一方で、人口の増加に伴い農地の宅地化が進んでいる地区と宅地化が進まない地区との間に差が生じてきているように感じる。

【成果指標】 目標値 実績値



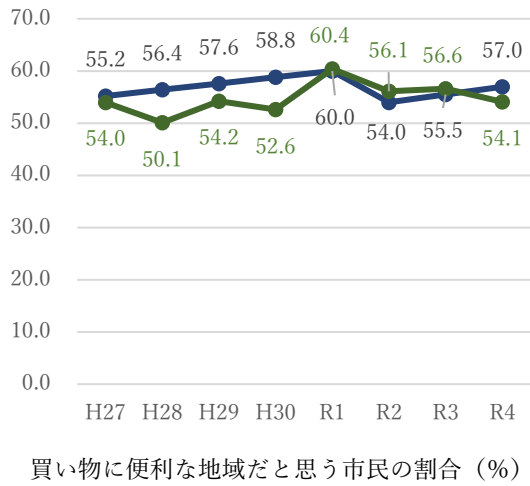
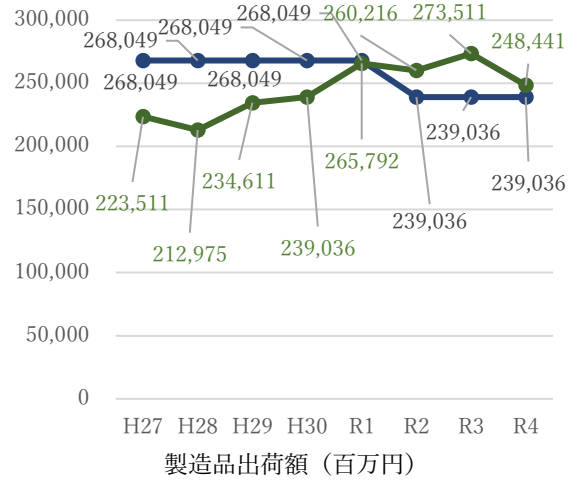
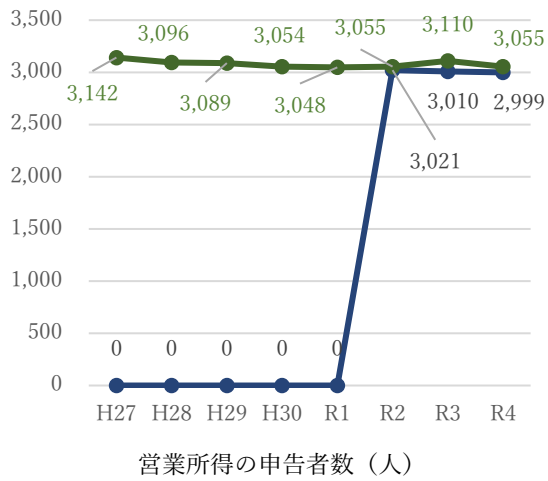
【満足度・重要度】



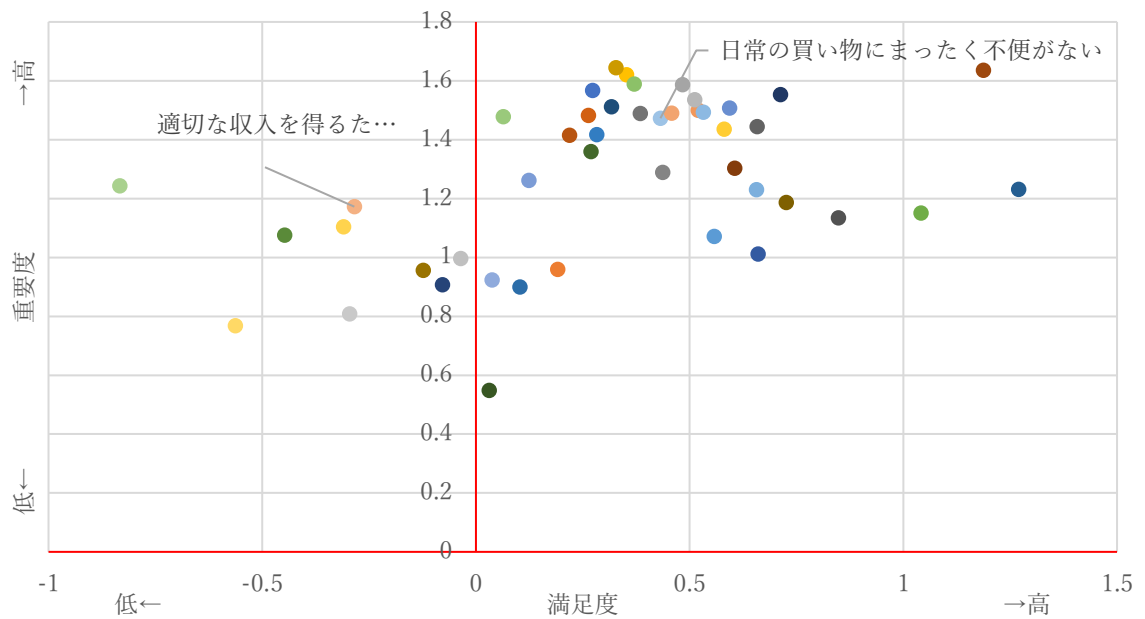
2.4.2. 商工業の振興

【目的】	市内事業者が安定した経営を続けることができる
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 商工会との連携を強化し、商工業者の経済活動の活性化を図るとともに、雇用・就業機会の確保に努めます。 ◆ 商工業者の安定経営や後継者の育成を支援し、地域に根差して経営を持続できる環境を整えるとともに、県外や海外への商圏拡大やセールスプロモーションを進めていきます。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 持続可能な経営の支援 ○ 市内での就業・雇用の推進
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業所得の申告者数は目標値を達成しているものの、前年度に比べると減少しており、コロナ禍の長期化及び後継者がいないなどの理由により廃業した事業者が増えた。 ・ 製造品出荷額は目標値を達成しているものの、前年度に比べると減少しており、コロナ禍やウクライナ情勢などの影響を受け、原油や原材料価格が上昇したため生産活動が抑制された。 ・ 買い物に便利な地域だと思える市民の割合の減少については、身近な小規模小売店舗の廃業などによる減少に加え、少子高齢化により、買い物弱者が増加していることが考えられる。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営の安定に支障が生じている事業者を対象とした、金融機関や商工会などと連携したセーフティーネット保証や利子補給などの制度を活用した支援 ・ 企業誘致や南ア IC 拠点施設整備による雇用の大幅に増加が予想されることから、山梨労働局・ハローワークと雇用対策協定を締結した、雇用施策の一体的な取り組み ・ 小規模事業者の事業継続のための支援
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化に伴い小規模小売店舗の廃業が目立ち、自家用車での移動が困難な高齢住民にとっては、身近な所での買い物に困難が生じている。 ・ 新たな大規模商業施設の開業を前に、人口の増加による影響もあり、移住してくる若者世代を対象とした業種で新規開業も増えている。 ・ 移動が困難な山間部では、将来的に移動販売も検討する必要がある、そこには行政からの支援も求められる。 ・ 市内で仕事をする場合、適切な収入が得られているとは感じられず、特に都内と比べると収入の低さが感じられる。

【成果指標】 目標値 実績値



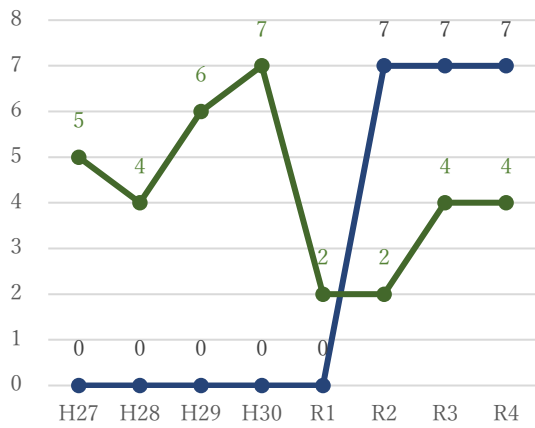
【満足度・重要度】



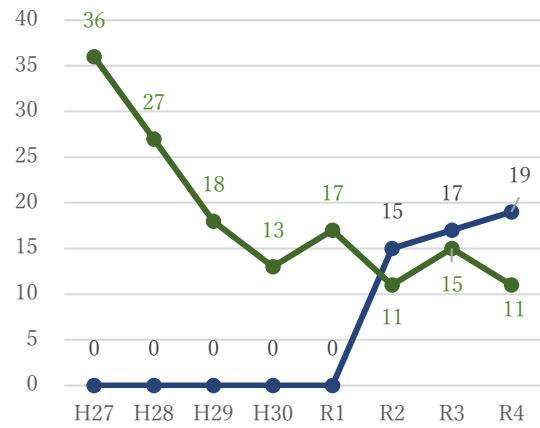
2.4.3. 企業誘致の推進

【目的】	企業が市内で新たに創業、規模拡大する
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 中部横断自動車道の全線開通やリニア中央新幹線の開業を見据え、優良な用地を確保し、積極的な企業誘致活動を展開します。 ◆ 意欲のある人が創業・起業を実現できるよう、商工会と連携して効果的な支援を行います。 ◆ 中部横断自動車道南アルプスインターチェンジ周辺については、新たな雇用の創出や地域経済を牽引する産業の集積を図り、交通環境を活かした新産業拠点を創出します。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業の新規進出・規模拡大の推進 ○ 創業の推進 ○ 南アルプスインターチェンジ周辺開発の推進
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景気はゆるやかな改善傾向にあるものの、燃料費の高騰や資材価格上昇などにより設備投資などに慎重姿勢が見られた。 ・ 物価の高騰などで先行きを見通せない状況のため、新規創業への慎重姿勢がうかがえる。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の用地需要に応える用地確保 ・ 人口減少による労働力不足
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ ”自然豊かなまち”を掲げており、南アルプス市の豊かな自然や景観はもちろん守っていかなければいけないが、自然が豊かなだけではまちとしてやっていけない。開発もバランスを取りながらうまくやっていかなければいけない。 ・ 若者に来てもらい、住んでもらい、賑わいのある、全国に誇れるようなまちになってほしい。 ・ アンケートで「やりたい仕事を見つけやすい」の満足度が低いことから、市民も勤め先となる十分な企業があると思っていないのではないか。

【成果指標】 目標値 実績値

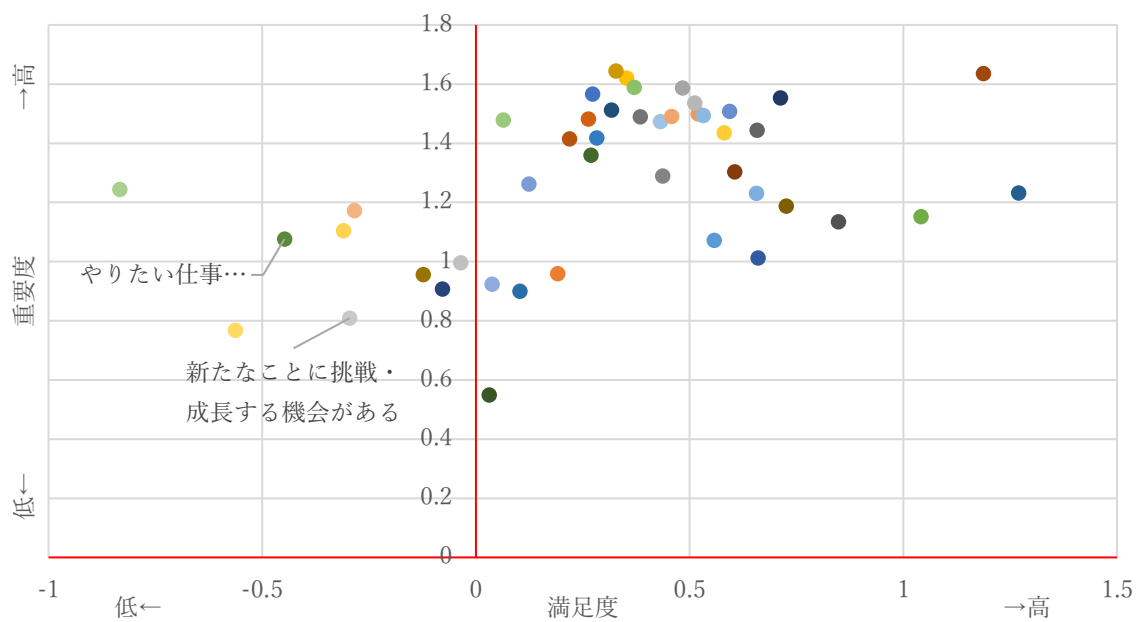


誘致・規模拡大した企業数 (社)



創業した数 (件)

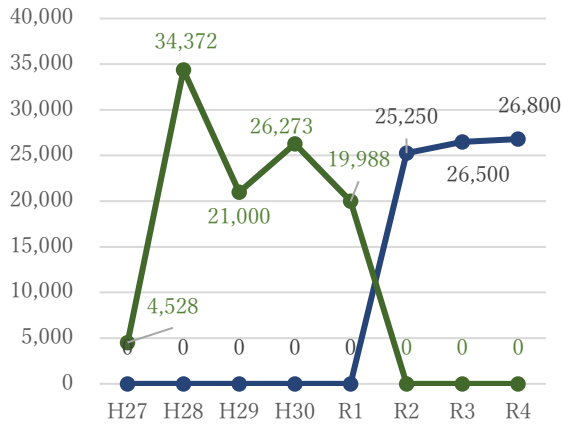
【満足度・重要度】



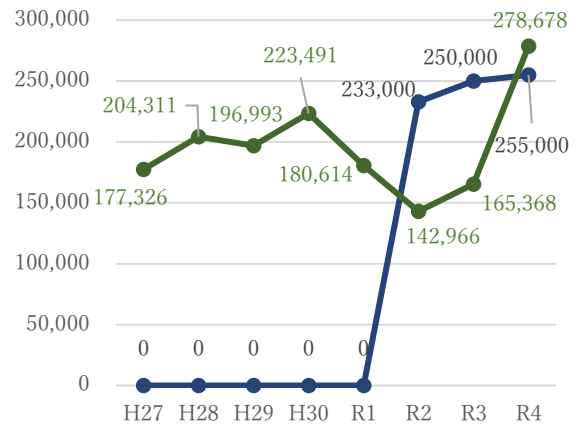
2.4.4. 観光の振興

【目的】	観光客が市内を訪れ、まちがにぎわう
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市内を訪れる観光客を増加させるために、県内外や海外へ観光プロモーションを行います。 ◆ 地域資源を活かした観光振興に取り組み、外国人観光客を含む交流人口の増加につなげます。 ◆ 観光施設を充実し、観光客の満足度を高め、南アルプス観光のグレードアップを図ります。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光情報の発信 ○ 観光客のニーズに合ったコンテンツの充実 ○ 観光施設を活用した誘客の促進
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北岳・広河原・芦安エリアの入込客数については、集計対象の基準（前年1万人以上）を満たしていないため令和4年度も集計が行われなかった。 ・ 櫛形山周辺エリアの入込客数については、前年度より大きく増加し、目標値も上回ったが、市内の平地への入込客数については、目標値は下回った。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 限られた人員でエリアや事業を拡大していく中での効率的な観光情報の発信 ・ 通年観光のコンテンツの開発や観光農園の確保 ・ インバウンド誘客に向けたコンテンツの開発やSNSなどでの情報発信
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の登山を目的とした観光や、平地の果樹農園における観光をそれぞれ個々に考えるのではなく、大型商業施設への来客者も見込む中で、歴史や文化に関する施設を始め、果樹農園等をコースでつなぎ、市内での滞在時間を増やすとともに、市内でお金を使ってもらうことで、経済を循環させることが重要である。 ・ 市内には娯楽施設はないが、観光資源は十分にある。観光資源には自然や果樹だけでなく、南アルプス市の歴史や文化も豊富にある。

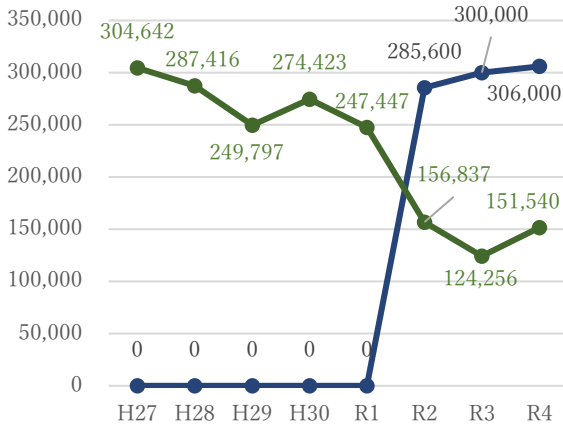
【成果指標】 目標値 実績値



北岳・広河原・芦安エリアの入込客数 (人)

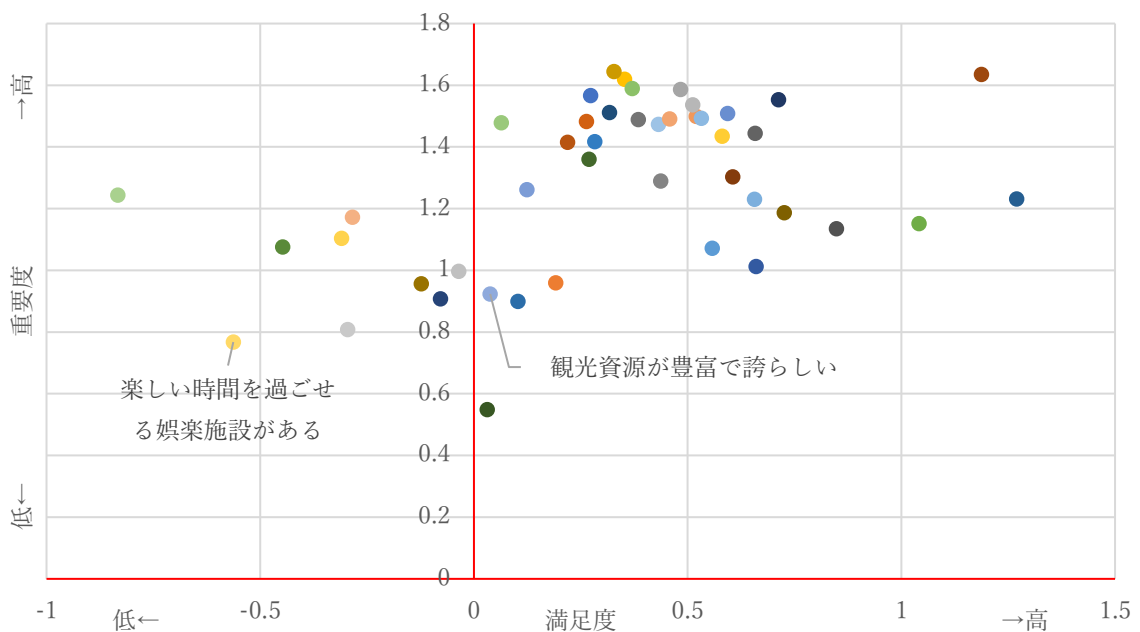


櫛形山周辺エリアへの入込客数 (人)



市内の平地への入込客数 (人)

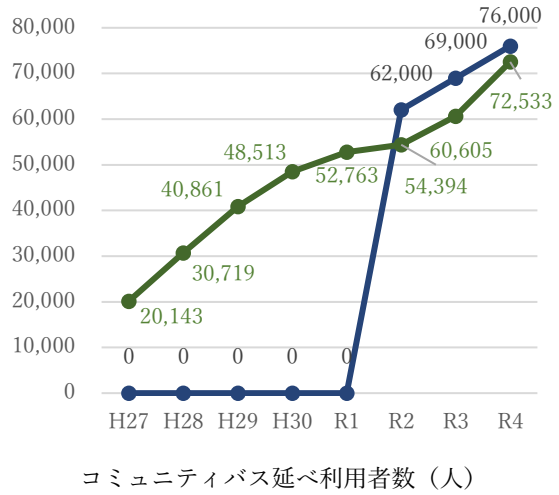
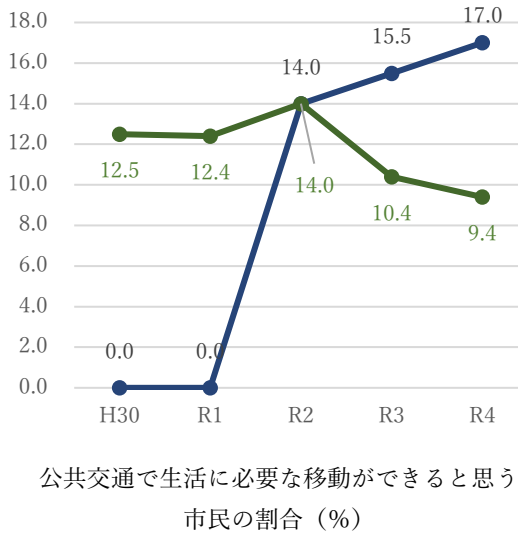
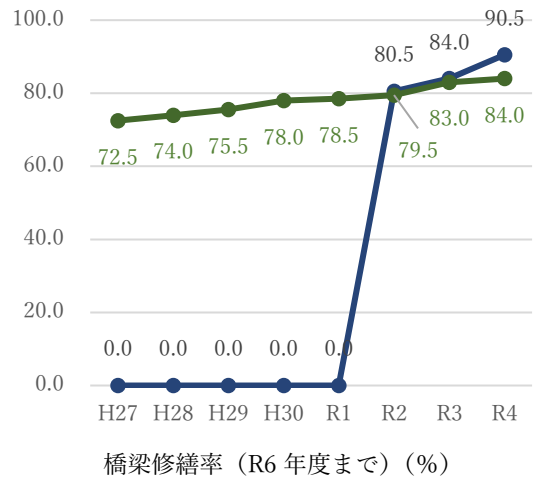
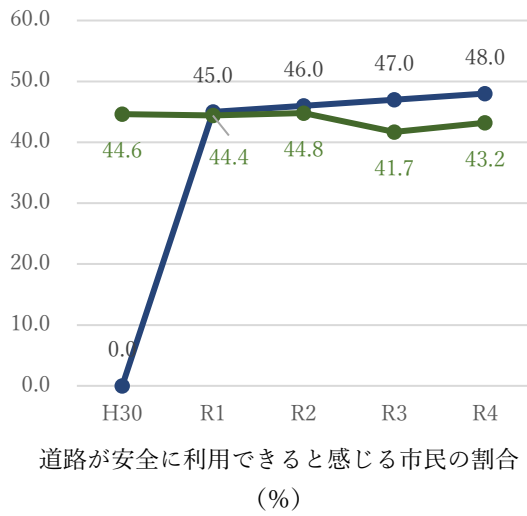
【満足度・重要度】



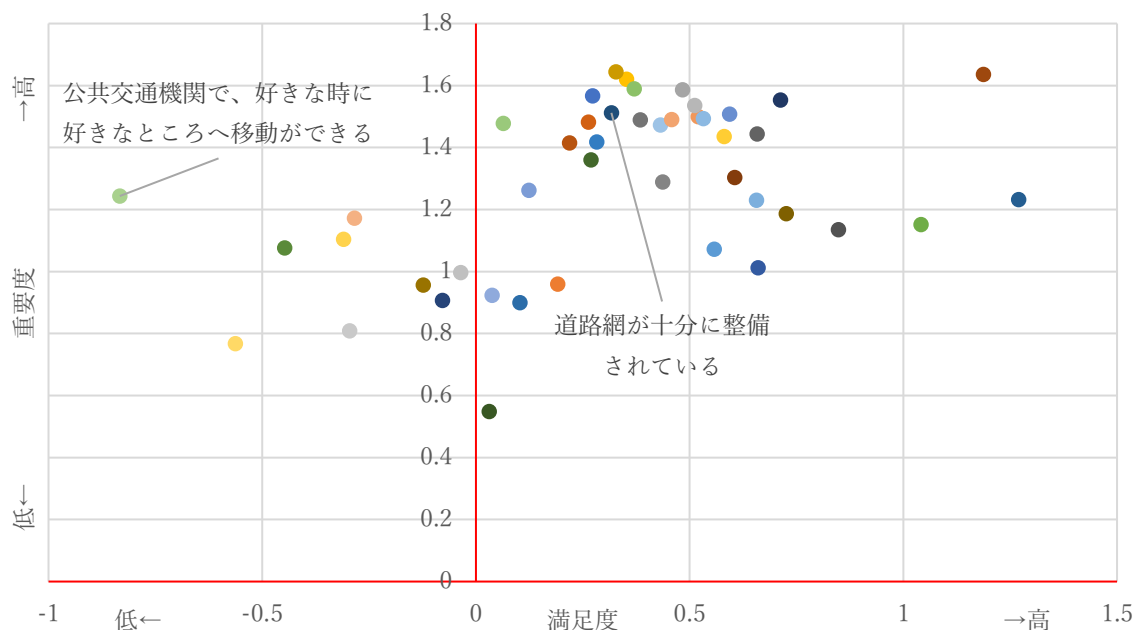
2.4.5. 道路・交通基盤の整備

【目的】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が道路を安全・安心に利用できる ・ 市民が、生活に必要な移動ができる
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 適切な維持管理や長寿命化、安全対策を推進するとともに、必要な道路の整備ができるよう財源の確保に努め、安全性・快適性の向上を図ります。 ◆ 高齢者などの交通弱者のほか、より多くの市民が移動手段を確保できるよう、コミュニティバスなどの公共交通を気軽に利用できる環境を整えます。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道路維持管理の推進 ○ 道路の安全性・快適性の向上 ○ コミュニティバス等の利用促進
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路修繕は、通報や要望は全ての現場を確認し、直営または業者へ依頼するなど迅速に対応しているが、緊急性のない場合や経過観察とする場合もある。 ・ 橋梁長寿命化修繕計画に沿って、優先度の高い順に実施しているが、国の補助金配分額が低く予定箇所の修繕ができなかった。 ・ コミュニティバス事業については、定着しつつあり、年々利用者が増加している。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路維持管理に関する要望や通報に対処するための現場状況による工法検討と修繕費の平準化 ・ 修繕内容の再精査と現状を鑑みた、重要かつ優先度の高い順に修繕の実施 ・ 令和5年度に策定した地域公共交通計画に基づく既存の交通手段の充実や、新たな交通手段の導入検討、整備
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中部横断道が完成し、着々と道路が整備されたこともあり道路網は整っていると思う。しかし、高齢化により運転できなくなったときのことを考えると、生活は大変だろうと思う。 ・ コミュニティバスがこんなに走っている地域はないと思う。利用者数も増えているようだし、高齢者の足にもなるので、よりきめ細かく回れるよう、さらに強化していけばいいのではないかな。 ・ 車の交通量も多くなってきているので、安全な歩道の整備なども必要だと思う。 ・ ETC2.0については、「道の駅しらね」の利用が2時間まで追加料金なしといったことも、もっと周知してもいいのではないかな。

【成果指標】 目標値 実績値



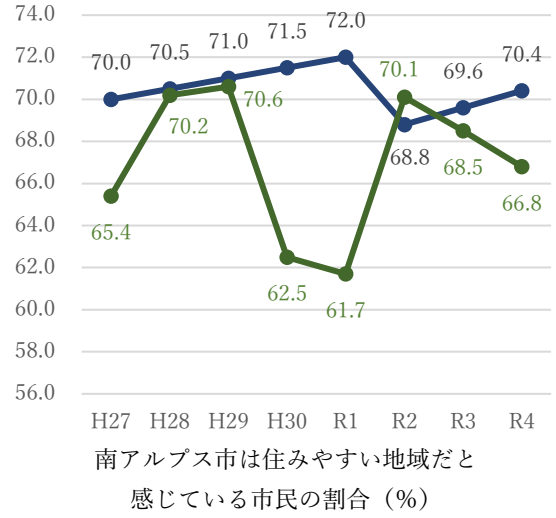
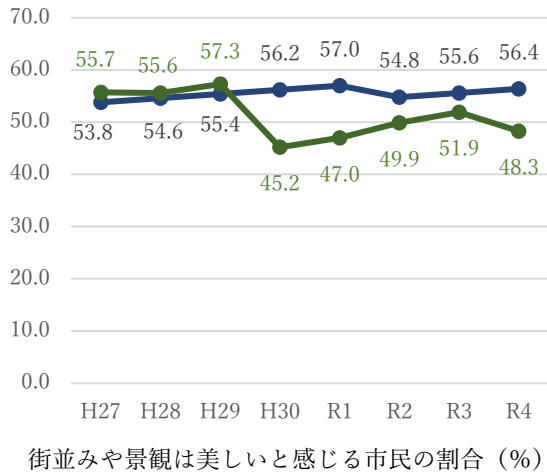
【満足度・重要度】



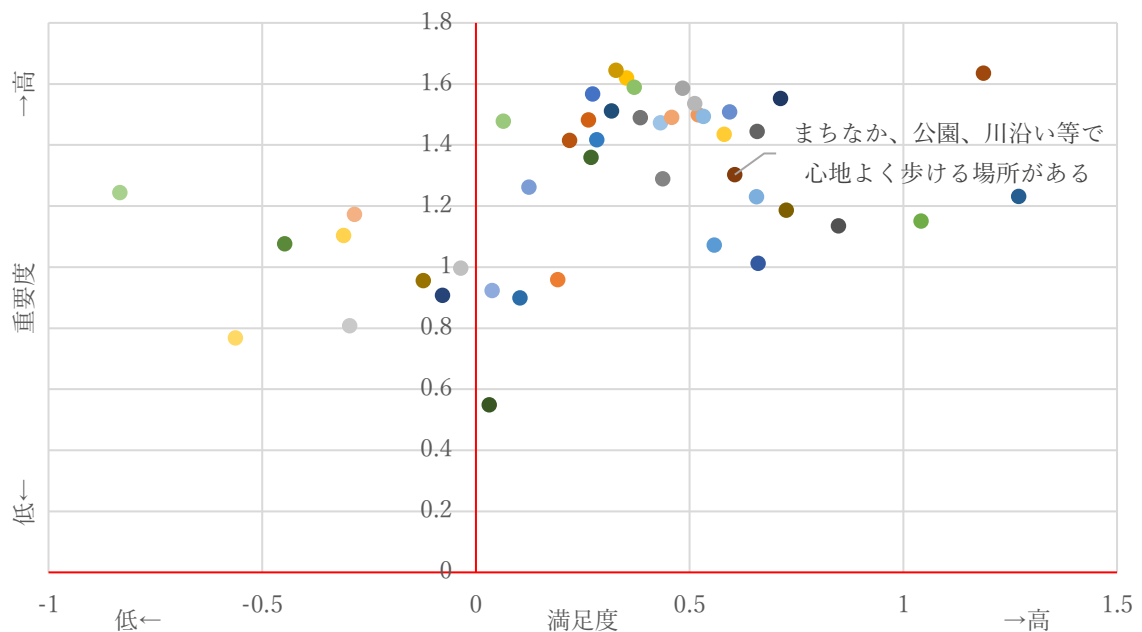
2.4.6. 都市空間の整備

【目的】	市民が安全・快適な都市空間で生活する
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 開発案件等の適切な指導や既存施設の維持管理により、みどり豊かな街並みの保全を図り、次世代を担う子どもたちが故郷に誇りと愛着を持てるような都市空間を整備します。 ◆ 南アルプスインターチェンジ周辺と、これにつながる新山梨環状道路沿線については、新交通網を活かした成長産業の集積など、新たな都市機能の構築を目指します。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 秩序ある土地利用の推進 ○ 住みやすい住空間の整備 ○ 拠点都市機能の整備
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自治会での環境美化活動など、景観保全への関心は高いが、耕作放棄地、雑木雑草の繁茂などの自然的要素の他、個性的な外観や管理の行き届かなくなった住宅の増加により、周囲との調和が保てなくなっている。 ・ 住みやすい地域と感じている割合については、風水害が少なく安全性が高い半面で、街並みや景観の美しさへの評価が影響したと考える。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な許可基準の運用による秩序あるまちづくりの誘導 ・ 人口減少、高齢者の増加や自然災害に対応したコンパクトなまちづくり ・ 立地適正化計画に基づく集約型都市機能の構築 ・ 無指定地域の農業と開発行為との健全な調和 ・ 将来像に基づく良好な市街地の環境形成 ・ 南ア IC 周辺整備事業の推進及びマスタープランの改正
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型店舗の出店による盛り上がりも一過性のものなので、訪れた客をつなぎとめておくような施策が必要である。 ・ このチャンスをしっかりと活かし、コストコ近辺だけでなく市全体に賑わいが広がっていくよう、将来のビジョンをしっかりと描いて未来につながるようにして欲しい。

【成果指標】 目標値 実績値



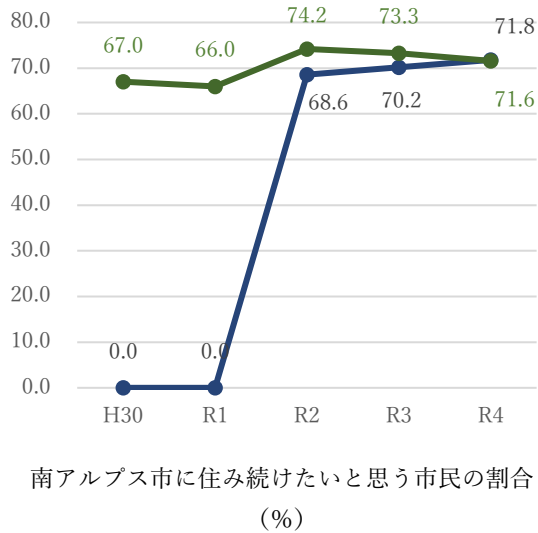
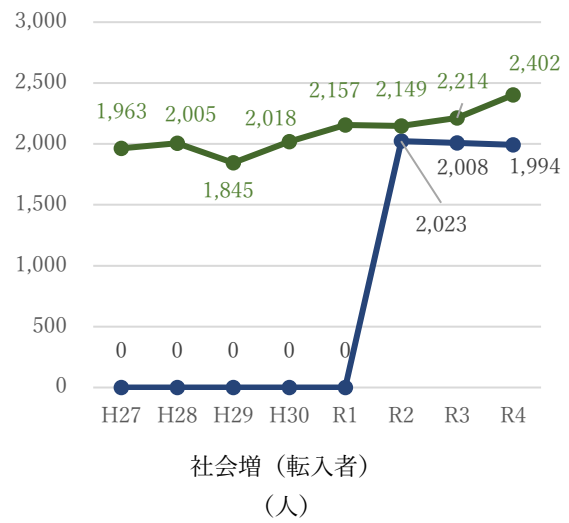
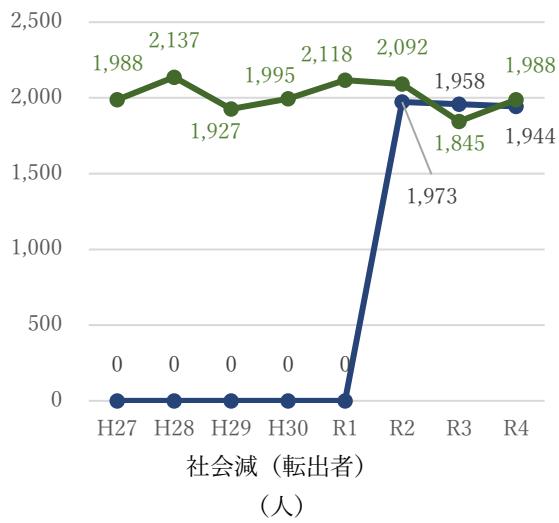
【満足度・重要度】



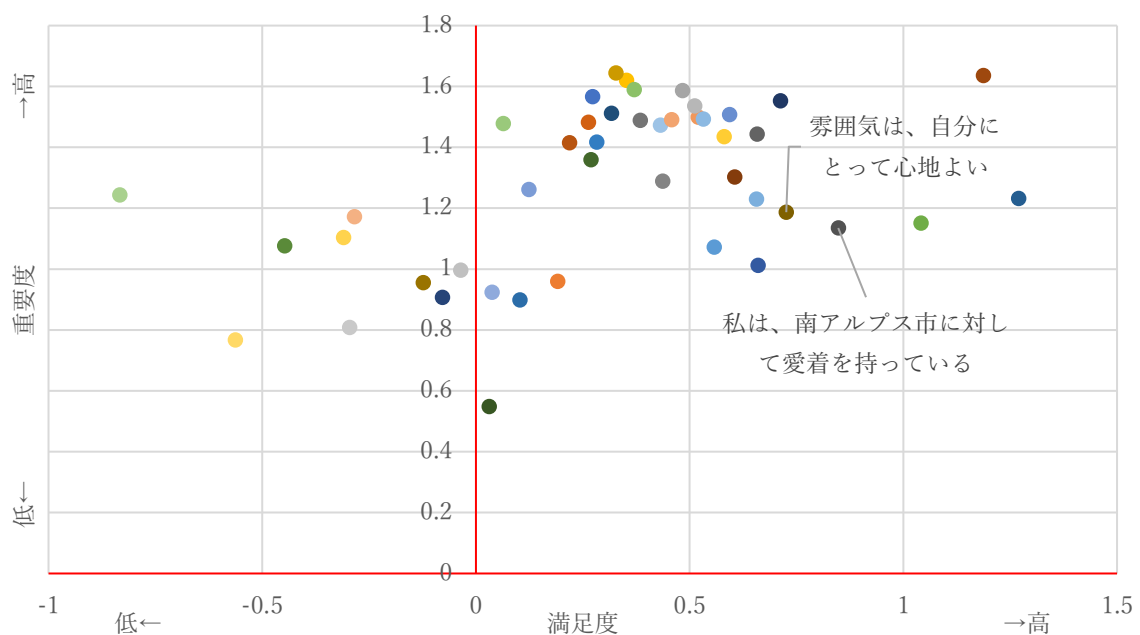
2.4.7. 移住・定住人口の拡大

【目的】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が市内に住み続ける ・ 市外の人が、市内に移住する
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 多くの人に、南アルプス市を知り、訪れ、滞在し、魅力を体感してもらい、移住先の第一候補となるよう、つながりを深めます。 ◆ 南アルプス市への移住・定住の希望をかなえられるよう、支援策を充実します。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 南アルプス市の魅力発信と関係人口の創出 ○ 移住・定住支援の充実
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 転出者に対し転入者が大幅に増え、目標値より高い実績値となった。 ・ 転入者は県内からが約6割となっているが、県外からの転入者も増えており、情報発信や移住促進施策への効果が出始めている。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ シティプロモーション戦略に基づく行きたいまち、住みたいまちとして選択肢になるような情報発信の強化 ・ 空き家バンク（中古住宅）需要が高まる中での登録物件の充実
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口が増えているというのはこのご時世で素晴らしいことであり、いまの流れを途切れないように続けていければよいのではないか。 ・ 自然には恵まれているし、道も整備されてきている。あとは若者向けに働く場所や買い物できる場所・公園などがあるとよい。

【成果指標】 目標値 実績値



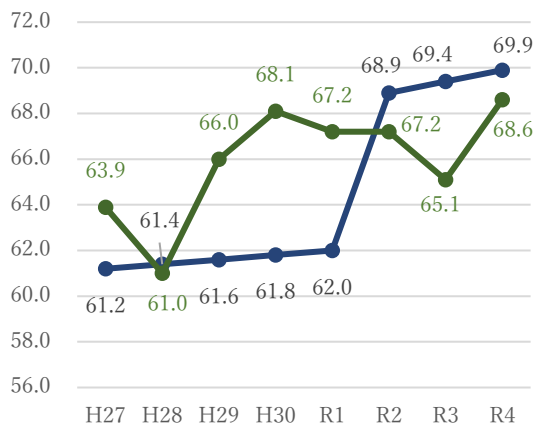
【満足度・重要度】



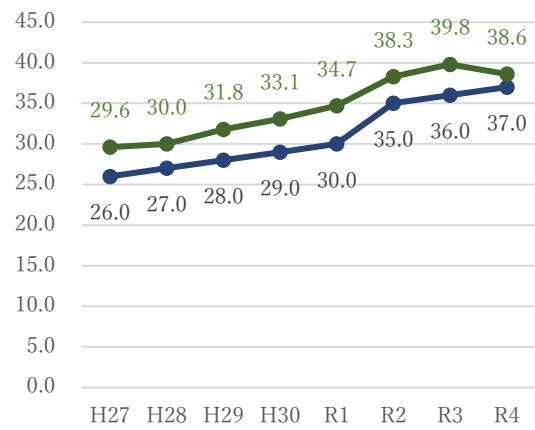
2.4.8. 上下水道の整備

【目的】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が、いつでも安心しておいしい水が飲める ・ 市民が、衛生的で快適な生活を送ることができる
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 水道施設の計画的な更新と耐震化に取り組み、安全・安心でおいしい水道水を安定的に供給します。 ◆ 適正な維持管理と事業計画等の見直しによる経営基盤の強化を図り、上下水道事業の健全な運営に努めます。 ◆ 汚水処理施設整備構想に基づき、下水道施設の整備を進め、利用者の拡大を図り、未普及の解消に努めます。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水資源の確保と安定した供給 ○ 上下水道の適正な管理・運営 ○ 下水道未普及解消の促進
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水道水は出て当たり前の状況を維持できており、不満が少ない傾向である。 ・ 水洗化率が、目標値を僅かに下回っているが、整備面積の拡大に伴い処理区域内人口が大きく伸びたためであり、供用開始により今後は順次、水洗化率も上がる見込みである。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浄水施設では予備的水源の無い施設が多いことから複数の水源の確保 ・ 住宅開発等が盛んな藤田・寺部地区等における水道水の安定的な供給 ・ 下水道施設の整備による未普及地域の解消及び整備済み区域における下水道普及・啓発
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水は美味しく、下水も整備されており、特段の不満はない。 ・ 下水道は未整備地域が多いが、今後整備が進んでいくものと思う。 ・ 将来的な施設整備の維持を見据えた場合、安定的な基金の積み立てなどで備えておく必要がある。

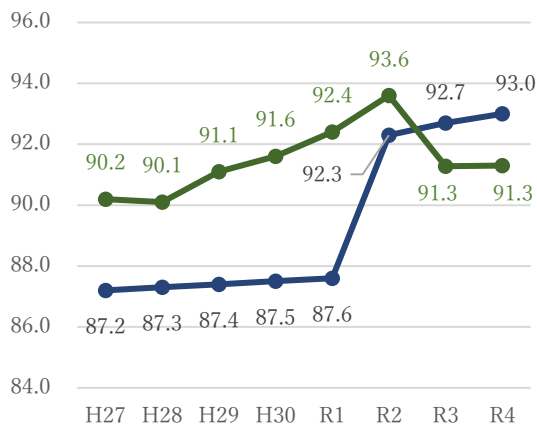
【成果指標】 目標値 実績値



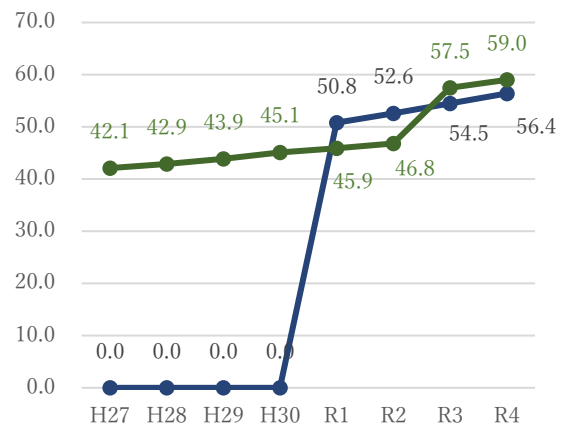
水道の水はおいしいと感じる市民の割合 (%)



基幹管路の耐震化率 (%)

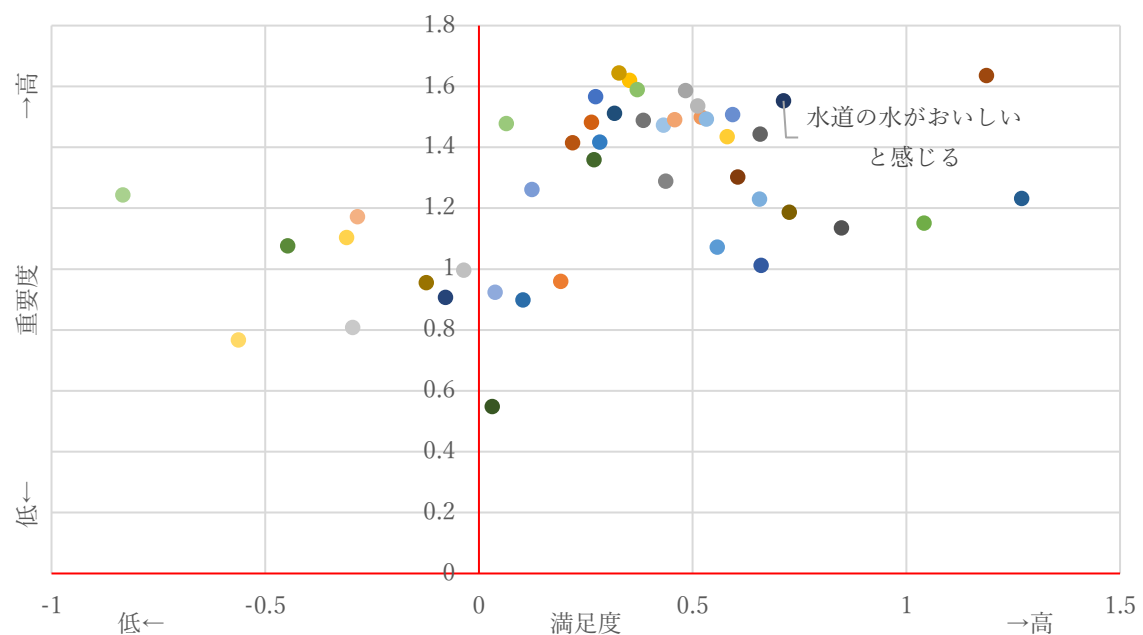


生活排水水洗化率 (%)



下水道施設整備率 (%)

【満足度・重要度】

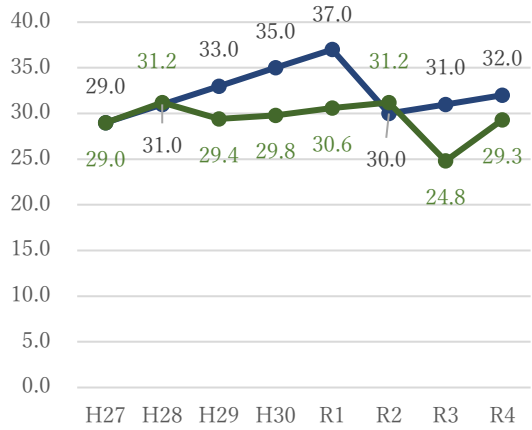


2.5. 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

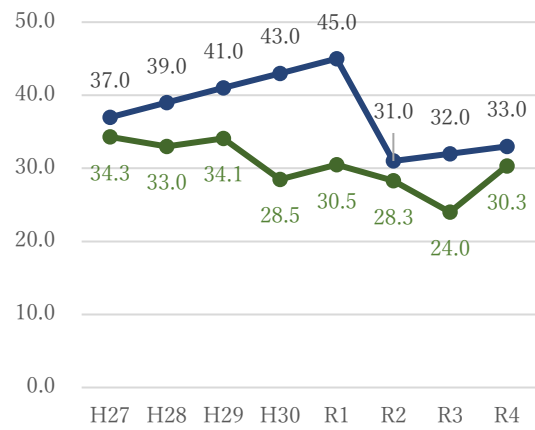
2.5.1. 生涯学習の推進

【目的】	市民が学習テーマを持ち、自主的に学ぶ
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学ぶ意欲を持ち活動する市民の掘り起こしを図り、趣味を通じた仲間づくりを推進します。 ◆ 気軽に運動に親しめる環境を整え、スポーツによる健康増進効果や人と人との交流の楽しさが実感できる機会を提供します。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生涯学習機会の充実 ○ スポーツや運動をする機会の充実 ○ 文化施設・スポーツ施設の利用促進
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ いずれの指標も目標値を下回っているが、新型コロナウイルス感染症が影響していると考えられる。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民自らが講師となり開催する「自主企画講座」以外の分野の生涯学習講座の開催 ・ ニュースポーツの体験機会の創出、イベント参加への動機づけ ・ 多様化する利用者ニーズと社会状況の変化に対応した電子書籍システムの導入 ・ 美術館や絵画鑑賞等が身近なものとして利用されるための方策の検討
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の身近に生涯学習などの活動を始めるきっかけがない。まずは学ぶ機会があることを住民自身が知ることが重要だと思う。 ・ 特色を持った図書館づくりなどの取り組みが市民に十分知られていない。 ・ いくつかの課や施設で生涯学習関連の活動が行われているが、市民から見ると分かりにくい。 ・ 生涯学習活動への参加者の高齢化が進む一方で、若者が入ってこない。 ・ 生涯学習の機会はあるが、なかなか参加しにくい状況も見られる。 ・ 生涯学習センターで中学生が自主学習グループとして受験勉強を行うなど、有効に使われていると感じている。

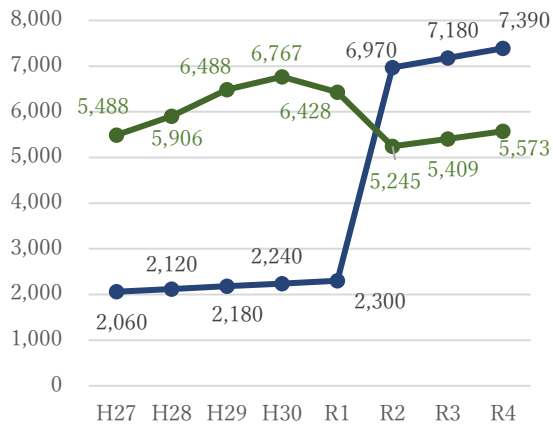
【成果指標】 目標値 実績値



生涯学習を行っている市民の割合 (%)

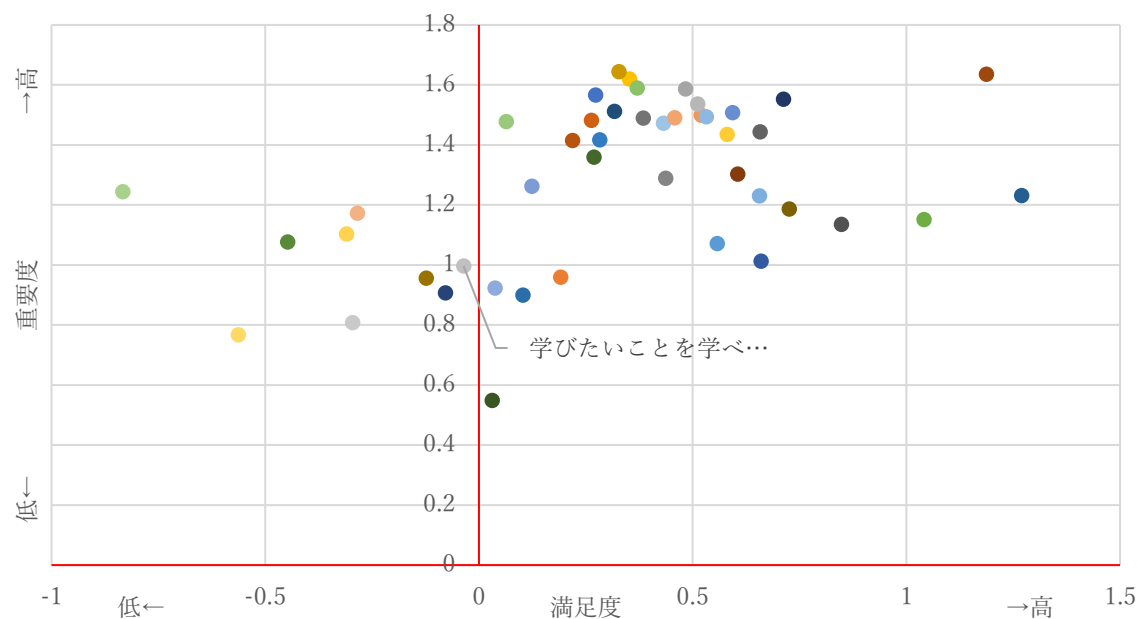


スポーツ・レクリエーションを習慣化している市民の割合 (%)



図書館レファレンスサービス（調査相談）件数 (件)

【満足度・重要度】



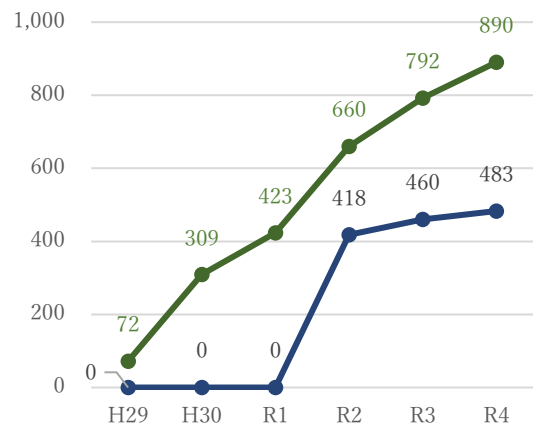
2.5.2. 歴史・伝統文化の振興

【目的】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が歴史的文化資源や伝統文化を知り、活用する ・ 文化財が適切に保護される
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 南アルプスの自然や風土に向き合い、これに関わる中ではぐくまれた地域の歴史的文化資源や伝統文化の魅力を明らかにするとともに、適正に保存し、継承に努め、広く情報を公開し、その活用に向け取り組みます。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史的文化資源や伝統文化の保存と継承 ○ 歴史的文化資源や伝統文化の公開と活用
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民向け講座や、教育普及事業の実施、デジタルアーカイブ等のアクセス件数の増加により、歴史的・文化的資産への認知度が高まった。 ・ コロナ禍により地域に出向いてのフィールドワークが十分行えなかったが、これまでの調査で蓄積した歴史資源を整理して登録を行った。 ・ ふるさと文化伝承館や安藤家の入館者は、コロナ禍からの回復傾向にあるものの、文化財に触れるための外出については回復途上と思われる。またコロナ禍により、一部のイベントを中止したことも影響したと考えられる。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで実施してきた「文化財保護活用事業」や「埋蔵文化財調査受託事業」、「市内試掘確認調査事業」、「ふるさと〇〇博物館推進事業」などの継続的な推進による文化財の公開、活用
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内には、世界に誇れる文化財があるので、それをもっと活用していくことが重要である。そのためには、様々なアイデアにより文化財に興味関心を持ってもらい、取り組みに市民を巻き込んでいくことが必要である。 ・ 講演会をきっかけに文献を調べるなど、学びを深めていく流れが必要。 ・ 出前授業などを通じて、子どもたちに地域の歴史・文化が浸透している。 ・ 文化財保護と開発のバランスが取れていない。もっと保護に力を入れる必要がある。 ・ 市民が南アルプス市の歴史的・文化的な魅力を感じるということが重要である。

【成果指標】 目標値 実績値



市内には、守り伝えるべき豊かな歴史があると感じる市民の割合 (%)

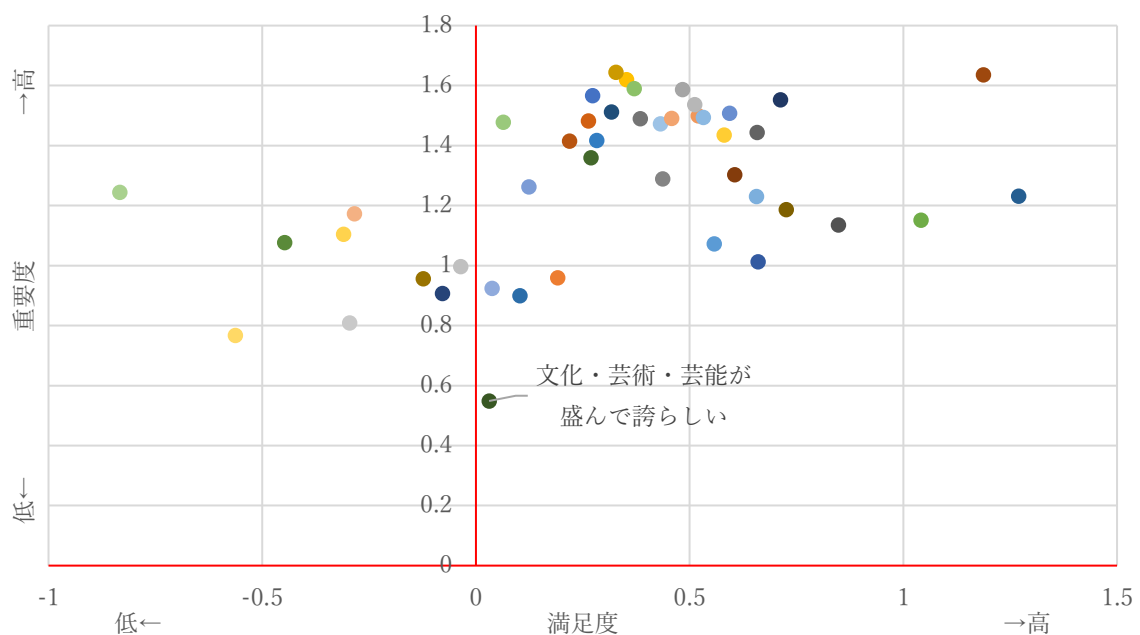


ふるさと〇〇(まるまる)博物館のデータベースに登録された地域の歴史的文化資源の件数(件)



過去1年間に、市内の歴史に触れたり、史跡を訪れたりしたことがある市民の割合 (%)

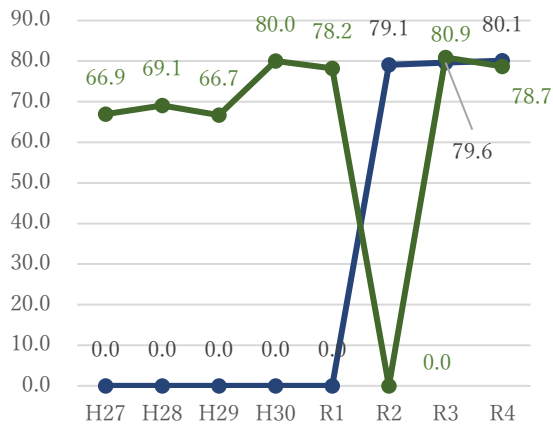
【満足度・重要度】



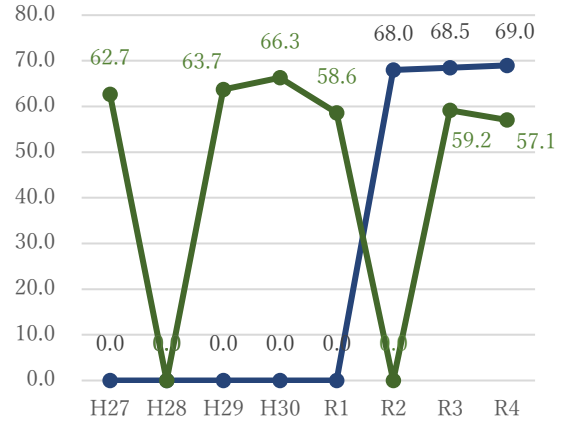
2.5.3. 学校教育の充実

【目的】	市立小中学校の児童生徒が、自立した豊かな人生を切り拓いていくために必要な「生きる力」を身に付ける
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 見える学力だけではなく、非認知能力の育成や体づくり、心を育てることなどを大切にし、これらをバランスよくはぐくんでいく教育が展開されるよう取り組みます。 ◆ 教職員の力量を高めて授業の質を向上させるとともに、児童生徒・保護者のニーズを把握した一人ひとりを大切にする教育を推進します。 ◆ 児童生徒、教職員が充実した授業や諸活動を行えるよう、人的・物的教育環境を整えます。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育環境の整備 ○ 体験活動や道徳教育の充実 ○ 教員の授業力の向上 ○ 地域と連携した教育の推進
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍により児童生徒の生活環境が変化し、運動や活動の制限によるスポーツへの関心の低下や、直接向き合っただの話し合い活動の制限による交友関係を上手に築くことができないことなどの長期的な規制へのストレスなどが考えられる。 ・ 交友関係が一度崩れると修復に時間を要する事案や、いじめ等に関して児童生徒間の解決では最終的な解消に至らない事案もみられる。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理科室等の特別教室や体育館の Wi-Fi 環境の整備 ・ 特別なニーズをもつ子が多い中での人的環境の整備 ・ ICT 環境の整備に対応した教職員の研修や、学校内外で ICT の有効な活用方法を共に学ぶ環境整備 ・ 小中一貫教育やコミュニティスクールなど、地域の特性を生かした地域と連携した教育の推進
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後の習い事などで子どもたちが自由に身体を動かす機会が減少していることから、子どもの体力が落ちている。 ・ 学校を支えるための地域の支援体制を作っていく必要がある。 ・ これからは、教員だけではなく地域の中で学ぶことのできる「開かれた学校づくり」が必要であるが、自治会の衰退が進んでいることから、学校との連携には自治会のあり方を検討することも必要である。 ・ 音楽や美術などは、専門の教員に依存しており、人事異動によって大きく左右される。 ・ 不登校の子どもたちへの対応についても課題のひとつである。

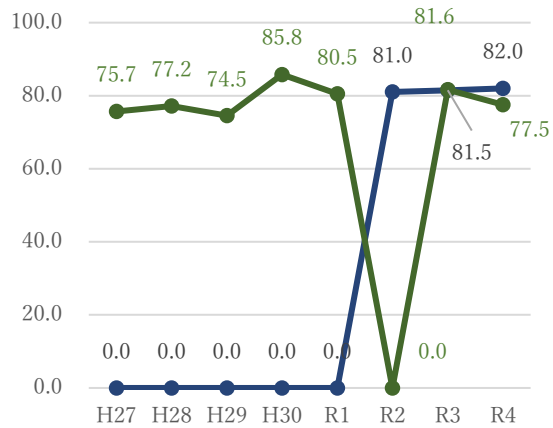
【成果指標】 目標値 実績値



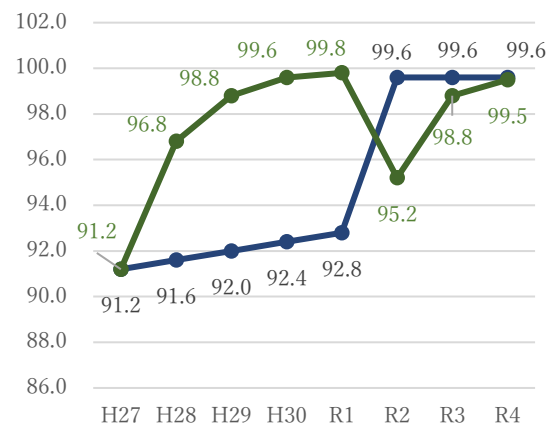
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」とする小中学生の割合 (%)



「運動やスポーツをすることは好きである」とする小中学生の割合 (%)

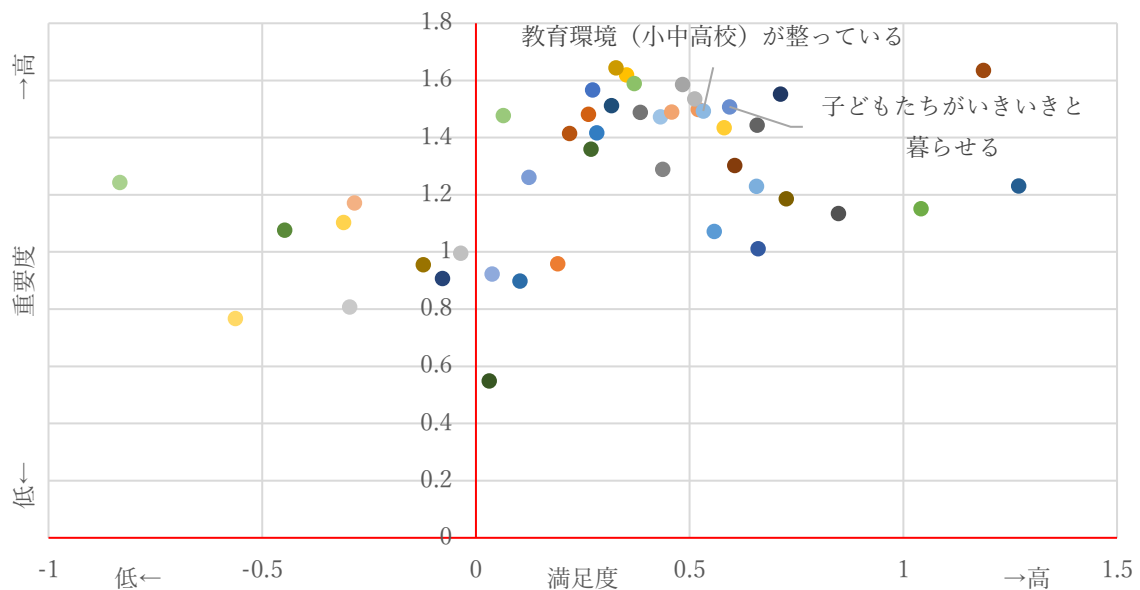


「自分にはよいところがある」とする小中学生の割合 (%)



認知されたいじめの解消率 (%)

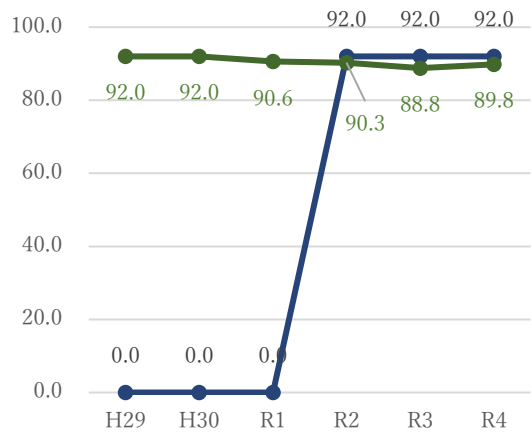
【満足度・重要度】



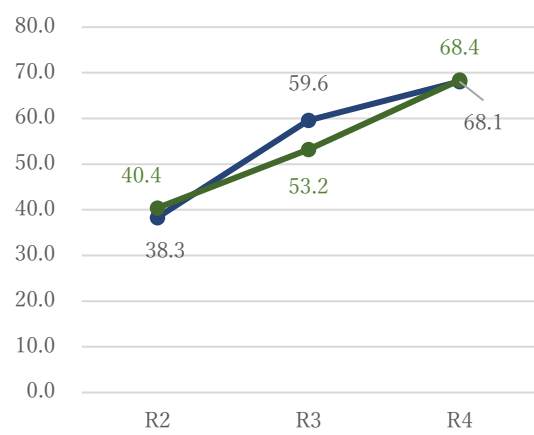
2.5.4. 学校施設の整備

【目的】	市立小中学校の児童生徒が、安全・安心、快適な環境の中で学び、生活できる
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 老朽化対策や機能向上、質的改善、防災機能強化などの施設改修等に計画的・継続的に取り組み、教育活動に適した施設環境の確保を図ります。 ◆ 教育施設長寿命化基本計画（令和2年度～令和31年度）の第1次実施計画（令和2年度～令和6年度）に掲げる事業を円滑かつ確実に実施します。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽施設の保全と長寿命化の推進 ○ 機能的で質の高い施設整備の推進 ○ 防災機能の強化と防犯力の向上
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の老朽化の進行だけでなく、ICTの活用に伴う整備や、多様な教育的ニーズのある児童・生徒の増加により、それらに対応する施設整備が要求されてきている。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽施設の保全と長寿命化の推進 ・ バリアフリー化に向けたトイレ改修とエレベーター設置など、機能的で質の高い施設整備の推進 ・ 避難所に必要な機能の強化と防犯力の向上
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の統廃合は少なく数の面ではある程度揃っているものの、子どもの通学が大変な地区もある。 ・ 障害児など誰もが当たり前に通うことができる設備（エレベーター、トイレなど）の設置は重要である。 ・ 施設の長寿命化を計画的に進めるとともに、防災など地域の拠点としての役割も検討することが重要である。 ・ 各学校で学ぶ特色を魅力として伝えていく中で、児童数が減少している地域への移住を促すことも重要である。

【成果指標】 目標値 実績値

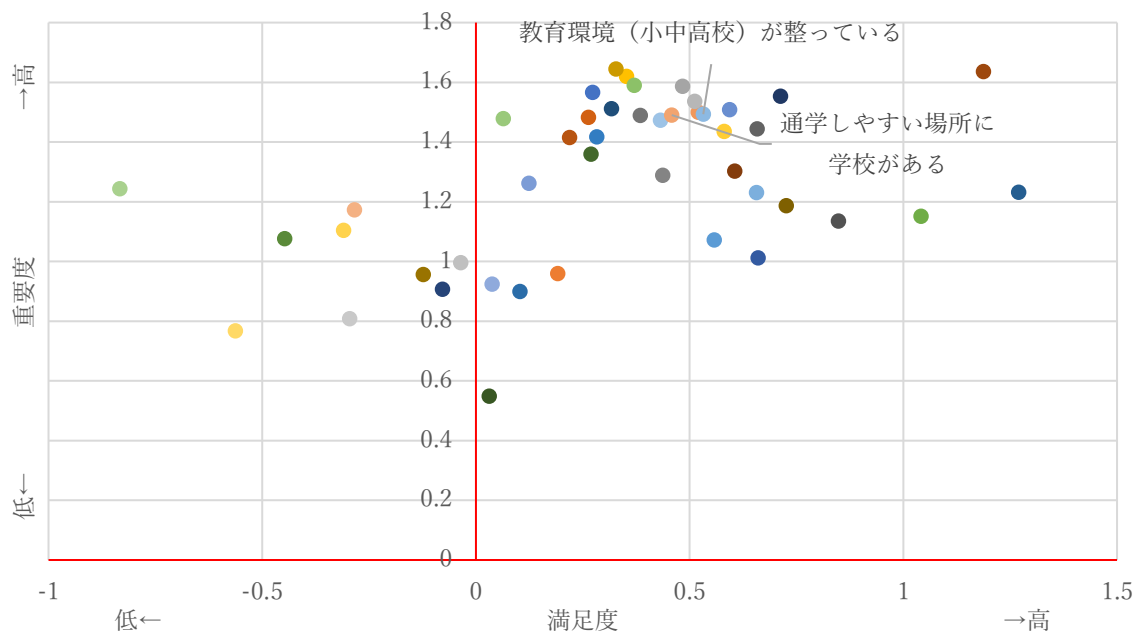


学校には教育活動に適した施設・設備が整っていると感じる保護者の割合 (%)



教育施設長寿命化基本計画の第1次実施計画で整備対象とした学校施設・設備の整備率 (%)

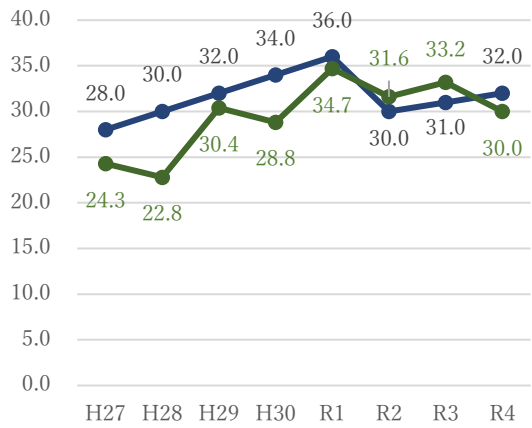
【満足度・重要度】



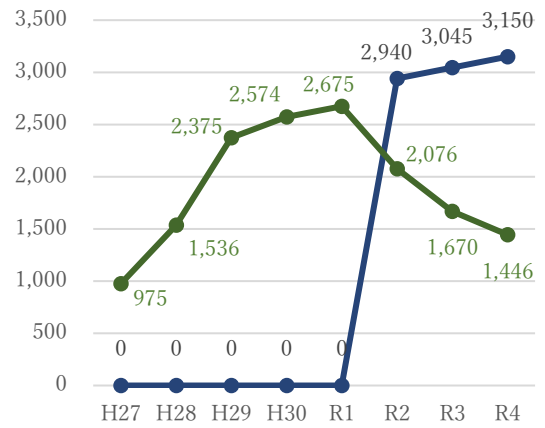
2.5.5. 青少年健全育成の推進

【目的】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年が健全に育つ ・ 市民が青少年健全育成に携わる
【基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 青少年の健全育成を支えるコミュニティの絆を再生強化し、家庭・学校・地域が連携して地域の将来を担う人材の育成に取り組める体制づくりを推進します。 ◆ 青少年育成市民会議が地域と連携して行っている青少年の非行防止や健全育成運動を強力に支援します。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域における青少年の見守り活動の推進 ○ 市民会議の構成団体の連携強化 ○ SNS などによる犯罪の脅威から子どもを守る学習活動の推進
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策による市内一斉あいさつ運動の中止により参加者数は減少しているものの、あいさつ運動、あいさつの習慣は浸透している。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年育成市民会議の構成団体が多様であり、任期ごとに人が変わる為、質を担保しながらの活動継続が課題 ・ SNS などによる犯罪の脅威から子どもを守る学習活動の推進
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ そもそも青少年の「健全」とは何か、何を達成する必要があるのかが分かりにくい。 ・ 現在行われている活動が果たして若者に響いているのか、意義のある活動なのか疑問や行き詰まりを感じている。 ・ 少子化や地域のつながりが希薄化する中で、誰が住んでいるのかも分かりにくくなり、活動も衰退している。 ・ 青少年が健やかに成長できる環境は充実していると感じている。 ・ 中学生が小学生の面倒を見ることで、助け合いの大切さを学んでいくことが大事である。

【成果指標】 目標値 実績値

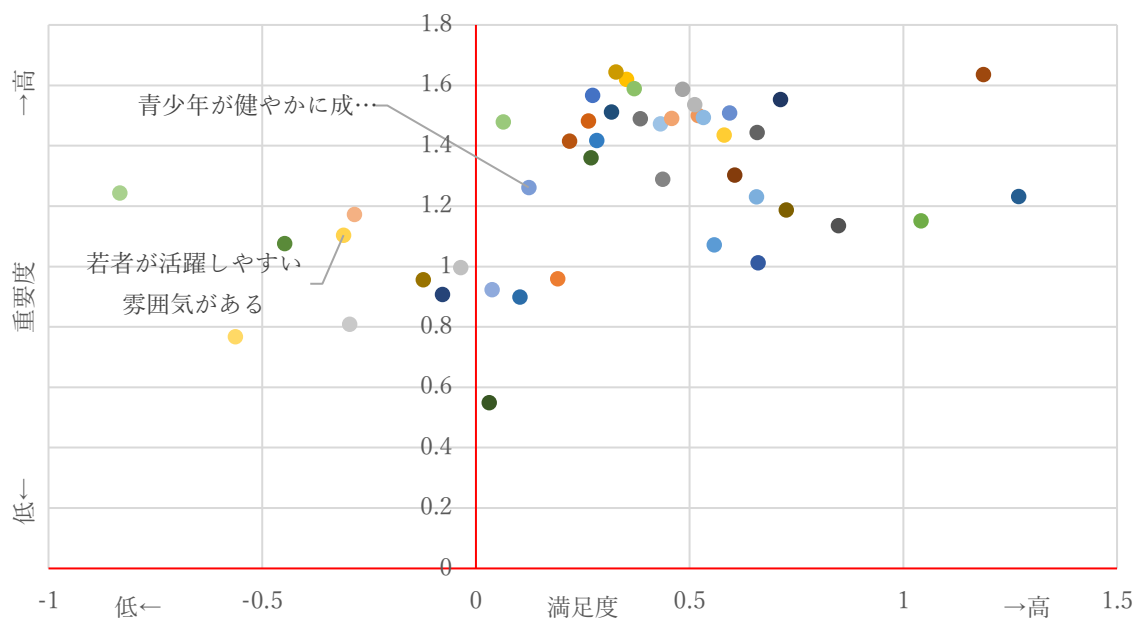


家庭や地域で健全育成のための青少年教育が行われていると感じる市民の割合 (%)



市内一斉あいさつ運動の参加者数 (人)

【満足度・重要度】

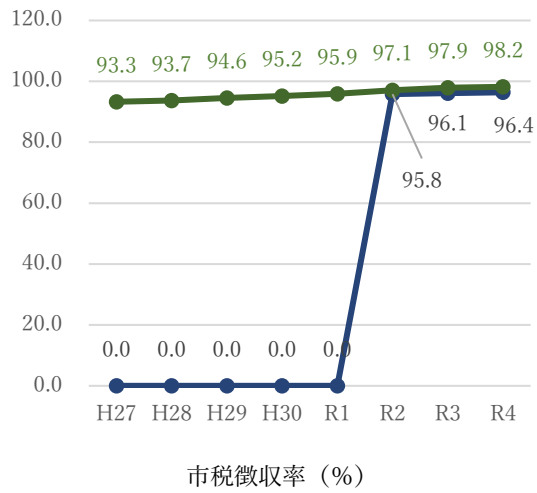
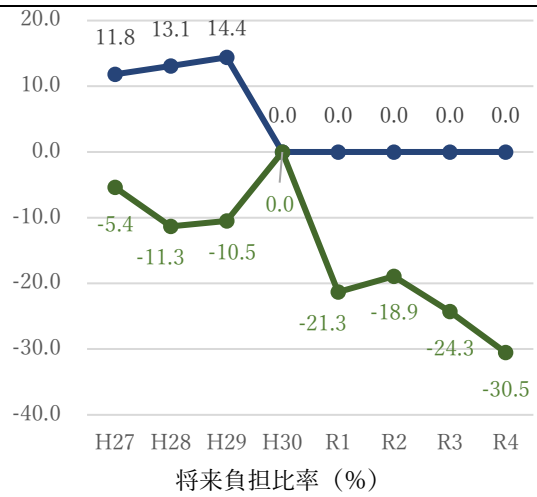
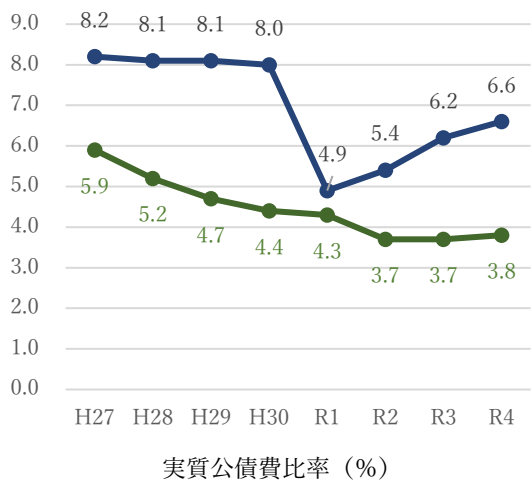


2.6. 未来をひらく経営型行政運営の形成

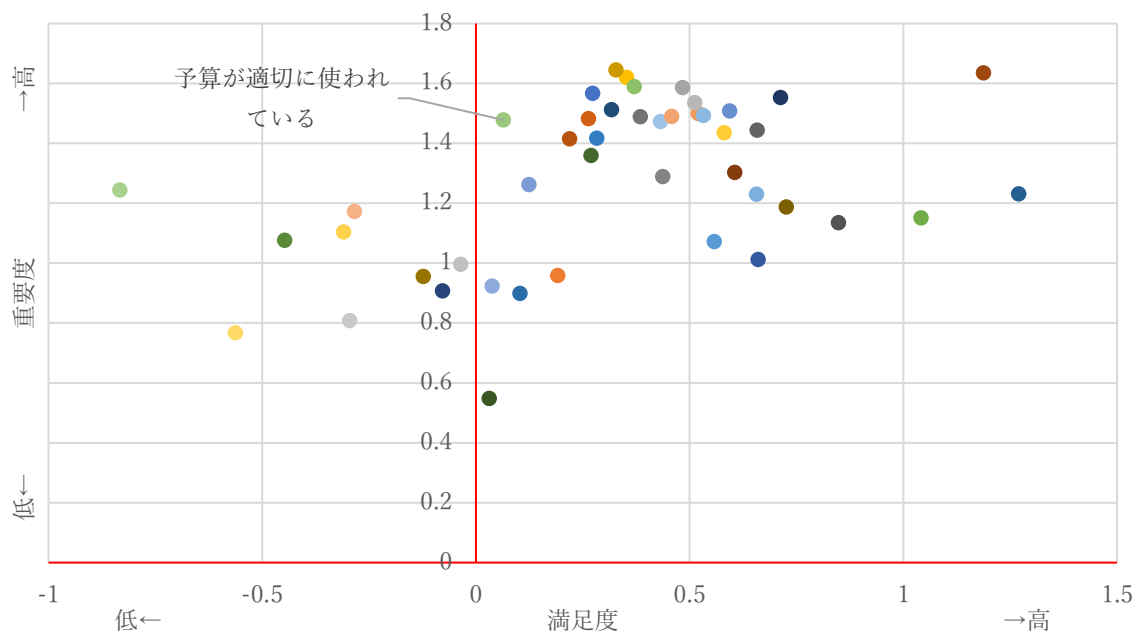
2.6.1. 健全な財政の維持

【目的】	市の財政の健全性が維持される
【基本方針】	◆ 積極的な財源の確保と行財政改革の推進により、健全財政の維持を図ります。
【基本事業】	○ 自主財源の確保 ○ 歳出構造の見直しによる歳出の抑制
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none">・ 財政健全化比率は良好、実質公債費比率も計画数値を下回り、将来負担比率についてはマイナス値を維持し、当初の年度計画数値を大きく下回っている。・ 市税の徴収については、滞納繰越分に併せ現年分の徴収強化を継続し、滞納処分に取り組んだ結果、滞納繰越額が大幅に減少した。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none">・ 口座振替の推進と、新たに QR コード対応によるアプリやクレカ等を利用した納付の推進・ ふるさと納税の強化と、寄附に対する基金の創設による用途を明確化した事業の実施・ 財政収支見通の早期策定と、職員へ周知、共通認識の醸成
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none">・ 市の財政改善などを高く評価している。・ 市庁舎をリフォームで対応したことにより多額な無駄遣いをしなかったことが、現在の財政健全化の土台のひとつになっているのではないか。

【成果指標】 目標値 実績値



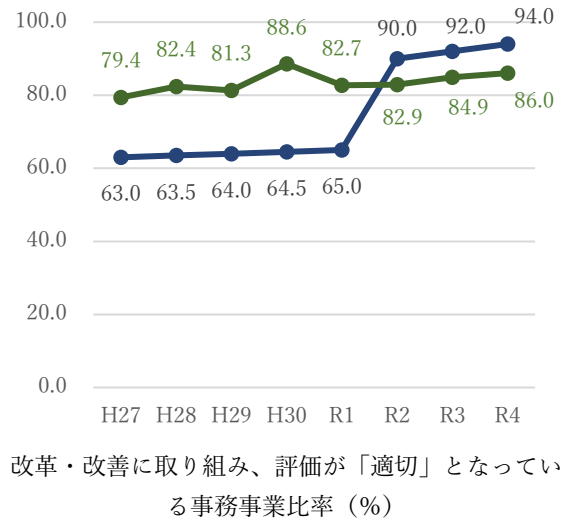
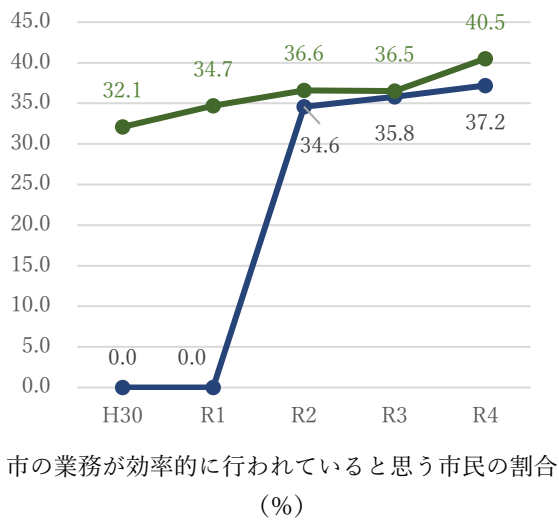
【満足度・重要度】



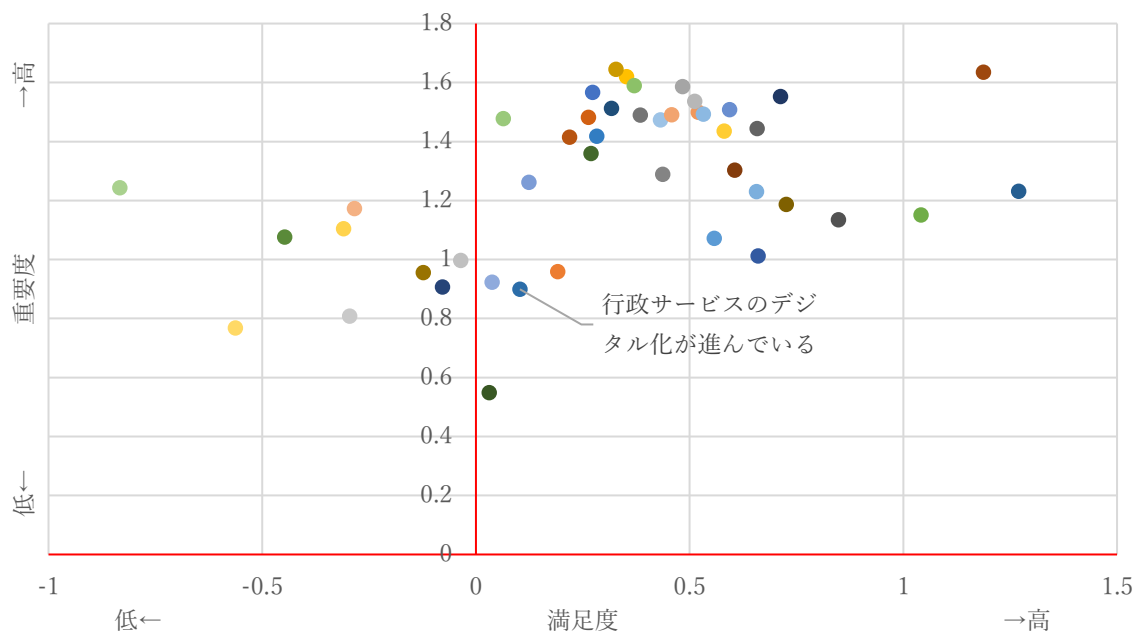
2.6.2. 時代に合った行政サービスの実現

【目的】	市の行政機能が公平で効率的なサービスを提供できる
【基本方針】	◆ 多様化するニーズに対応した市民目線の行政サービスの提供と、効率的な行政運営の両立に努めます。
【基本事業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公共施設の適正管理 ○ 事務事業評価の活用 ○ 民間活力の導入
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の業務が効率的に行われていると思う市民の割合については、毎年実績値を着実に上昇させることを目標としている。 ・ 改革・改善に取り組み、評価が「適切」となっている事務事業比率については、事務事業の評価を丁寧に進めつつ、更なる成果向上に取り組む。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理施設については、コロナ禍や物価高騰を踏まえ、時代に即した新たな施設管理運営方法を検討 ・ 各事務事業担当課で、事業が抱える課題を共有し、それに基づいた改革改善
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 類似する施策事業を異なる部署が行っているが、それぞれがばらばらであり市民から見ると分かりにくい。また、効率的・効果的にサービスや情報の提供を行う上で、こうした縦割りの弊害が出ているのではないか。 ・ 市民からみて市のHPが分かりにくい。 ・ デジタル化はある程度は進んでいると思うが、結局住民側も紙ベースの方が使いやすい場合もある。また、デジタル化が進むことによるリスクも知っていく必要がある。 ・ 外国人の住民が増加する中で、行政の書類を理解するのが難しいといった問題が生じていることから、多様性への配慮が必要ではないか。

【成果指標】 目標値 実績値



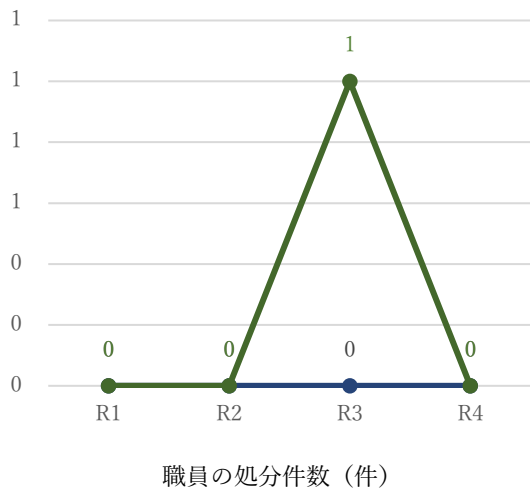
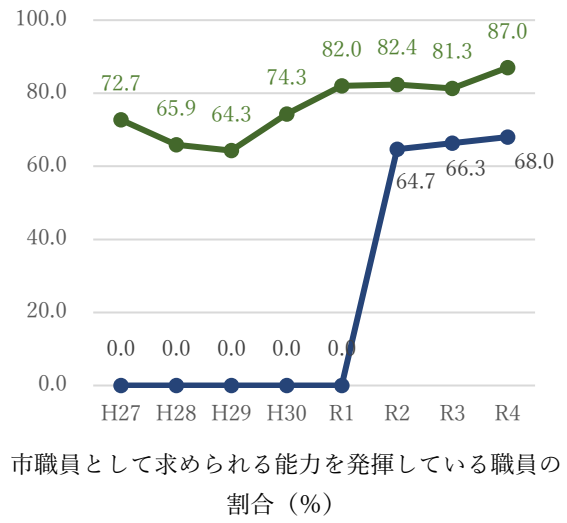
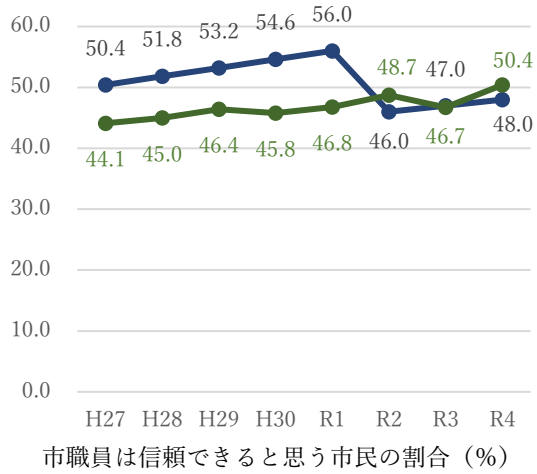
【満足度・重要度】



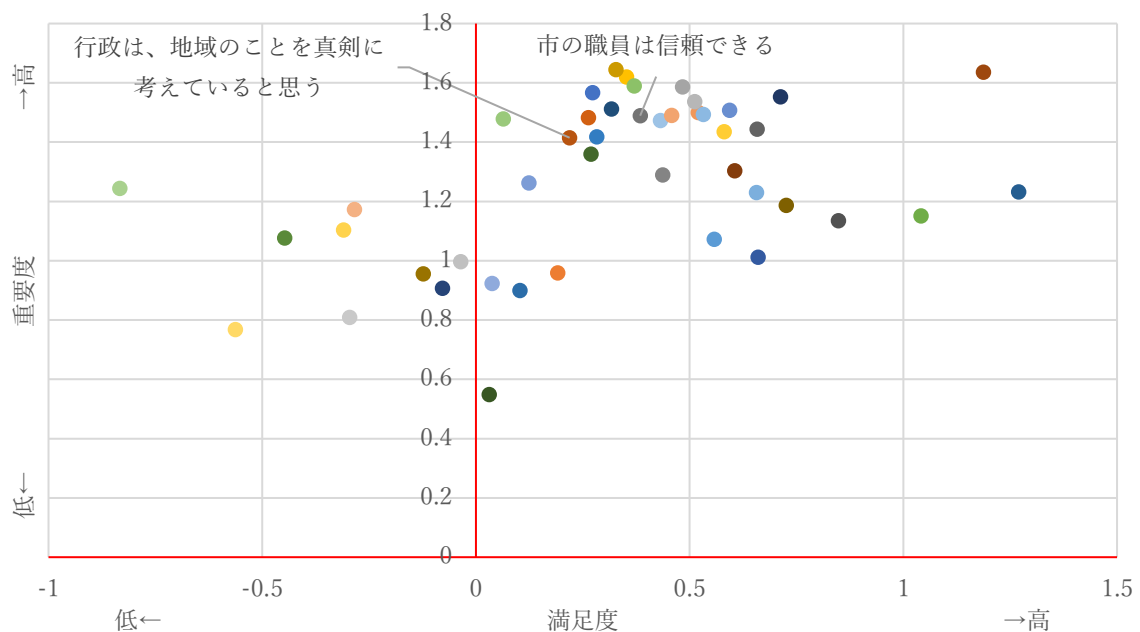
2.6.3. 職員資質の向上

【目的】	市の職員が、市民から信頼される
【基本方針】	◆ 人材育成基本方針に基づき、職員の能力開発を行い、市民から信頼される職員を育成します。
【基本事業】	○ 職員研修の充実 ○ 人事評価の適正な運用 ○ 適正な人事管理の推進
【施策の現状】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市職員は、信頼できると思う市民の割合、市職員として求められる能力を発揮している職員の割合は、いずれも目標値を上回った。 ・ 職員の処分件数は、目標値と同じ0件であった。
【施策の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務量が増加する中で、積極的に職員研修に参加できる環境づくり ・ 新採用職員の受験者数が減少傾向となっているため、受験方法の見直し
【市民の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が地域のことを真剣に考えられているかについては、職員によって差が大きいと感じている。職員がやる気になって行動に移すことが重要である。 ・ 職員の人事異動の際に、業務の引継ぎを十分に行うことが重要である。

【成果指標】 ● 目標値 ● 実績値



【満足度・重要度】



3. これからの南アルプス市

3.1. 問 16：南アルプス市の将来像

(1) 全体

「自然」が 51.6%、「安全・安心」が 48.3%と 5 割前後で特に割合が高く、次いで「健康」が 24.8%、「やすらぎ」が 20.4%、「果樹園・田園」が 20.0%などとなっている。

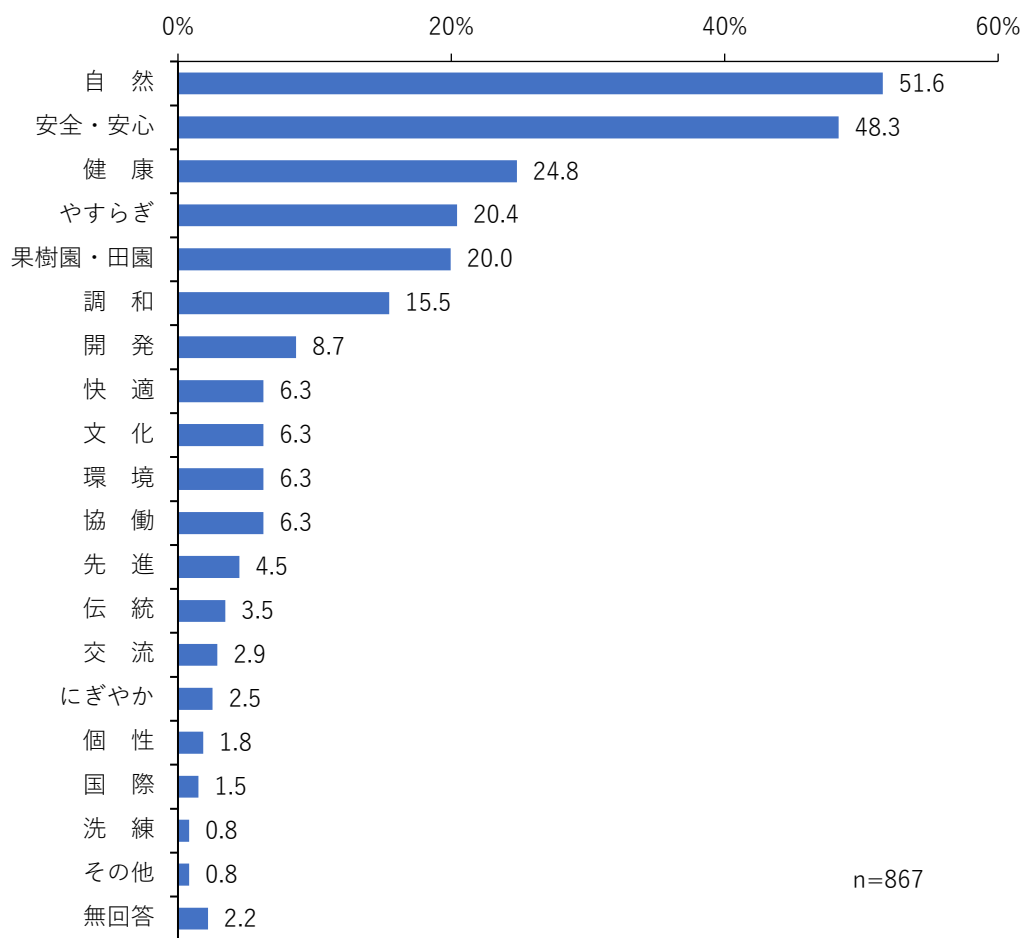


図 30 南アルプス市の将来像 (MA)

(2) 性別

性別で見ると、「開発」、「調和」などの項目において男性の割合が高く、「自然」、「安全・安心」などの項目において、女性の割合が高くなっている。

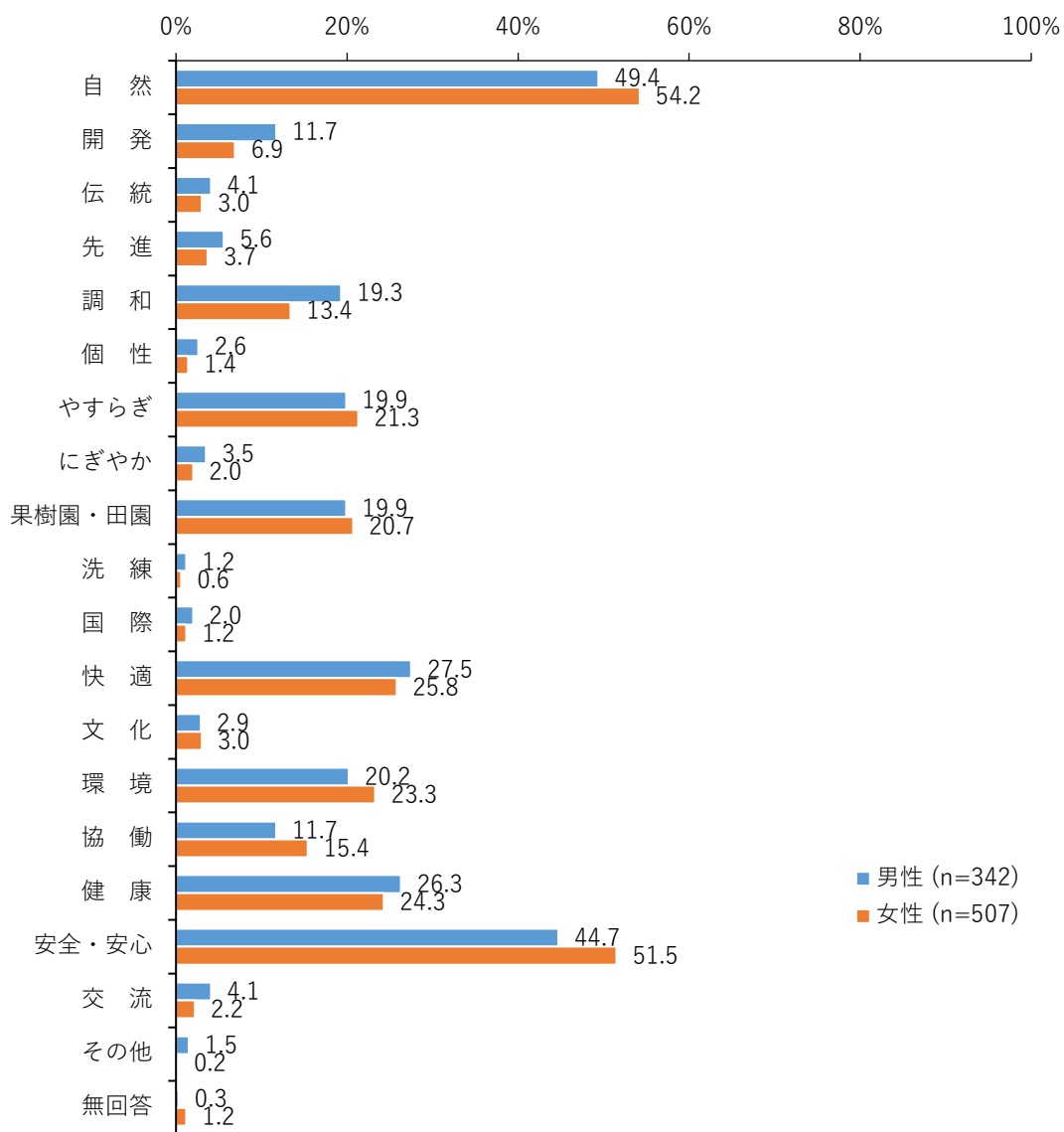


図 31 性別×南アルプス市の将来像 (MA)

(3) 年齢

年齢で見ると、20～29歳で「自然」との回答割合が高いほか、60歳以上において「環境」や「健康」との回答割合が高くなっている。

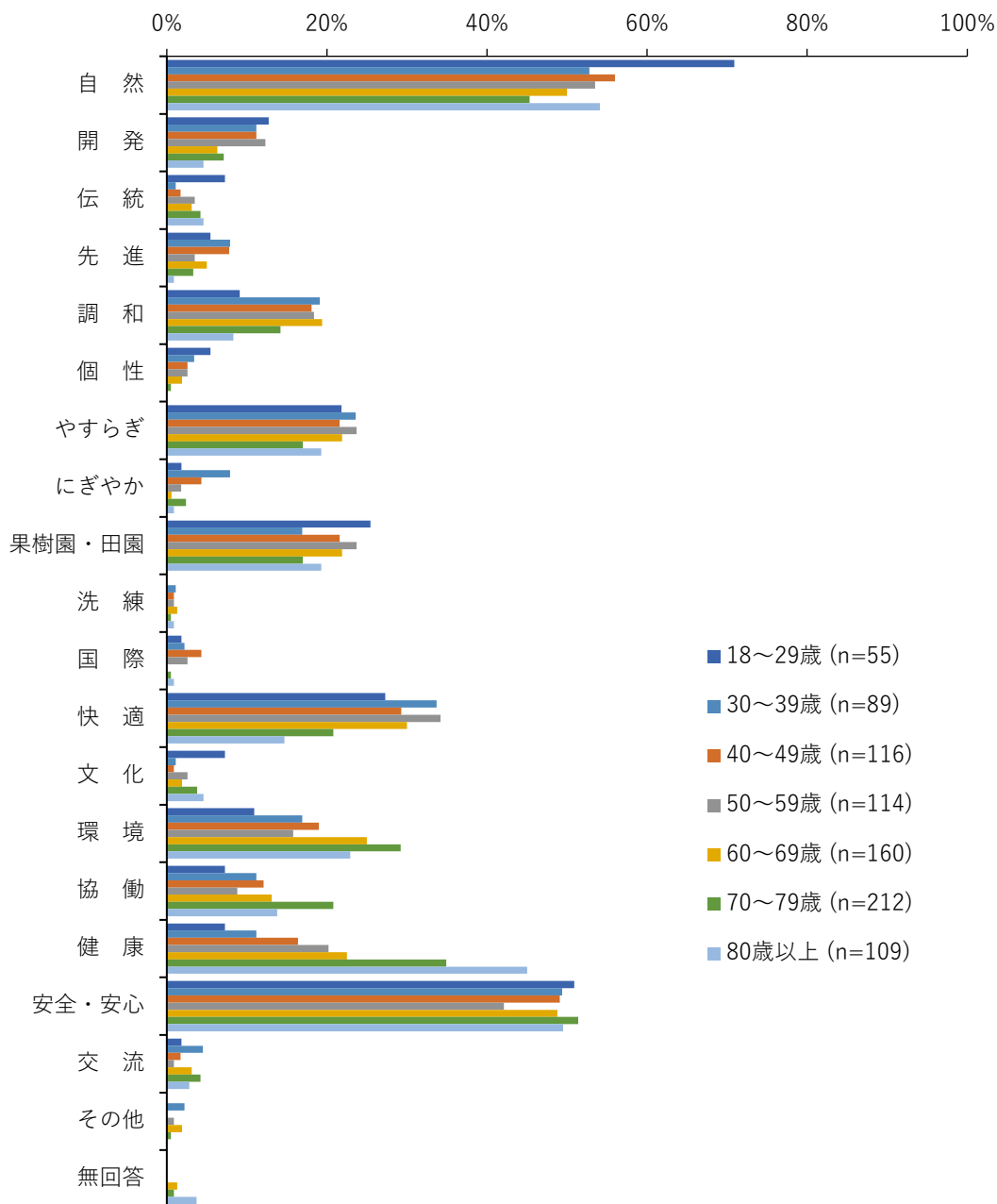


図 32 年齢×南アルプス市の将来像 (MA)

(4) 居住地区

居住地区でみると、大きな差異は見られないが、「果樹園・田園」において白根地区の割合が比較的高くなっている。

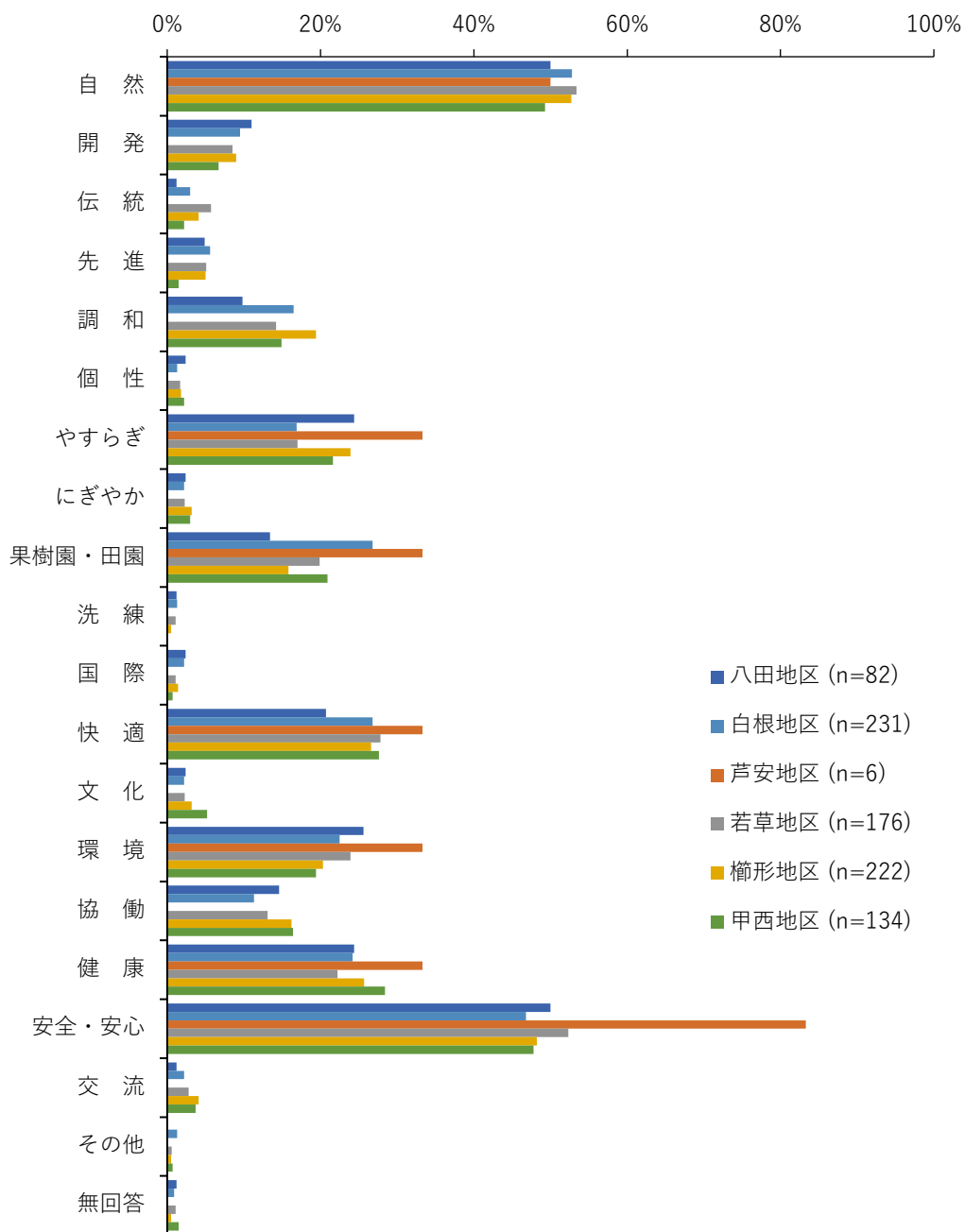


図 33 居住地区×南アルプス市の将来像 (MA)

3.2. 問6：10年後の幸福度

(1) 全体

10年後の幸福度の平均は6.3点であり、現在の幸福度の平均である6.8点よりも0.5点低下している。点数別では、8点との回答が大幅に低下する一方で、5点との回答が大幅に増加するほか、4点以下の割合もそれぞれ増加している。

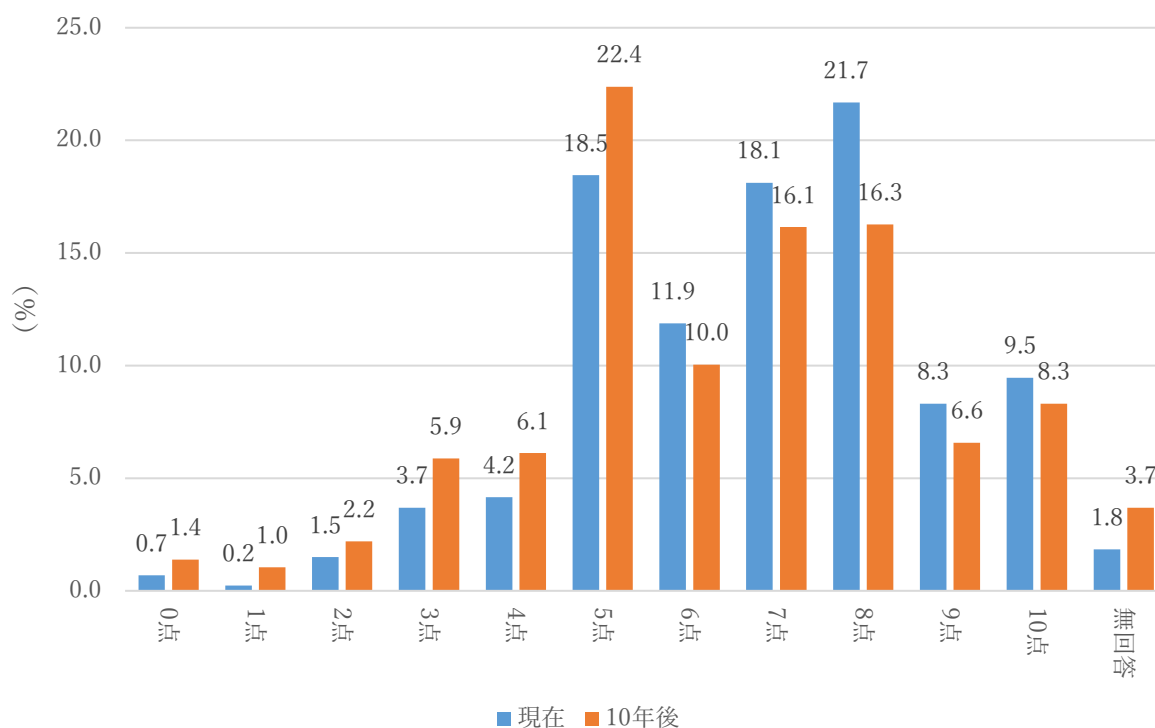


図 34 10年後の幸福度（現在との比較）

(2) 性別・年齢・家族構成・居住地区・居住年数別

回答者の属性別でみた場合、性別では女性、年齢では高齢になるにつれて、居住年数が21年以上などにおいて、それぞれ10年後の幸福度が低くなる傾向が顕著にみられることから、これらの属性において、特に将来に対する不安が大きいと考えられる。

一方で、20～30歳代、居住年数が1～10年については、現在よりも幸福度が高くなっている。

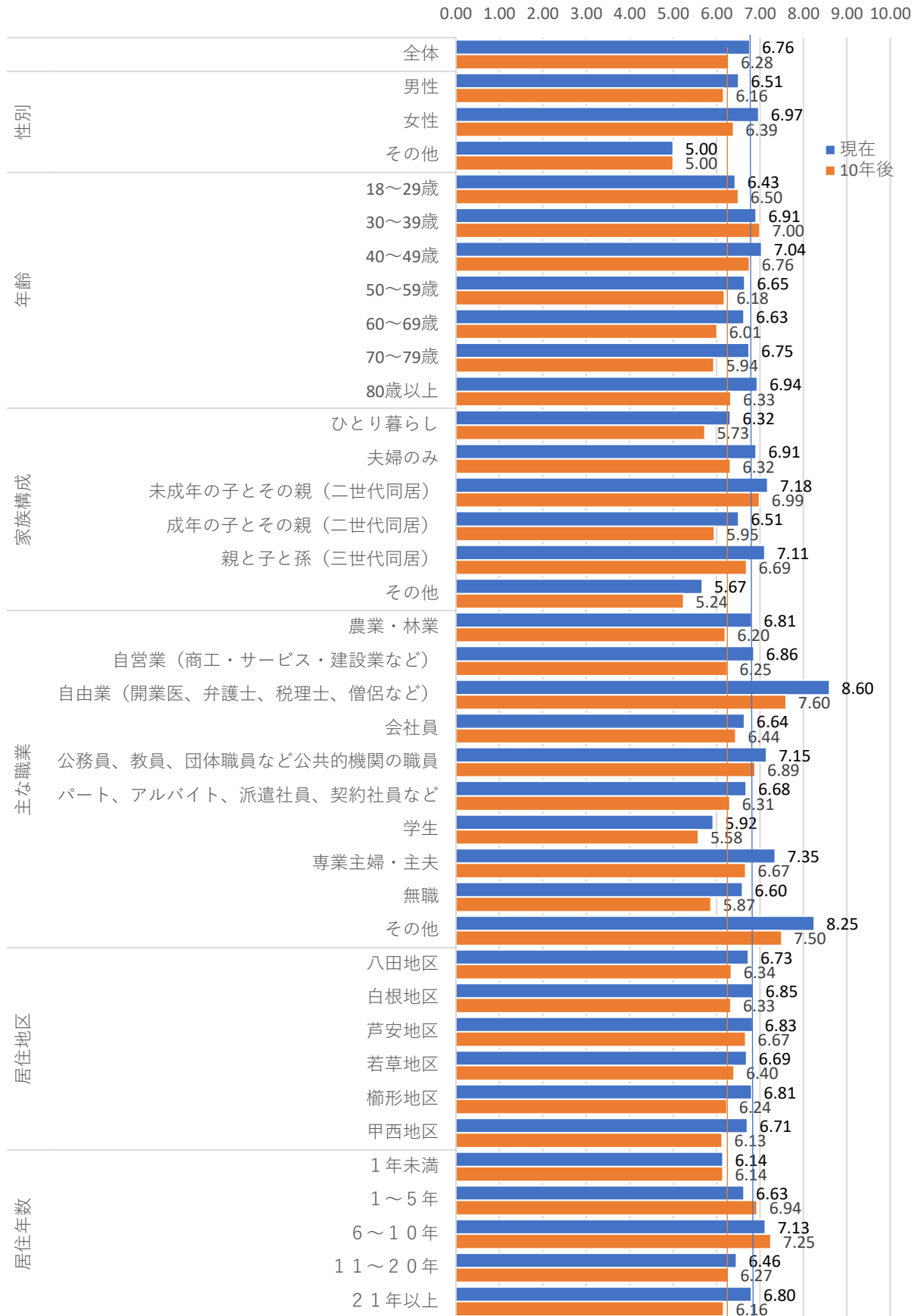


図 35 10年後の幸福度（性別・年齢・家族構成・居住地区・居住年数）

3.3. 問 12～14：土地利用

3.3.1. 開発による影響

(1) 全体

「南アルプス IC 周辺の開発やリニア開通により本市にどのような影響があると思うか」を聞いたところ、「都市化が進行することによる混雑・騒音・治安の悪化」が 51.9%と最も多く、環境の悪化を心配する意見がある一方で、「市民の生活利便性の向上（買い物、移動など）」が 45.8%で 2 番目に高い割合となっており、開発に期待する声もある。

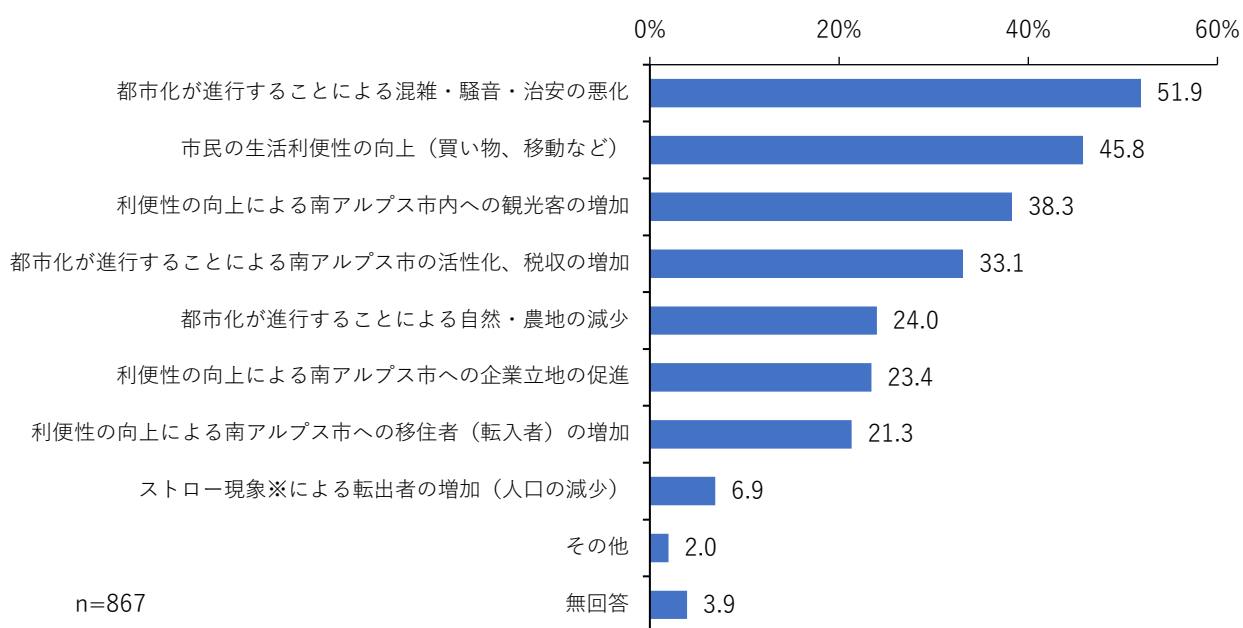


図 36 開発による影響 (MA)

(2) 年齢

年齢が低くなるにつれて、「市民の生活利便性の向上（買い物、移動など）」や「利便性の向上による南アルプス市内への観光客の増加」などのプラスの回答の割合が高くなる一方で、30歳代では「都市化が進行することによる混雑・騒音・治安の悪化」の割合が最も高くなっている。

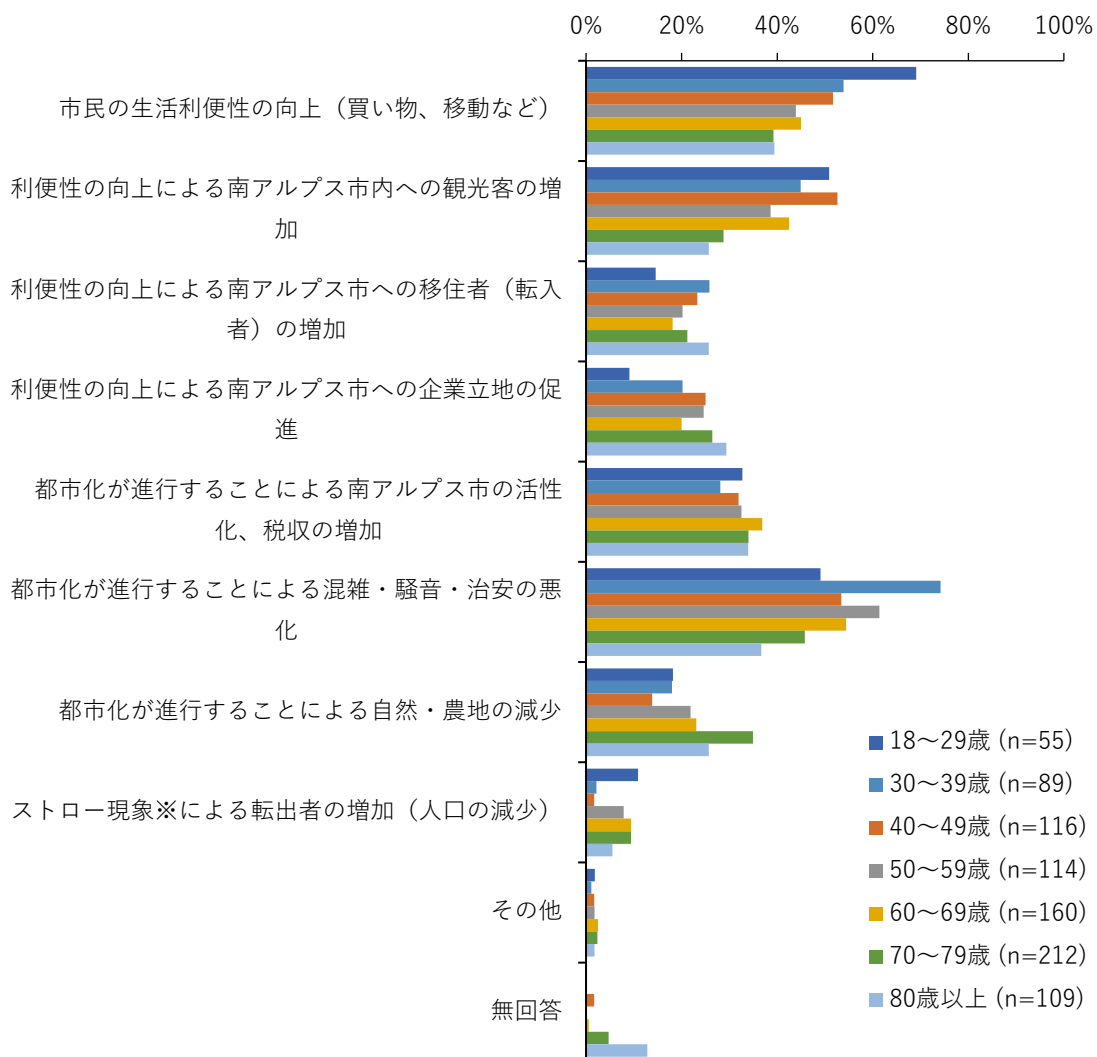


図 37 年齢×開発による影響 (MA)

(3) 居住地区

居住地区で大きな違いはみられないものの、若草地区では、「利便性の向上による南アルプス市への移住者（転入者）の増加」の割合が比較的高くなっている。

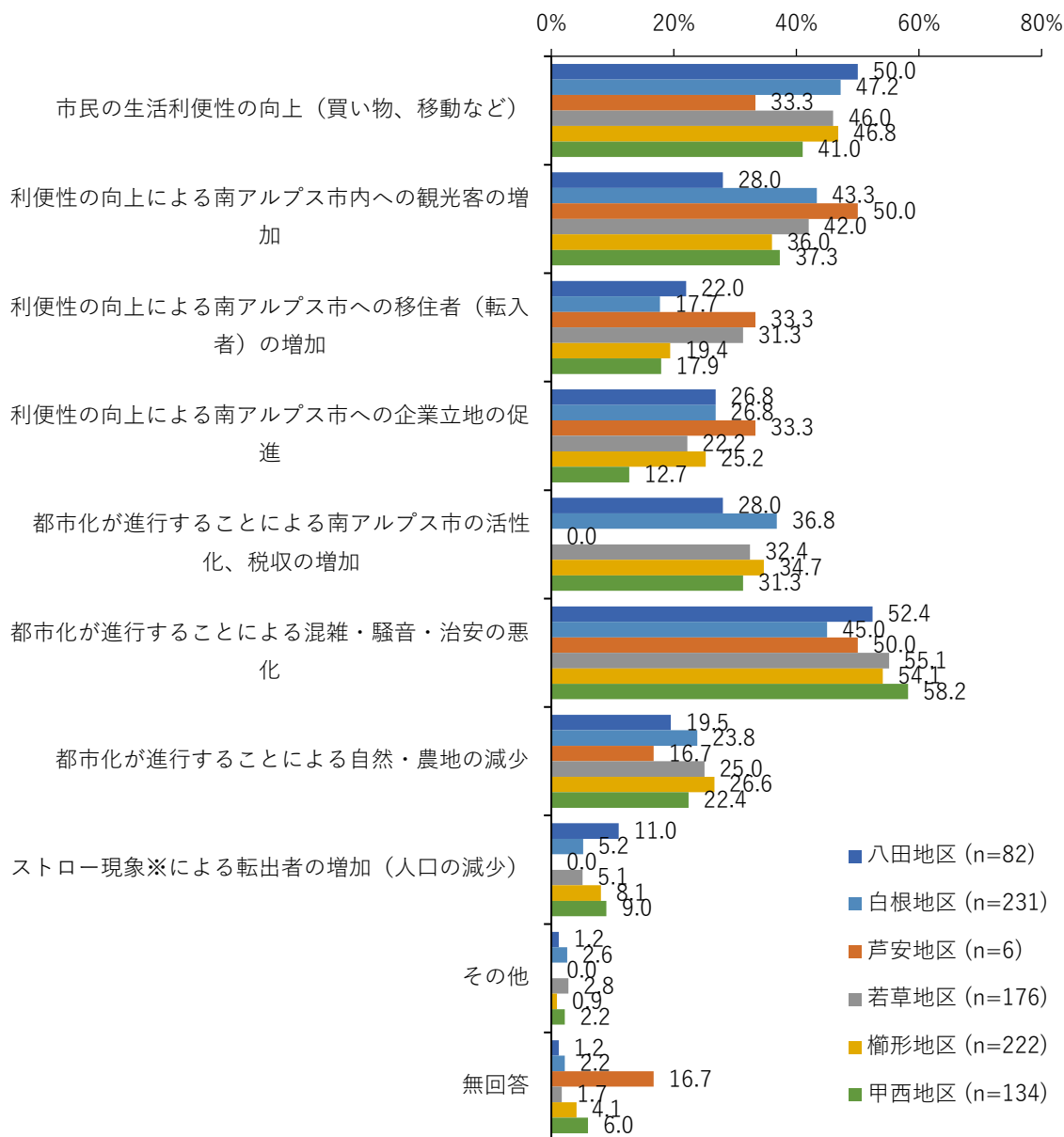


図 38 居住地区別×開発による影響 (MA)

3.3.2. 土地利用のあり方

(1) 全体

「南アルプス市の土地利用のあり方について望ましいと思う方向性」を聞いたところ、「農地を保全し、農業生産の機能が発揮できるよう努める」が 34.7%と最も高く、次いで「公園や緑地を拡大し、生活環境の向上を図る」が 30.8%、「道路用地を確保し、生活道路や幹線道路網の整備を進める」が 29.5%となっている。

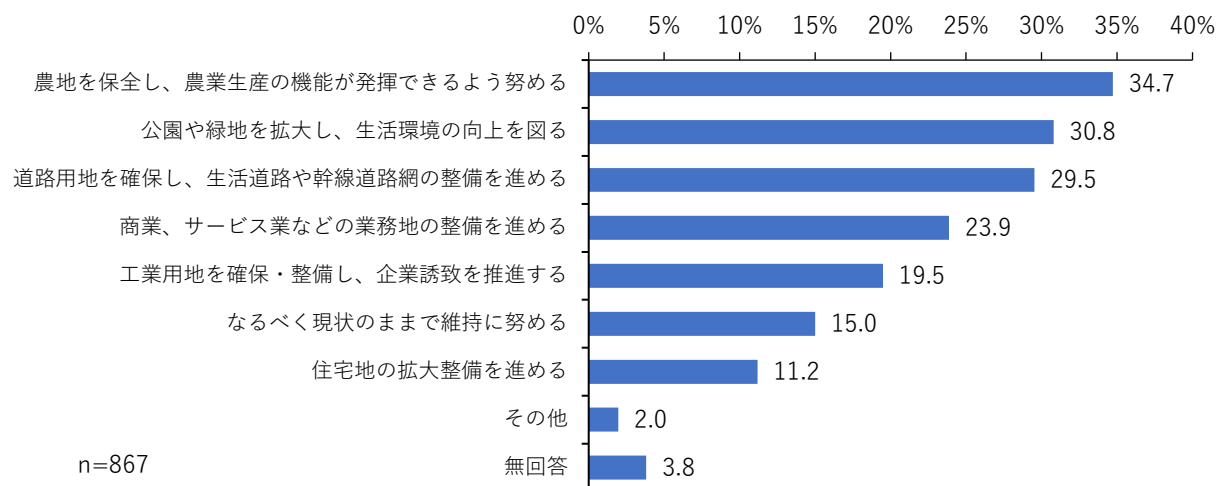


図 39 土地利用のあり方 (MA)

(2) 性別

性別でみると、「道路用地を確保し、生活道路や幹線道路網の整備を進める」、「工業用地を確保・整備し、企業誘致を推進する」などの項目において男性の割合が高く、「農地を保全し、農業生産の機能が発揮できるよう努める」などの項目において、女性の割合が高くなっている。

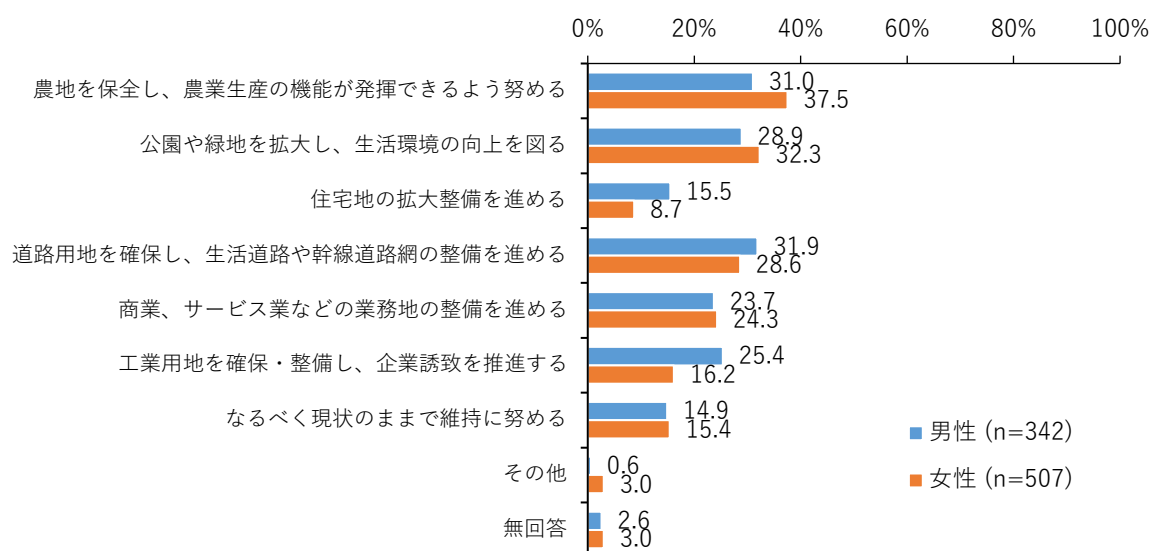


図 40 性別×土地利用のあり方 (MA)

(3) 年齢

年齢でみると、20～40歳代において「商業、サービス業などの業務地の整備を進める」、30歳代で「公園や緑地を拡大し、生活環境の向上を図る」の割合がそれぞれ高くなっている。一方で、80歳以上では、「農地を保全し、農業生産の機能が発揮できるよう努める」の割合が最も高い。

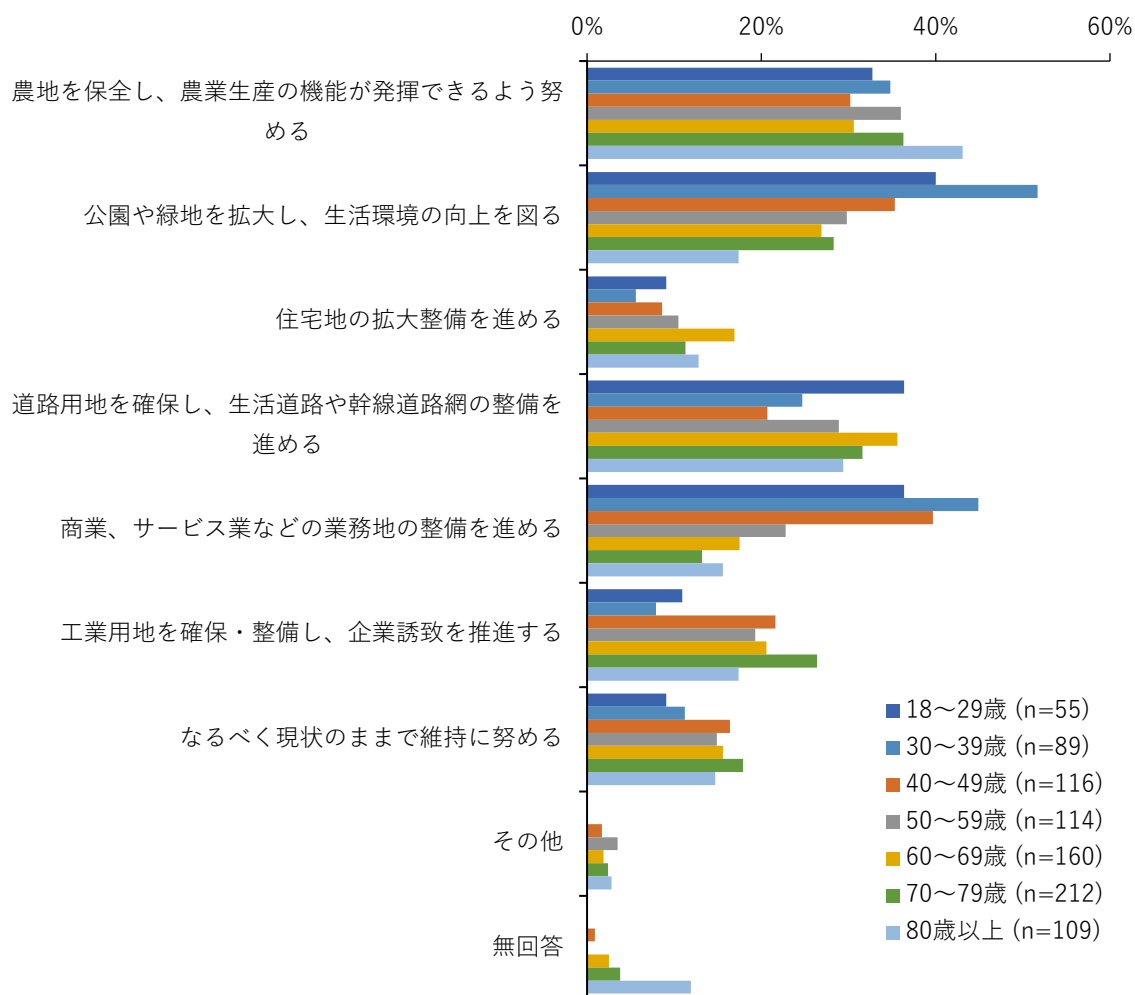


図 41 年齢×土地利用のあり方 (MA)

(4) 居住地区

居住地区でみると、大きな差異は見られないが、「工業用地を確保・整備し、企業誘致を推進する」について、若草地区や甲西地区の割合が低くなっている。

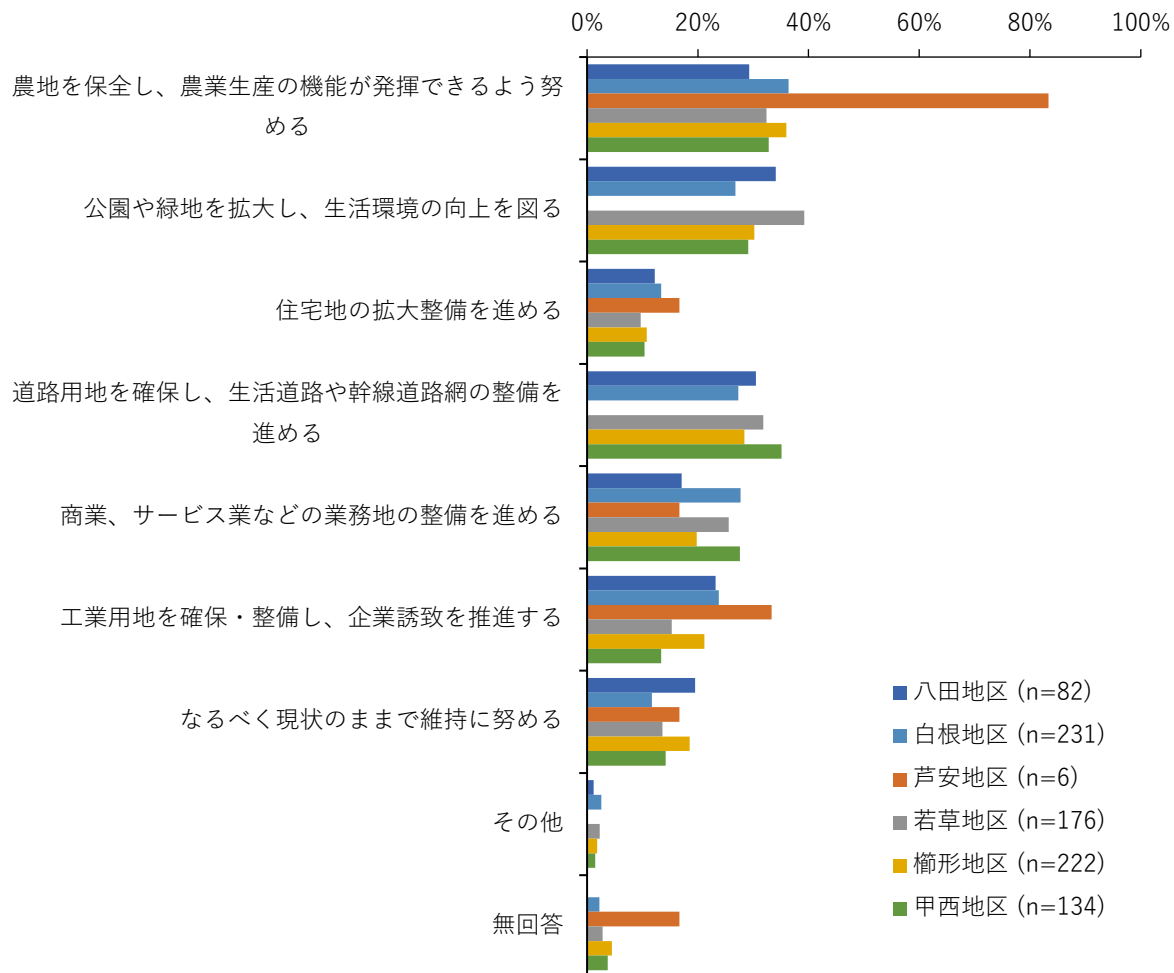


図 42 居住地区×土地利用のあり方 (MA)

3.3.3. これからの農地の方向性

(1) 全体

「これからの農地の方向性」について聞いたところ、「優良な農地は保全するが、それ以外の農地は生活の利便性のため宅地化されてもやむを得ない」が 39.1%で最も多く、次いで「現在の農地は、できるだけ守り、残していくべきである」が 25.7%、「優良な農地を含め、周辺道路の整備等により開発の可能性がある農地については、宅地化して住宅や業務用地などに利用することもやむを得ない」が 22.3%となっている。

「優良な農地は保全するが、それ以外の農地は生活の利便性のため宅地化されてもやむを得ない」を含めた開発を容認する意見は、全体の 6 割以上を占める一方で、農地を保全すべきとの意見も 3 割以上となる。

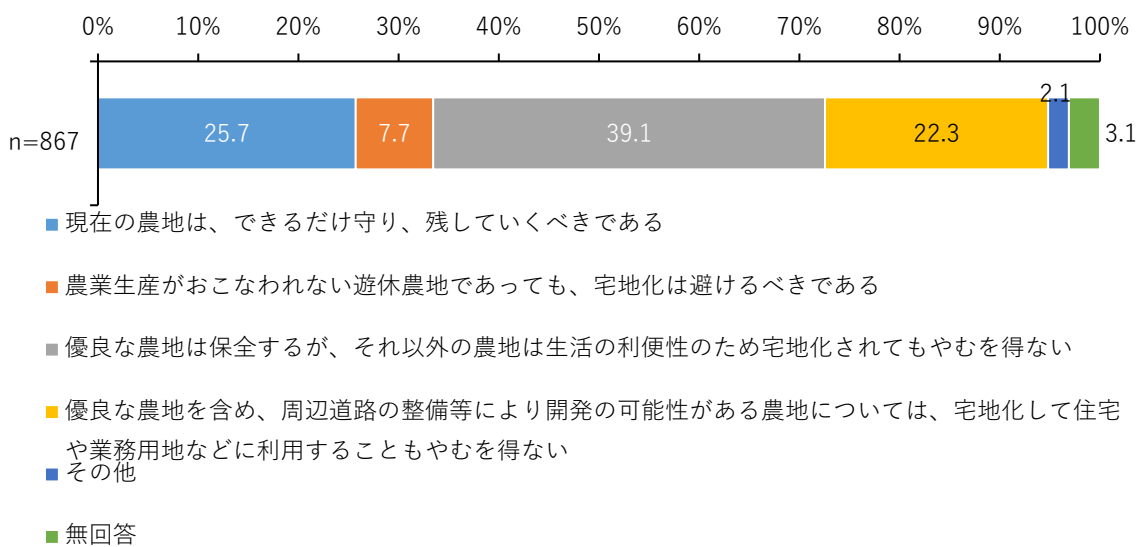


図 43 これからの農地の方向性 (SA)

(2) 性別

性別でみると、男女で大きな差異はみられなかったが、男性において「優良な農地を含め、周辺道路の整備等により開発の可能性がある農地については、宅地化して住宅や業務用地などに利用することもやむを得ない」割合が比較的高くなっている。

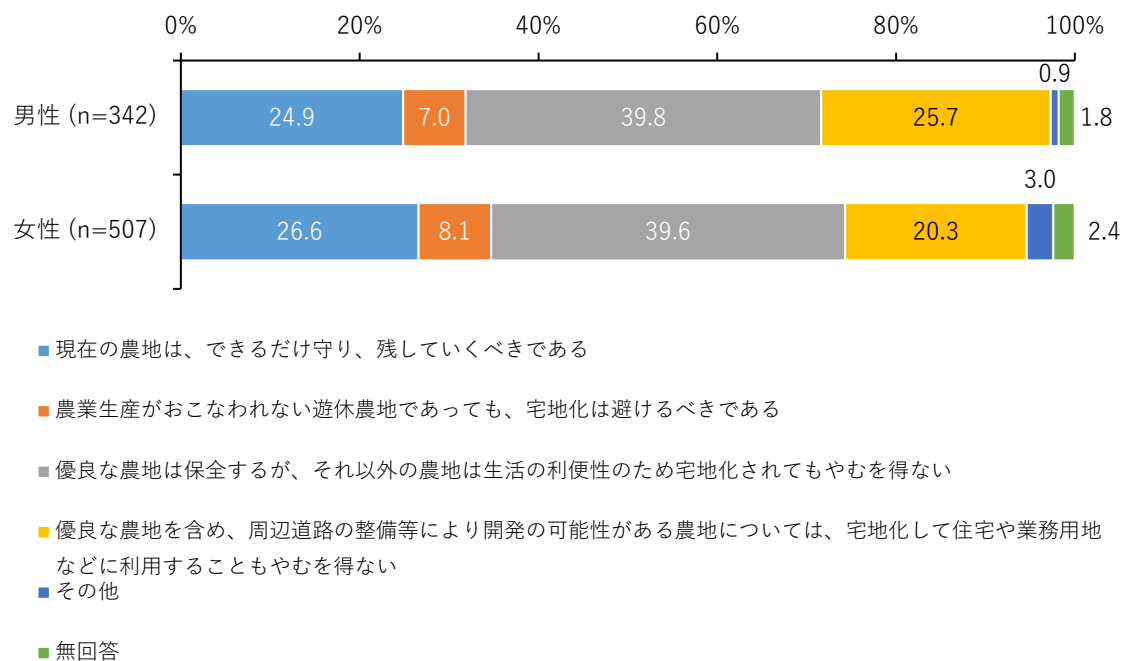


図 44 性別×これからの農地の方向性 (SA)

(3) 年齢

年齢で見ると、いずれの年齢でも「優良な農地は保全するが、それ以外の農地は生活の利便性のため宅地化されてもやむを得ない」の割合が最も高くなっているものの、70歳以上では、他の世代と比較してやや低い割合となっている。

また、「現在の農地は、できるだけ守り、残していくべきである」については、50代の割合が最も高い反面、60歳代の割合が特に低くなっている。

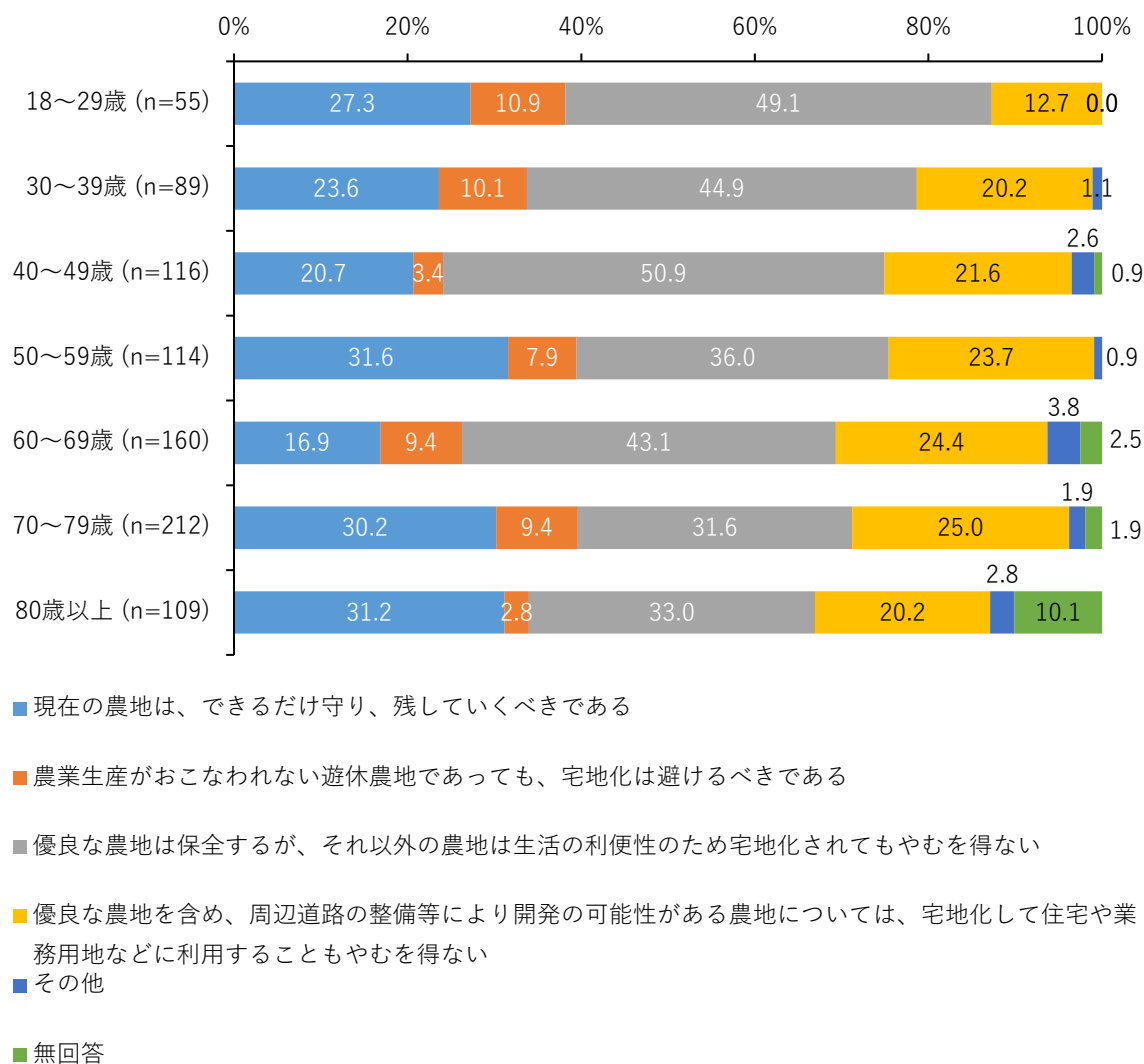


図 45 年齢×これからの農地の方向性 (SA)

(4) 居住地区

居住地区でみると、甲西地区では、他地域と比較して「現在の農地は、できるだけ守り、残していくべきである」の割合が高く、「優良な農地を含め、周辺道路の整備等により開発の可能性がある農地については、宅地化して住宅や業務用地などに利用することもやむを得ない」の割合が低くなっている。

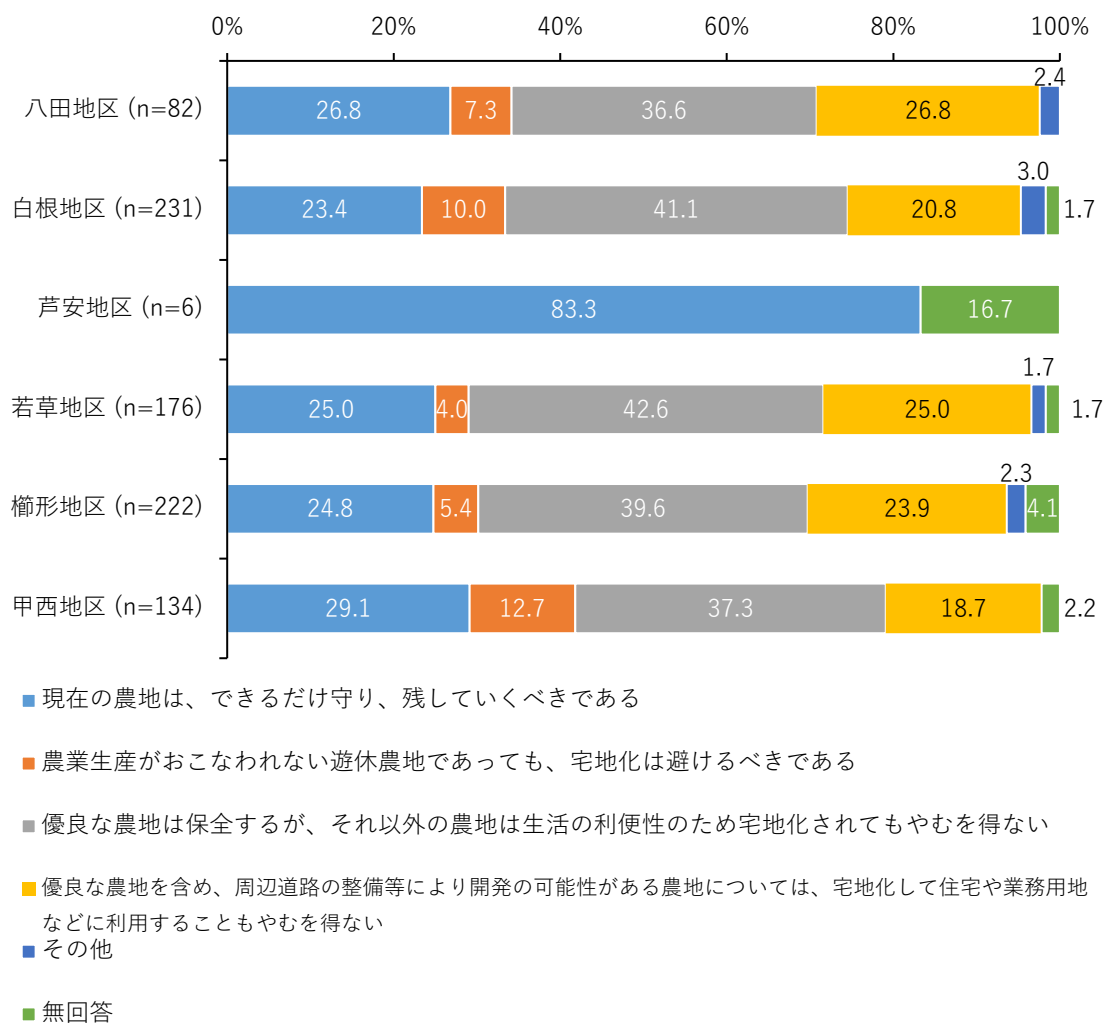


図 46 居住地区×これからの農地の方向性 (SA)

3.4. 子育て

(1) 全体

「これからの子育てにおいて大切だと思うこと」を聞いたところ、「子育てに必要な安定した収入が得られること」が47.8%で最も多く、次いで「安心して出産や母子の医療・保健サービスが受けられる環境が整っていること」が35.9%、「必要なときに子どもを預けられる場所があること（保育園、託児所など）」が34.0%となっている。

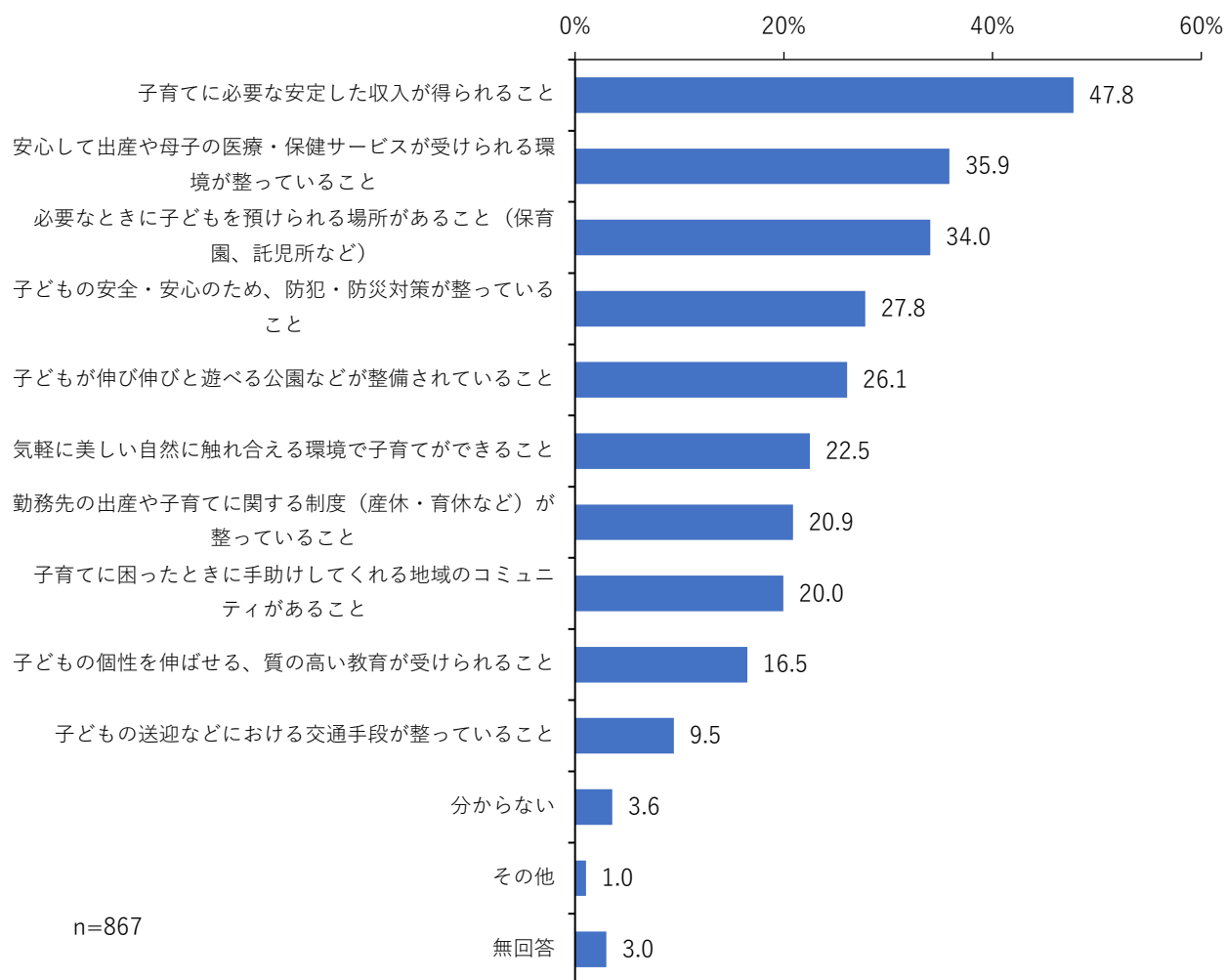


図 47 これからの子育てにおいて大切だと思うこと (MA)

(2) 性別

性別でみると、「気軽に美しい自然に触れ合える環境で子育てができること」、「子どもが伸び伸びと遊べる公園などが整備されていること」、「子育てに必要な安定した収入が得られること」などの項目において男性の割合が高いのに対して、「必要なときに子どもを預けられる場所があること」、「子育てに困ったときに手助けしてくれる地域のコミュニティがあること」、「子どもの安全・安心のため、防犯・防災対策が整っていること」などの項目において、女性の割合が高くなっている。

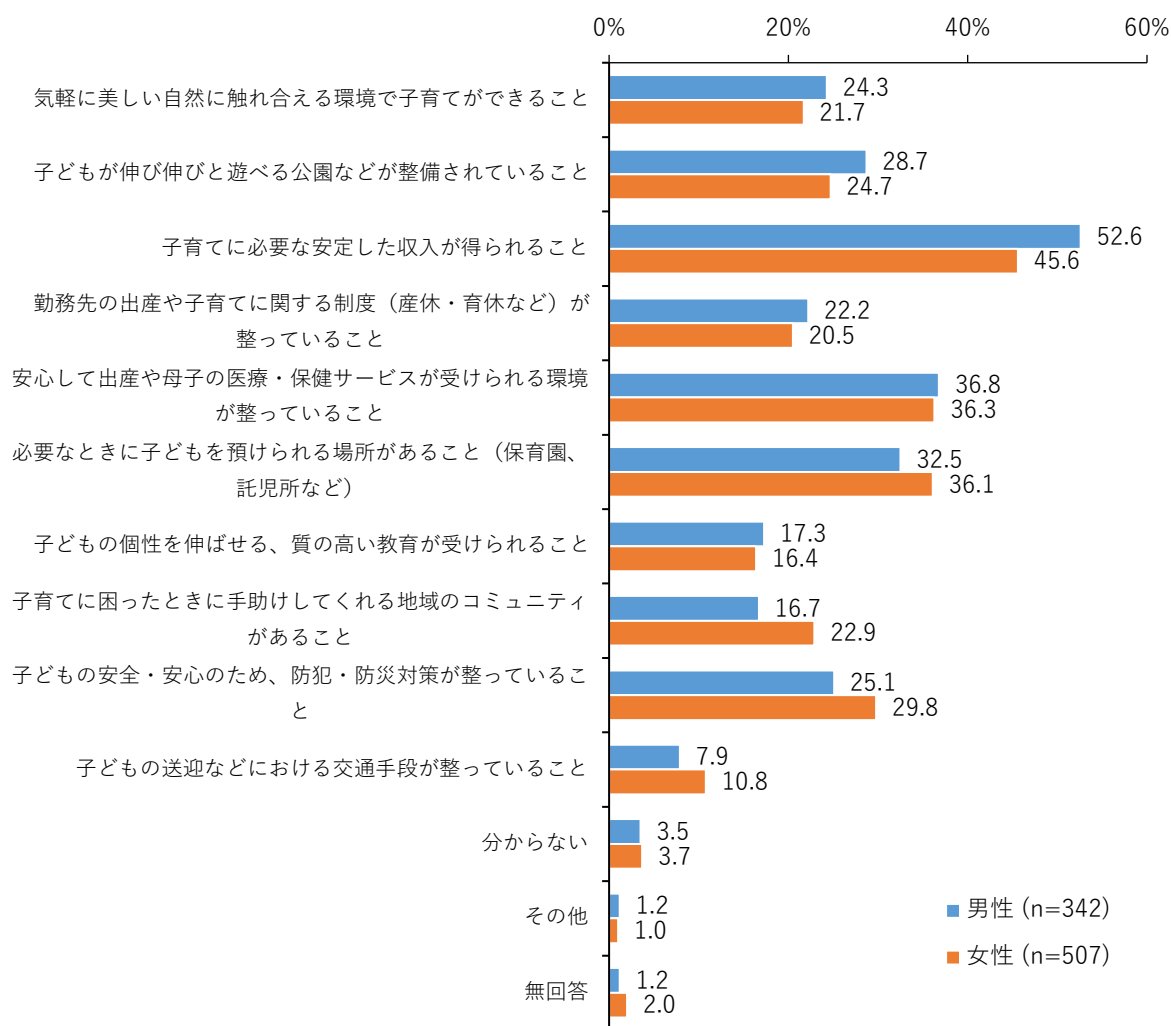


図 48 性別×これからの子育てにおいて大切だと思うこと (MA)

(3) 年齢

年齢で見ると、40歳代までは「子育てに必要な安定した収入が得られること」、30歳代までは「勤務先の出産や子育てに関する制度（産休・育休など）が整っていること」、また30歳代では「子どもの安全・安心のため、防犯・防災対策が整っていること」の割合がそれぞれ高くなっている。

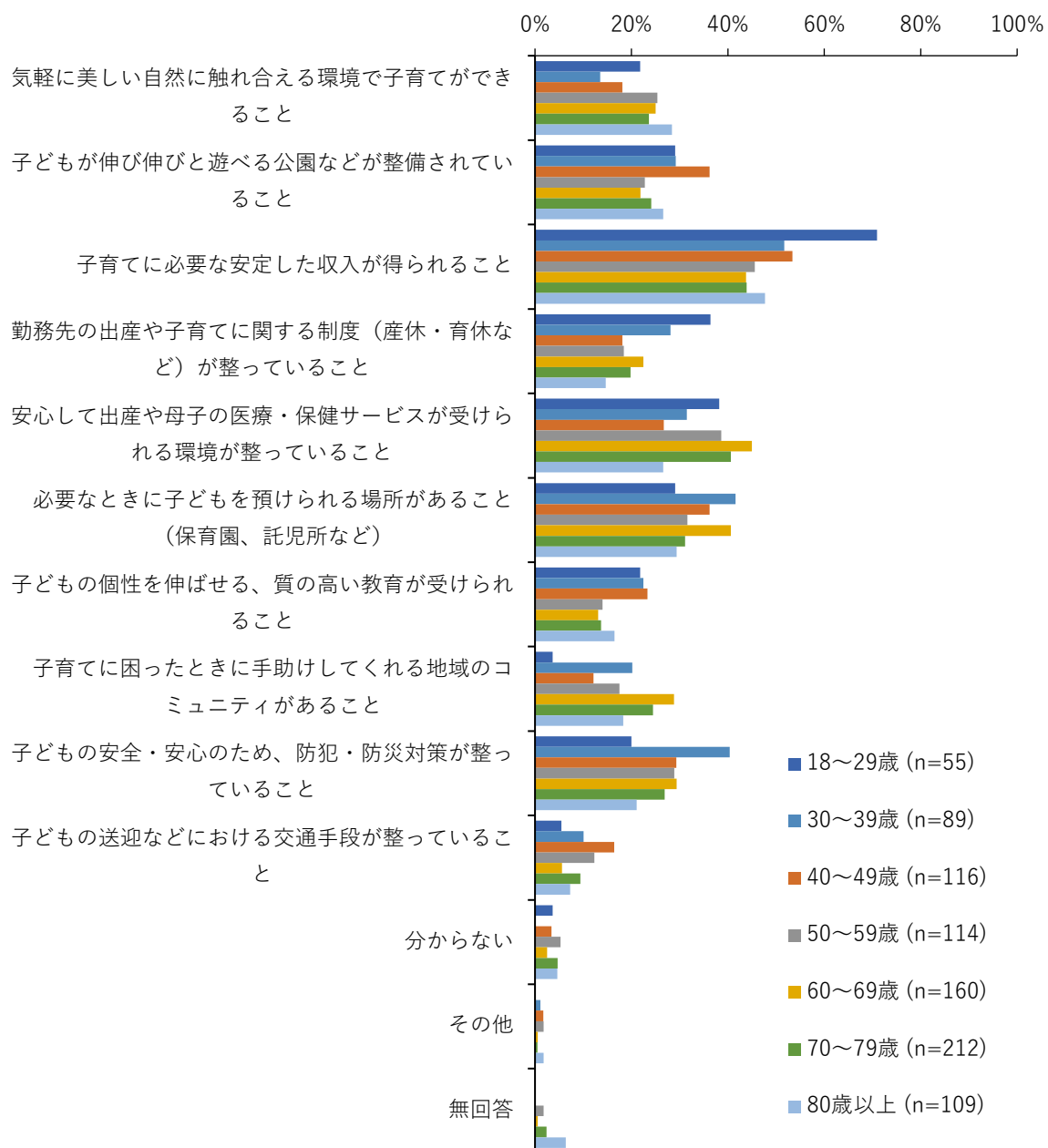


図 49 年齢×これからの子育てにおいて大切だと思うこと (MA)

(4) 家族構成

子育て世代となる「未成年の子どもとその親」では「子育てに必要な安定した収入が得られること」、「子どもの安全・安心のため、防犯・防災対策が整っていること」の割合が比較的高くなっている。また、祖父母と同居する子育て世代のいる「親と子と孫」を含めると、「子どもが伸び伸びと遊べる公園などが整備されていること」、「子どもの個性を伸ばせる、質の高い教育が受けられること」の割合が比較的高くなっている。

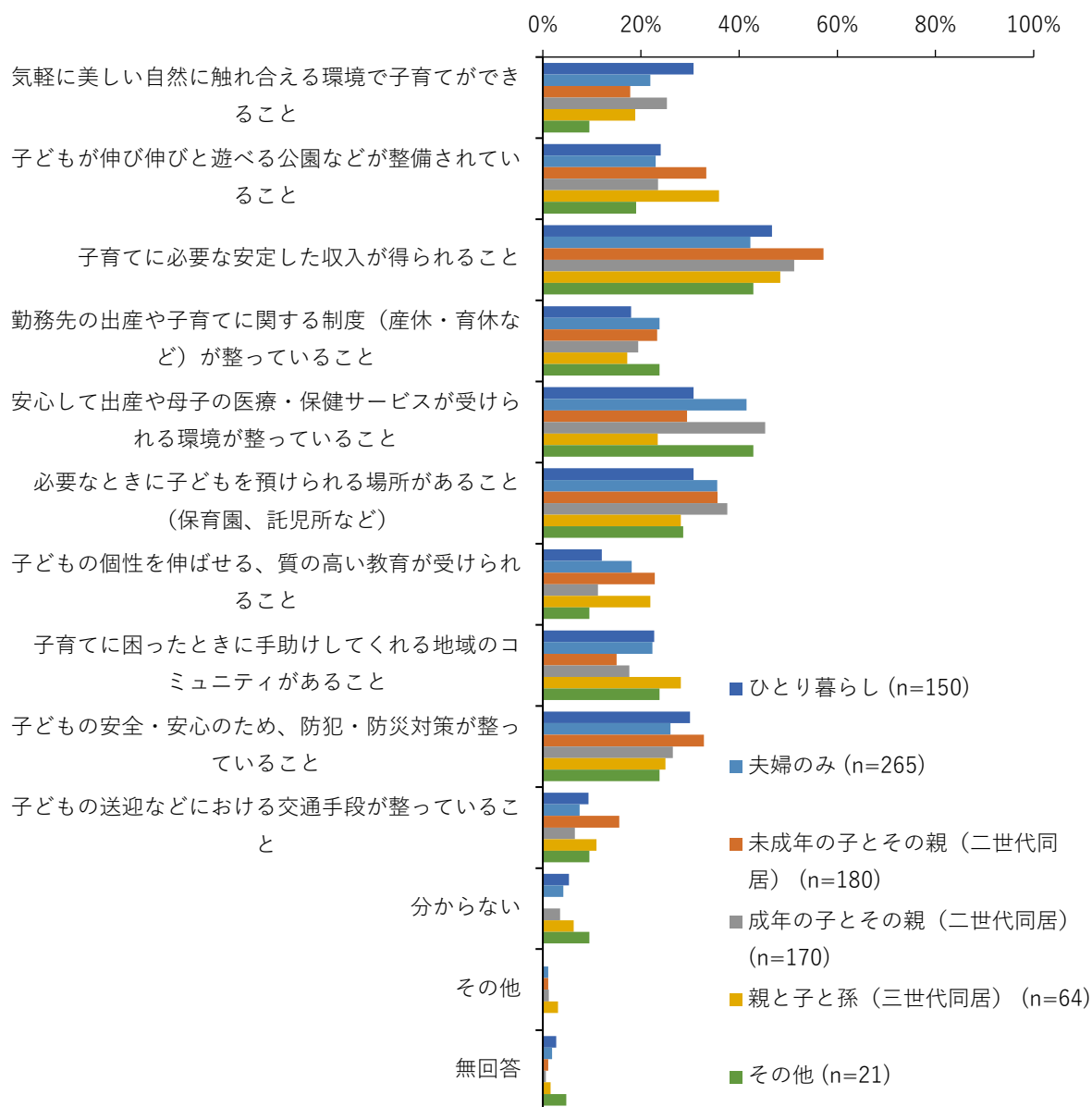
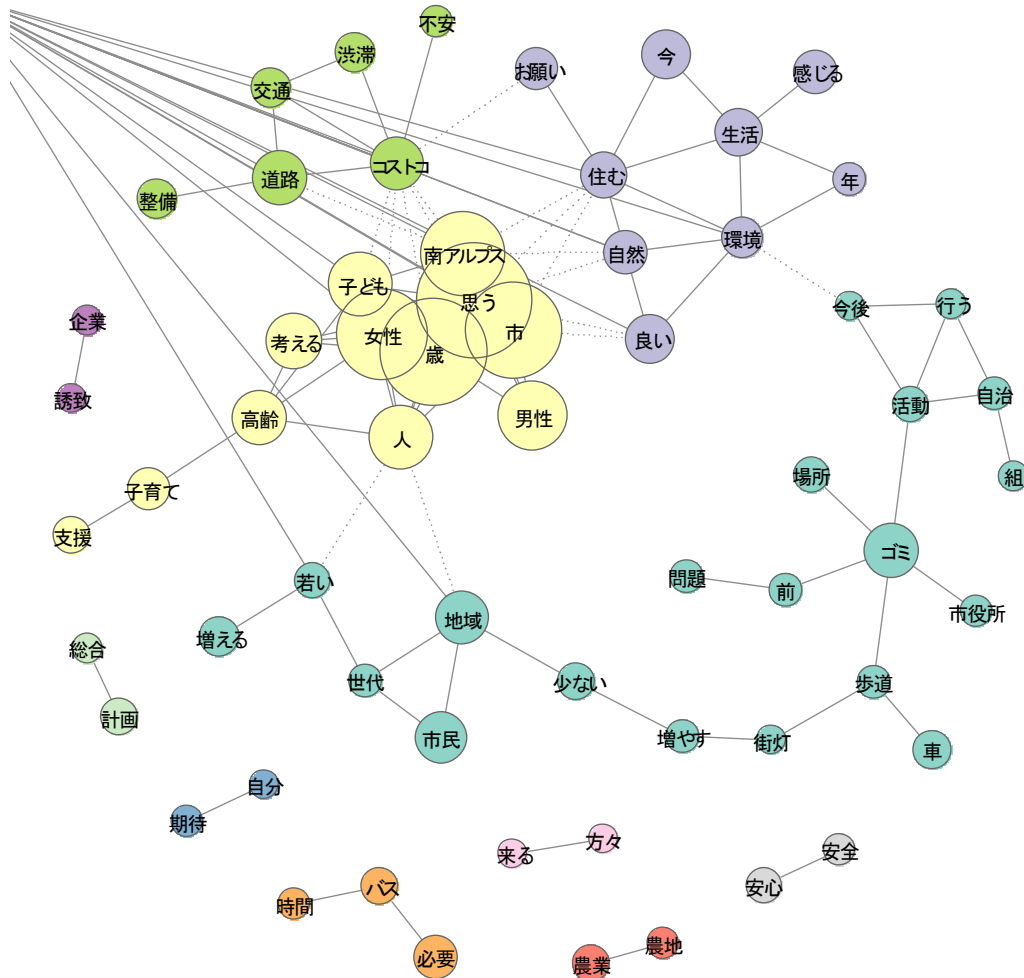


図 50 家族構成×これからの子育てにおいて大切だと思うこと (MA)

4. 自由回答

市民アンケートにおける自由回答の内容を、テキストマイニングソフト「KH Corder」の共起ネットワークにより分析を行った結果を以下にまとめる。

その結果、自然環境や生活環境の良さ、大規模店舗の出店による交通渋滞の懸念と道路整備、子育て支援や若い世代の増加、自治会活動やゴミ処理、街灯や歩道の整備などの日常生活に関する問題、公共交通の必要性などが挙げられる。



参考：テキストマイニングソフト「KH Corder」による分析

図 51 自由回答の共起ネットワーク

- 「テキストマイニング」とは、
テキストを対象にデータ解析をする手法であり、文章を言語上、意味のある最小単位で区切ることで、出現頻度、語句の相関関係などの傾向やパターンなど、有用な知見を抽出する。
- 「共起ネットワーク」とは、
単語同士に関連性や出現パターンの類似性を踏まえて、文章中の単語のつながりを可視化したもの。

